

取扱注意

犯罪被害事例集

1999年11月

JICA LIBRARY



J 1155572 (9)

GAA
S C

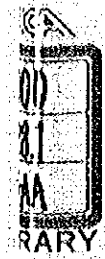
国際協力事業団

総務部安全管理課

犯罪被害事例集

国際協力事業団

総務部



犯罪被害事例集

1999年11月

國際協力事業団
総務部安全管理課



115572 [9]

はじめに

世界には、開発途上国を中心に常時5000人を超えるJICA関係者が派遣され、国際協力事業を精力的に推進しています。そのような中で、各国・地域において毎年350人を超える人々がさまざまな犯罪に巻き込まれ、被害に遭う事例も後を絶ちません。

世界でも有数の「治安優良国」であるわが国の生活感覚・安全感覚をそのまま海外に持ち込むと、犯罪の「ソフトターゲット（容易に被害者となりうる人）」となり、最悪の場合には凶悪犯罪に遭って重大な結果を招く可能性も否定できません。海外においては、わが国では想像もつかない犯罪が日常茶飯事のように発生しています。

世界各国ではどのような犯罪が発生し、JICA関係者がどのような被害に遭っているかを知ることによって、安全管理意識をさらに高め、今後のJICA関係者の犯罪被害を減らすための一指針となることを目指し、今般、安全管理課では新たに「犯罪被害事例集」を編纂いたしました。

また、JICAの「安全対策の基本的な構え」を別掲し、本「事例集」とあわせJICA関係者の安全管理意識・危機管理意識がさらに徹底され、犯罪被害が減少することを切に願うものです。

平成11年11月1日
国際協力事業団
総務部安全管理課

目 次

はじめに	3
概 要	5
安全対策の基本	6
平成10年度海外犯罪被害状況(要約)	8

地域別被害事例

アジア	13
アフリカ	43
中南米	81
大洋州	109
ヨーロッパ	129

概要

- 安全対策の基本
 - 平成10年度海外犯罪被害状況(要約)
-

安全対策の基本

1. 自助自救（セルフ・ディフェンス）

JICA本部・現地事務所、現地日本大使館等は、常にJICA関係者、在留邦人の安全対策に万全を期すよう鋭意努力しておりますが、5,000人を超す在外のJICA関係者の一人ひとりへの配慮には限界があります。「セルフ・ディフェンス」はいかなる場合でも安全対策の基本であることを肝に銘じ、日々、注意を怠らないようにすることが肝要です。

2. 無抵抗主義

JICAの安全対策の基本は「無抵抗」です。JICA関係者が遭遇する犯罪被害の大部分は「財産犯罪」で、ほとんどの場合、物をとれば身体への危害までは及びません。

すりやかっぱらいから物を取り返そうと追跡したばかりに返り討ちに遭ったり、侵入した強盗に反抗したために大ケガを負った例は枚挙に暇がありません。「命」と「物」、どちらが大切なのか再認識することが不可欠です。

3. 危機管理意識の持続

危機管理意識は、「時間の経過」とともに、また、「慣れ」によってどんどん風化していきます。「自分だけは」といった自意識過剰も要注意です。「今まで何もなかったから大丈夫」「この国は安全な国」といった先入観から犯罪被害に遭った例も多数見受けられます。

危機管理意識を持続させることは大変ですが、これを怠ると「ソフトターゲット」になってしまい、容易に犯罪被害者となります。

4. 援助関係者としての自覚

援助関係者は「国（政府）」と「国（政府）」との国際協力の実施当事者であり、基本的には協力受益国が「公人」として安全確保の責を負います。従って、JICA関係者が犯罪被害に遭うと、協力受益国は安全管理責任を問われ、重大な場合には国家間の信義の問題にまで発展します。

援助実施当事者であるJICA関係者として、このような問題を引き起こさないためにも、十分な安全管理対策を行う必要があるといえます。

また、援助関係者であるがゆえに「政府への協力者」として犯罪（誘拐、テロ活動等）の標的とならないよう、テロ対策にも注意を払う必要があります。

【安全対策の3原則】**1. 目立たない**

- ・華美な服装、装飾品等には特に気をつけ、周りから目立つことはしない。
- ・ウエストポーチは極力避ける（貴重品の所在を教えている）。
- ・自転車・車輜等も目立つ物は持たない。

2. 行動を予知されない

- ・通勤・通学・外食・買物等のルート、時間をパターン化しない。
- ・行動予定を不用意に周囲に漏らさない。
- ・外部の者との接触には、使用人も含め慎重を期す。

3. 用心を怠らない

- ・時間の経過にともなう現地生活の「慣れ」による、危機管理意識の風化を防ぐ。
- ・自分の周囲・居住地の変化には常に敏感に気を払う。
- ・常に情報を収集し、現在何が起こっているのか正確に把握する。
- ・家族全員で情報を共有し、関係者との情報交換も怠らない。

【犯罪に遭遇する5ケース】

1. 自宅付近での待ち伏せ。
2. 帰宅時に、中にいた犯人と鉢合わせ。
3. 騙されて、あるいは早合点でドアを開ける。
4. 自宅内で異状を感じ、寝室から出て犯人と鉢合わせ。
5. 目覚めたら、枕元に犯人がいた。

【住宅の防犯】**1. 第一次防衛線**

一戸建の外周（塀、門等）、マンションの出入口等。

2. 第二次防衛線

一戸建の家屋周囲（玄関、窓等）、マンションの玄関、外階段等。

3. 第三次防衛線

最後の砦（寝室等）。

平成10年度海外犯罪被害状況（要約）

（平成10年4月1日～平成11年3月31日）

1. 総括と傾向表（未遂を含む）

犯罪発生総数53カ国、被害総数379人（平成9年度：41カ国、361人）。
全在外赴任者中12人に1人の割合で犯罪被害に遭っている。

（1）派遣形態別被害状況（平成9年度との比較） 人（%）

派遣形態	年度	平成10年度	平成9年度
協力隊員		248 (65.4%)	265 (73.4%)
専門家		81 (21.4%)	55 (15.2%)
事務所員		24 (6.3%)	16 (4.4%)
調査団員		12 (3.2%)	14 (3.9%)
シニア海外ボランティア		5 (1.3%)	2 (0.6%)
シニア協力隊員		4 (1.1%)	2 (0.6%)
日系シニア・ボランティア		3 (0.8%)	1 (0.3%)
日系社会青年ボランティア		2 (0.5%)	6 (1.6%)
被害総数		379 (100.0%)	361 (100.0%)

（2）地域別被害状況（平成9年度との比較） 人（%）

地域	年度	平成10年度	平成9年度
中南米		122 (32.2%)	102 (28.3%)
アフリカ		100 (26.4%)	111 (30.8%)
アジア		84 (22.2%)	72 (19.9%)
大洋洲		54 (14.2%)	62 (17.2%)
ヨーロッパ		14 (3.7%)	13 (3.6%)
中近東		5 (1.3%)	1 (0.2%)
合計		379 (100.0%)	361 (100.0%)

(3) 地域別罪種別被害状況

地域	強盗	空巣	居空き	すり	ひったくり	かっぱらい	乗物盗	その他	地域別合計
中南米	29 23.7%	19 15.6%	2 1.6%	37 30.3%	9 7.4%	5 4.1%	8 6.6%	13 10.7%	122 100%
アフリカ	15 15.0%	25 25.0%	12 12.0%	14 14.0%	10 10.0%	6 6.0%	6 6.0%	12 12.0%	100 100%
アジア	5 6.0%	22 26.2%	2 2.4%	21 25.0%	7 8.3%	9 10.7%	2 2.4%	16 19.0%	84 100%
大洋洲	4 7.4%	19 35.2%	9 16.7%	6 11.1%	3 5.6%	7 12.9%		6 11.1%	54 100%
ヨーロッパ		2 14.3%		7 50.0%	1 7.1%			4 28.6%	14 100%
中近東		3 60.0%		1 20.0%	1 20.0%				5 100%
罪種別計	53 14.0%	90 23.7%	25 6.6%	86 22.7%	31 8.2%	27 7.1%	16 4.2%	51 13.5%	379 100%

(4) 派遣形態別罪種別被害状況

派遣形態	強盗	空巣	居空き	すり	ひったくり	かっぱらい	乗物盗	その他	形態別合計
協力隊員	30 12.1%	56 22.6%	16 6.5%	74 29.8%	22 8.9%	22 8.9%	12 4.8%	16 6.4%	248 100%
専門家	16 19.8%	25 30.9%	7 8.6%	3 3.7%	5 6.2%	3 3.7%	3 3.7%	19 23.4%	81 100%
事務所員	6 25.0%	4 16.6%	1 4.2%	2 8.3%	1 4.2%	2 8.3%	1 4.2%	7 29.2%	24 100%
調査団員	1 8.3%	1 8.3%		4 33.3%	2 16.8%			4 33.3%	12 99.9%
シニア海外ボランティア		4 80.0%		1 20.0%					5 100%
シニア協力隊員								4	4
日系シニアボランティア			1 33.3%		1 33.3%			1 33.3%	3 99.9%
日系社会青年ボランティア				2					2
罪種別計	53 14.0%	90 23.7%	25 6.6%	86 22.7%	31 8.2%	27 7.1%	16 4.2%	51 13.5%	379 100%

(5) 犯罪種類(罪種)について

- ①強盗：「自動車強盗」を含む。
- ②空巢：居住人が「不在時」の侵入犯罪。
- ③居空き：居住人が「在宅時」の侵入犯罪。夜間の「忍込み」も含む。
- ④乗物盗：自転車、オートバイ、車輛等の「乗物」そのものを盗む犯罪。
- ⑤その他：「詐欺」「車上狙い」「ホテル荒らし」「暴行」「性犯罪」等を含む。

(6) 留意事項

本統計は、各国JICA事務所等から提出された「犯罪被害報告書」に基づき集計したものであり、犯罪発生の特徴の指針となっているが、犯罪被害に遭いながら同報告書を提出しない事例も散見されるため、本集計の趨勢が地域、国、派遣形態の趨勢を完全に反映しているとはいえない(特に国・地域)。

2. 地域別犯罪傾向

(1) アジア

- ①犯罪総発生件数：84件(専門家31件、協力隊員42件、事務所員2件、調査団員7件、海外シニア・ボランティア2件)
- ②国別ではインドネシア15件、中国14件、ブータン10件が他国に比べ際立って多い。
- ③罪種別では強盗、空巢、居空き、すり、かっぱらい、ひったくり、乗物盗のいずれも発生している。特に目立つものは空巢22件、すり21件。



- ◎人体へ直接被害を及ぼすような凶悪犯罪は他地域に比べ少ない傾向にあるが、インドネシアでの「ピストル強盗」の出現等、犯罪は凶悪化している。
- ◎国により「政治テロ」あり。

(2) アフリカ

- ①犯罪総発生件数：100件(専門家20件、協力隊員67件、事務所員11件、調査団員2件)
- ②国別ではマラウイ26件、ケニア23件、ジンバブエ15件、タンザニア12件が他国に比べ際立って多い。
- ③罪種別では当地域も強盗、空巢、居空き、すり、かっぱらい、ひったくり、乗物盗のいずれもが発生しているが、特に、空巢25件、強盗15件、すり14件、居空き12件が際立っている。



- ◎人体への被害の有無を問わず、あらゆる犯罪が横行している。その主たる原因は「貧困」「無秩序」にあり、生活用品に至るまであらゆる物が犯行目的になる。
- ◎近隣諸国の内紛による難民の流入等にもともなう銃器の流入増が凶悪犯罪の増加に拍車をかけている。また、最近の「自動車強盗」の急増には要注意。

(3) 中近東

- ①犯罪総発生件数：5件（専門家2件、協力隊員3件）
- ②罪種別では、空巢3件、すり、ひったくりそれぞれ1件。



- ◎「イスラム戒律」の影響か一般犯罪もきわめて少ないが、国際協力事業拡大とともに犯罪発生率も上昇傾向。「政治的テロ」「反西欧思想による暴動、犯罪」等に注意が必要。
- ◎イエメンでの外国人を狙った「政治的誘拐」の頻発には要注意。

(4) 中南米

- ①犯罪総発生件数：122件（専門家22件、協力隊員83件、事務所員8件、調査団員1件、日系社会シニア・ボランティア3件、日系社会青年ボランティア2件、シニア海外ボランティア2件、シニア協力隊員1件）。
- ②国別ではボリヴィア20件、ホンデュラス19件、エル・サルヴァドル19件、パラグアイ17件、グアテマラ12件が他国に比べ多い。
- ③罪種別では、当地域では居空きは少ないが、強盗、空巢、すり、かっぱらい、ひったくり等がまんべんなく発生している。目立つものはすり37件、強盗29件、空巢19件と続く。



- ◎銃器を使用した凶悪犯罪の発生が多い。また、「路上犯罪」が多いのも特徴的。最近では、身柄を車ごと拉致し、所持品の強奪はもとより銀行口座からの預金の引き出し、家族への身代金要求といった「簡易誘拐（クイック誘拐）」が増加傾向にある。

(5) 大洋州

- ①犯罪総発生件数：54件（専門家5件、協力隊員42件、事務所員2件、調査団員1件、シニア海外ボランティア1件、シニア協力隊員3件）
- ②国別ではパプア・ニューギニアが27件と圧倒的に多く、トンガ・マーシャル諸島がそれぞれ8件、フィジー5件と続く。
- ③罪種別では、空巢19件、居空き9件、かっぱらい7件と続き、強盗、すり、ひったくり、乗物盗、暴行・傷害等も発生しており、依然として治安の悪さが目立つ。



- ◎従来から「ラスカル」と呼ばれる銃器で武装した強盗団が横行しているが、最近はその犯行が凶悪化、大規模化している。
- ◎「住居侵入盗」が多いのがこの地域の特徴。
- ◎島嶼国がゆえの「閉鎖性」「排他性」に起因する犯罪にも要注意。

3. 安全対策のポイント

(1) 犯罪の凶悪化

強盗等凶悪犯罪の中で、特に銃器を使用した犯罪がアフリカ・中南米・大洋州で激増している。1998年9月の「タンザニア専門家殺害事件」は、その中でも最悪の結果であった。

(2) 安全対策意識の欠如

安全対策意識があれば防げたと推察できる被害が全被害中51%を占めた。特に「侵入盗」の約半数は住居防犯設備の補強で対処可能であり、また、「カギのかけ忘れ」も14%にのぼった。

他方、路上における「不注意」が原因での「すり」「かっぱらい」の犯罪被害が後を絶たない。

「目立たない」「行動を予知されない」「用心を怠らない」は常々注意惹起している安全の3原則であるが、現地での生活に慣れるに従い「意識の風化」により犯罪に遭遇している。今後とも、派遣前研修、巡回指導、安全対策連絡協議会等の場を通じ、さらに嚴重な注意喚起が不可欠。

(3) 「無抵抗」の原則

「かっぱらい」「ひったくり」等の犯罪遭遇時に、盗難物を取り返さんがため犯人を追跡、あるいは抵抗し、逆上した犯人により危害を加えられる例が散見されるが、これは「代替可能物」と「代替不可能物：命」のバランス意識欠如の結果といえる。ケガで済んだ「運のよさ」を再度嚴重に認識せしめる。

JICAの安全対策の基本は「無抵抗」である。

(4) 「日本人」は狙われている

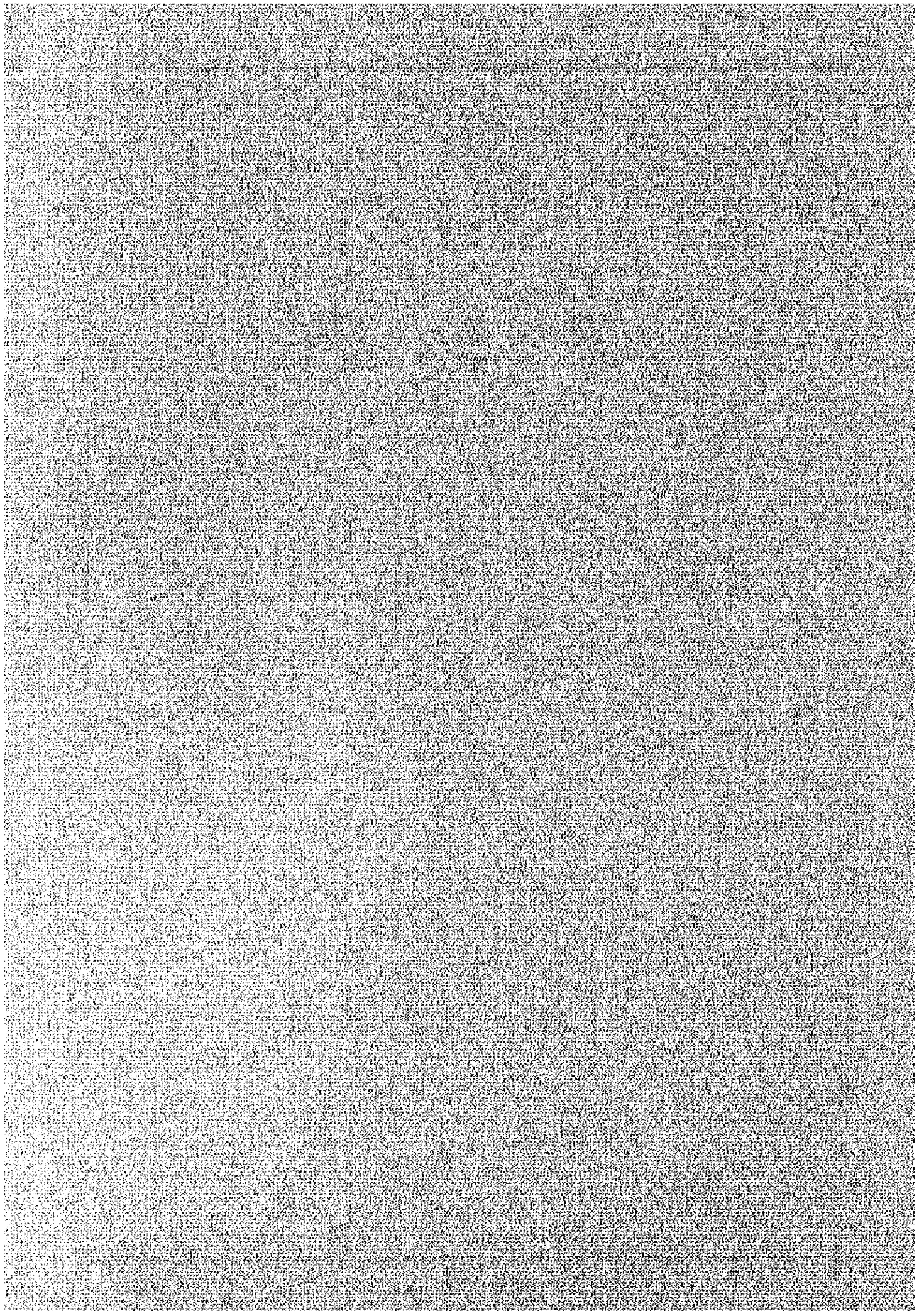
「空巣」「居空き」「強盗」等は、犯人が長時間にわたり被害者の動向を観察した結果発生する犯罪であり、特に最近「金持ち日本人」のイメージが定着し、「日本人」であれば誰でも被害に遭う確率が急激に高まっている。もはや、服装に気を配るだけが犯罪被害を防ぐ手段ではなくなったことを認識することが肝要。


(5) 防犯機器の活用

在外事務所が貸与している「サイレン付メガホン」による犯罪の未然防止例は、これまでも数多く報告されている。また、申請に応じ防犯機器（カギ、防犯灯、防犯ブザー等）を設置している。防犯機器は、犯罪被害時にその効力を発するのみならず、「設置している」という自覚が、無意識のうちに安全対策意識を高揚せしめる効果をもたらす。事務所が貸与する防犯機器のみならず、個々が必要と認める安全対策は率先して実施すべきであることを認識することが不可欠。

以上

ア ジ ア



発生国名	バングラデシュ	犯罪の種類	すり(未遂)
発生場所 市町村名	シラズゴンジ	郊外	バス内
発生日時	平成10年8月13日 午後1時30分頃~午後2時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女  バングラデシュ


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

バブナからボグラに向かうローカルバスの後ろから3番目右の窓際の席に座っていた。乗り物に乗るときは川心して胸のポケットに小銭を入れて財布を出さないようにしているが、たまたま、お金が足りなかったのでバッグから財布を取り出して代金を回収に来たコンダクターに支払い財布を元に戻した(乗車後20分くらい)。当日大金を持っていたので、財布には少額しか入れず、残りの大金をさらに三つに分けてバッグの中に入れていた。バッグの肩かけに腕を通し、体に引き寄せ大きなバッグと自分の体にはさんで、奪われることのないように細心の注意を払っていた。運賃を支払った5分後、隣の席が空き男性が座った。ローカルバスの出入り口の近くだったので混み合っている上、乗降客でごった返していた。直後、近くに立っていた男性が私の横の窓を乱暴に開けたり閉めたりしてきた。そのたびに私の頭を腕で殴るような形となり、注意しても無視され10分ほどそんな状態が続いた。そしてさらにおおい被さり吐く様子を見せ始めた。隣の男性も怒り激しく注意した。私は少しいらしていた。バスが停車したとき、少し体勢を立て直すと、バッグが引っかかっている感触があり、とっさに見ると刃物で切り裂かれ、そこから財布が出かけているのを発見した。一瞬何のことかわからず、隣の人の顔を見ると表情が一転した。逃げようとしたので思わず左手で相手の右手をつかみ、周りの人の助けを求めながら右手でバッグの中身を確認した。そのときふと、刃物を持っている相手であることが頭をよぎり、犯人の手を離した。混乱に紛れて犯人は逃げ去り(何人かが捕らえようとしたが失敗した)、私はお金をとられていないことを確認し、はじめて少しだけほっとし、周囲の人々に事情を説明した。そして彼が座った直後に左大腿部に鋭い痛みを感じたことを思い出し、その部分を見ると1cmくらいズボンが切られていた。また、先ほど窓を開閉して吐く様子を見せていた無礼な男性も隣に座っていた男とともに逃げたことがわかり、ようやくすべてのつじつまがあった。

凶器	有	種類	刃物(目撃していないので詳細不明)	数量	
犯人	2名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害(負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪(品名・数量)				
	・物品損壊(品名・程度)		手さげ袋(10cmの穴)、財布(7cmの穴)、ズボン左もも部分に1cm程度の穴		
被害者の犯行時の対応	犯人の左手首をつかみ、右手で現金がとられていないか確認しようとしたが、刃物を持っているのを思い出し、手を離して周りに助けを求めた。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	何もとられなかったため、周囲の人に説明しバスは出発した。周囲の人々が気を使い、運転手の後ろの席に移動させてくれ、降車までコンダクターがケアしてくれた。				

安全対策のポイント

同隊員は常日頃からバス乗降時にはすり等の被害に遭わないように心がけていた。本件発生時においても、その注意を怠らなかつたために被害を未然に防ぐことができたものと思われる。また、財布をすられていることが判明したとき、犯人の腕をつかんだものの、その直後に冷静になり、犯人の凶器に気がつき腕を放したために被害を最小限にとどめることができた点、「無抵抗」の点で非常に参考になる事例であるといえる。ただ、あえていうならば車内で安全な場所(運転手の後部)がわかっているのであれば、できる限りそこに座るべきだったと思われる。またあえて付け加えるとすれば、犯人に対し何らの行動も起こさないほうが身の安全を保つことができる。

発生国名	ブータン	犯罪の種類	空巣
発生場所 市町村名	ティンブー	郊外	自宅
発生日時	平成11年1月12日 午前9時頃～午後4時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男  ブータン

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

入口ドアの錠前を壊され侵入された。ドア警報を設置していたが、その日はOFFにして使用していなかった。部屋の各ドアはカギをかけられるようになっているが、いつもかけていない。各部屋は、物等で散乱していた。盗難にあった物は、携行品ばかりで、テレビ等は残されていた。現金はクローゼット、ダンボール（小）に入れていたが盗まれた。被害の大きい場所は寝室。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金	日本円換算で約160,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	パソコン、カメラ、同ズームレンズ、プレーヤ、ラジカセ、ペン型懐中電灯、フロッピー、電池等			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・職務所等の犯行時の対応	調整員、家主に連絡。警察への連絡は調整員に依頼。				

安全対策のポイント

- ・アラーム装置が設置されていたにもかかわらずスイッチを切っていたため作動せず、「室の持ち腐れ」であり、このような意識ではいくら防犯設備を施しても意味はない。また、住居内もカギはあるが日常施錠せず。
- ・住居防犯の第一次・第二次・第三次防衛線は確実に安全対策を施すことが鉄則。各部屋は日常使用しない部屋、貴重品を保管している部屋等は確実に施錠することが不可欠。
- ・入り口ドアの南京錠を壊されて侵入されているが、南京錠はバール、ドリル等で簡単に破壊可能。南京錠の場合は、外側を鉄製カバーでおおう等の対策が不可欠。

発生国名	中華人民共和国	犯罪の種類	詐欺盗
発生場所 市町村名	北京	市街地	ホテル
発生日時	平成10年12月5日 午後7時00分頃～午後7時05分頃の間		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 中華人民共和国


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

昆崙ホテルのエレベーター内で親しげに話かけてきた。「サウディ・アラビアから来た」と言い、身なりもきちっとしていた。「明日東京へ行くが日本の札を見たことがないので見せてほしい」と言い、おかしいと思っているうちに、日本円を入れた封筒を見せてしまった。「少し詳しく」と言って、目の前で札をカードのように広げて、元に戻し何ごともなかったように封筒に返して、私に返却した。「1,000円札を10ドルと替えてくれ」と言うので同行の知人がOKし交換した。「二セドルかもしれない」と友人は言ったが目的はそこではなく、封筒の20枚の10,000円札が11枚になっていたことがすぐに判明した。相手は二人組で札のトリック時はパートナーが知人の注意をひくように地図を広げて、執拗に話しかけていた。

凶器	無	種類		数量	
犯人	2名				
被害内容	・現金	90,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	おかしい、なぜと思いつつも相手のペースにはまってしまった。				
被害者・職務所等の犯行時の対応	すぐに気づくもギブアップ。				

安全対策のポイント

- ・ホテルのエレベーター内で「現金を見せてくれ」と言い寄る行為は通常の行為ではなく、そのような者は例外なく犯罪者と認識して間違いはない。
- ・本事例では現金をとられただけで身体に被害は及ばなかったが、ときとしてこちらの拒否行動により「居直り強盗」化することも考えられる。
- ・本事例は「油断」「慣れ」が招いた典型的な被害事例であり、いかなる理由であれ外で他人に現金を見せる行為は慎むべき。また、犯人が居直り強盗化した場合は「無抵抗」に徹し、身体への被害を防止することが鉄則である。

発生国名	中華人民共和国	犯罪の種類	置き引き
発生場所 市町村名	雲南省	汽車内	
発生日時	平成10年7月11日 午前12時頃～午前3時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女  中華人民共和国

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

桂林から昆明へ向かう汽車内で、荷物棚に上げた旅行用バッグが盗難に遭った。消灯後の睡眠中、汽車が小さな駅に停車。犯人はそのときに荷物を車外へ持ち出した模様。荷物にはチェーンロックをかけていなかった。午前3時に同行の友人に起こされ盗難に気づいた。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	1名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	旅行バッグ、衣類、本、コンタクトレンズ、サンダル			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応	汽車内の公安に届けた。				

安全対策のポイント

- ・夜間の公共交通機関による移動時は特に注意すべき。本人指摘のチェーンロックはもとより、荷物は棚に上げたりせず身边から離さないこと。
- ・移動時の荷物には、パスポート、大金等必要以上の物は入れない（持ち歩かない）こと。
- ・可能な限り昼間便を使い、真にやむを得ない場合のみ夜行便を使うこと。

発生国名	中華人民共和国	犯罪の種類	強姦致傷（未遂）
発生場所 市町村名	北京	市街地	ホテル
発生日時	平成10年7月30日 午前3時30分頃～午前3時45分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 中華人民共和国

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

就寝中、足にかけてあったベッドカバーが落ち、軽く感じたことで気づく。気づいたとき、犯人は、私の顔の真上にあったように思う。何か言っているのだが、熟睡中であったために何がどうなっているのかわからない状態。犯人に両手で肩を押えられたことで、「暴行されようとしている」ことに気づく。とにかく大声で「助けて!!」（とっさに中国語が出てこない）と叫びながら抵抗する。犯人は私の口を押さえようとシートで顔をおおう。思うように息ができない、苦しい。必死で抵抗しながら「このままだといつか力負けしてしまうかも…」という思いが頭をよぎる。「とにかくドアから逃げよう!」と思い、犯人と戦いながらベッドから落ちる。私が立とうとすると、犯人は私を倒そうとし、何回か繰り返しているうちに、犯人の力がフッと抜け、そのスキに、私は、ドアから廊下へ出て、小姐（服務員の女性）の部屋へ助けを求めた。

凶器	無	種類		数量	
犯人	1名				
被害内容	現金				
	暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）	足の指、両ひざ、胸、その他足の至るところに打撲、すり傷。首から肩・背中にかけて、だるさ、痛みが残る。			
	物品略奪（品名・数量）				
	物品損壊（品名・程度）	パジャマ			
被害者の犯行時の対応	あきらめず最後まで抵抗。				
被害者・職務所等の犯行時の対応	小姐がホテルの社長、門番に連絡、その後少し横になる。直後、調整員に連絡。朝になって警察等対応。				

安全対策のポイント

- ・1人暮らしの女性隊員を狙った性犯罪はまれに発生しているが、そのほとんどは未遂に終わっている。
- ・本例は最後まで抵抗したことで未遂に終わっているが、この対処は正しい。身体への攻撃は最大限の努力で防ぐべきである。安全対策の基本である「無抵抗」はあくまで「財産狙い犯罪」に対するものであり、身体に直接被害を及ぼそうとするものに対しては抵抗することは正当である。
- ・住宅防犯上は、人が入れる鉄格子は単なる「飾り」でしかなく防犯上はまったく意味をなさない。
- ・窓の施錠についても徹底する必要がある。

発生国名	中華人民共和国	犯罪の種類	置き引き
発生場所 市町村名	北京	市街地	レストラン
発生日時	平成10年6月1日 午後8時30分頃～午後8時31分頃の間		
被害者	派遣形態	調査団員	男 中華人民共和国

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

レストラン奥の1階にて夕食をとり、テーブル席にて料金の支払い時セカンドバッグを左脇のイスの上に置いた。支払いが済み、帰ろうとしてイスの上を見たらすでにセカンドバッグがなくなっていた。この間約1分間。

凶器	無	種類		数量	
犯人	1～2名				
被害内容	現金	T/C1,000USドル（日本円換算で約135,000円） 日本円 380,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	物品略奪（品名・数量）	セカンドバッグ（在中品 VISAカード、AMEXカード、航空券、パスポート）			
	物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	犯行時は被害に気がついていなかった。				
被害者・職務所轄の犯行時の対応	店に被害を申し出た（店の対応は一切なし）。近くの警察署に届け出る。				

安全対策のポイント

- ・典型的な置き引き犯罪。この種の犯罪は従来から枚挙に暇がない。
- ・原因は唯一「自分の不注意」。犯人探しをする前に自分の安全管理意識の欠落を強く反省すること。

発生国名	中華人民共和国	犯罪の種類	すり
発生場所 市町村名	广西柳州	市街地	バス下車中
発生日時	平成10年6月7日 午後7時30分頃～		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <small>（国籍）</small> 中華人民共和国

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

家に帰ってきてカギを取り出そうとして、初めてデイバッグの右ポケットのファスナーが開けられカメラがないのに気がついた。午後7時30分に柳州に着き、8時前に家に戻ってきたときだった。後から思えば、象州から柳州に戻ってきてそのバスを降りるときから、バイク、タクシ―に交渉しているときにかけて、抜きとられたかと思える。自分がバスを降りるときは、肩にデイバッグを引っかけ、両手に荷物を持っていた。後方に座って終点の見当がつかなかったのでのろのろし、本来なら最後に下車していたはずだが、ドア横に座っている男の人がいて、ちょっと奇妙な気がしたが、自分が先に降り、後からすぐ、その人がついて降りてきた。バイクと交渉しているときは荷物に注意していず、あたりも暗くなってきていたので、その間にいくらでもとられるスキがあったと思う。

凶器	無	種類		数量	
犯人	1名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）		カメラ1		
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	気がつかないので何もしない。				
被害者・職務 所等の犯行時 の対応	所属長に電話したが留守。外事係の日本語のできる人に連絡を取り、すべて手配してもらい、一緒に警察へ行く。				

安全対策のポイント

- ・気がつかないうちのバッグからのすり犯罪は従来より枚挙に暇がない。
- ・戸外では常に自分の所持品と身の回りには気を配る注意が必要。後になって「思い返せばあのとき」では取り返しがつかないことを肝に銘じるべき。本人も反省しているように「スキ」があった。

発生国名	インドネシア	犯罪の種類	すり
発生場所 市町村名	南ジャカルタBLOCK M	市街地	市場
発生日時	平成11年2月21日 午後5時40分頃		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 <small>（年齢）</small> インドネシア


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

「ハイランド地域農業開発計画」事前調査団の市場調査のため、南ジャカルタBLOCK M地区のPasarayaデパート近くのRamayana 2階の市場調査後、帰り際に1階で男に後ろからひじで押され、追い越しをされ、そのとき一瞬にらまれた。数秒後に、胸ポケットに入れていた携帯電話（JICAにより貸与）が盗まれていることに気がついた。

凶器	無	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	携帯電話（JICA貸与）			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	身の危険を一瞬感じたので、後の捜索は行わなかった。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	翌日、秘書を通じ、電話使用料の請求がないように手続きを行った。				

安全対策のポイント

- ・「すり」の手口は非常に巧妙で素人には気づかない事例が多いが、「通常と違う」周囲の状況が何かしら起こっている。自分の身の回りに「おかしい」と気づかせる状況が発生したら、周辺に注意を向けると同時に身体警護の危機意識を最大限払うことが必要。
- ・すりは通常グループで犯行に及び、必ずといっていいほど刃物を携帯しているため、絶対に犯人を追わないこと。

発生国名	インドネシア	犯罪の種類	屋内強盗
発生場所 市町村名	ジャカルタ	市街地	自宅
発生日時	平成10年10月28日 午前6時10分頃～午前6時40分頃の間		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男  インドネシア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

朝6時10分頃自宅食堂で食事中に外に車が来る音が聞こえ、バンタイプ車が敷地内に入り、いったん外に出て方向を転換し、横づけした。間違いの車かと思ひ、また食事をしていたところ、突然ガレージとのドアから見知らぬ数名の男が手にカマを持ち侵入してきた。すぐさま強盗とわかり、後手に縛られ台所へ連れて行かれた。めぼしいものを持っていったが、まだ足りないと思ったのか、私を2階に連れていき何かインドネシア語でどなっていたが、結局何も他に見つけられなかったため、腹いせにこづいただけで立ち去った。顔の特徴等については現地人ということだけで特に記憶がない。

凶器	有	種類	カマ	数量	
犯人	5名				
被害内容	・現金	日本円換算で約140,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）	右腕上部、背中にすり傷			
	・物品略奪（品名・数量）	テレビ2、ビデオデッキ1、携帯電話1、CDラジカセ1			
	・物品損壊（品名・程度）	洋服ダンスの中棚が壊された。			
被害者の犯行時の対応	犯人に逆らわず、逆上させないようにした。				
被害者・職務所等の犯行時の対応	住んでいる家のセキュリティに問題ありで、ただちに家を替えた。				

安全対策のポイント

- ・自宅敷地内に部外者の車が容易に侵入できる住宅構造に重大な欠陥がある。
- ・部外者が許可なく敷地内に入ってきたことは「通常とは異なる状況」にあり、特に注意する必要がある。最初に賊が侵入した時点で異状事態を意識し、声をかけたり相手との距離を置いたり、避難する等、迅速な対応が必要である。
- ・本事例の場合、本人は即時に住居を替えたが、第一次防衛線の強化を図り、また、警備員を配置する等の対応も必要。

発生国名	インドネシア	犯罪の種類	空巣 (未遂)
発生場所 市町村名	自宅マンション		
発生日時	平成10年4月7日 午前11時頃		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 1名 インドネシア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

午前11時、自宅（マンション）に戻ると、出かけるときはいつも閉めている自分の部屋のドアが開いている。さらに、いつも開けている内部のバスルームが閉まっていた（この中に人が隠れていた）。部屋の中のタンスが荒らされており、現金が盗まれていた。その後、気をつけて、もう1人の同行者と一緒に、「Siapa yal（誰だ、誰かいるのか）」と強く言うと、少し気弱そうな男が出てきて、「Toang Mirta Moaf（ご主人、すみません）」と謝る。他にいないか確認して、何をしたか、カギ束をどこからとったか確認すると、「盗んだ現金を返します。カギはアパートの管理人室からとった。他の人に言わないでください」という。

凶器	無	種類		数量	
犯人	1名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応					

安全対策のポイント

- ・「かけたはず」のカギが開いていたら、中へは入らず、警察、JICA事務所等へ連絡する等の確な措置を講ずること。
- ・賊が武器を所持しておらず、また抵抗してこなかったことは「奇跡」といわざるを得ない。一步間違えば惨事になりかねない可能性を包含したケース。
- ・マンションの管理体制が悪ければ自室の合カギは自らが管理すべきである。また、マスターキーで開けられる場合は、錠前を取り換えることも必要。

発生国名	インドネシア	犯罪の種類	ひったくり (未遂)
発生場所 市町村名	ジャカルタ	路上	
発生日時	平成10年 8月12日 午前12時10分頃		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 <small>国籍</small> インドネシア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

同じ省に属するJICA専門家とともに近くのビルに昼食をとりに行くため歩道を歩いていたとき、前方を非常にゆっくりとした足取りで同じ方向に歩く集団（10人ぐらい）がいたので、彼らを追い越し始めたところ、私の右斜め前方を歩いていた1人が急に私の方向に向きを変え、手を私の腰に当て始め、さらに別の人間が素早く回り込み私の足をつかみ始めた。幸い足をバタつかせ身を捻るなどしたところ彼らの手を振り払うことができ、後方に駆け出して彼らから離れた。彼らは私のほうをにらんでいたが追いかけてくることはなかった。同行の専門家は私の事態に気づかず彼らの集団の中にいたが、私が大声で呼び戻したところ、彼らから離れることができた。彼らはともにノーネクタイの白いワイシャツ、黒いズボンをはいており、10代後半あるいは20代前半で、沈黙のまま、固まりとなって歩いていた。

凶器	無	種類		数	
犯人	10名位				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害 (負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪 (品名・数)				
	・物品損壊 (品名・程度)				
被害者の犯行時の対応	上記「被害状況」のとおり。				
被害者・職務 所等の犯行時の対応	事務所に戻り車で目的地へ移動した。				

安全対策のポイント

- ・危険を予知させる現象は避けることが安全対策の基本。この場合、危険を予知しながら危険分子の影響範囲に入ってしまった。「追い越す」行動は危険の中に身を投じる行為。しばらく待って距離を保つとか、目的場所を変更する等の措置が必要ではないだろうか？
- ・これまでJICA関係者の被害はなかったものの、ジャカルタ地域での「抱きつきすり」発生は多数。本ケースを教訓とすることが肝要。

発生国名	インドネシア	犯罪の種類	車上狙い
発生場所 市町村名	デンバサール	路上	
発生日時	平成10年7月23日 午後5時35分頃～5時50分頃の間		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 国籍 インドネシア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

午後5時15分頃、プロジェクト事務所での業務を終了後自宅へ自家用車で帰宅途中、異常な車輪音に気づき左後車輪に釘状の金具が刺さってパンクしていることを発見した。カバンを車内に残しドアをロックすることなく車外に出て運転手のパンク修理を手伝い、その後カバンがなくなっていることに気づいた。事務所から自宅まで一度Uターンをしなければならないが、そこで一時停車の際に釘状の金具を刺されその後バイク等で追跡されたと思われるが、犯人を目撃することはできなかった。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金	日本円換算で約250,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	パスポート、携帯電話、パソコン、カセットプレーヤー、預金通帳、カバン			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応					

安全対策のポイント

- ・「パンク強盗」は典型的な犯罪の一つ。その場で修理することなく、安全な場所に移動して修理するなど安全対策の基本が頭に入っていれば、当然防げたケース。
- ・パンク修理のみならず買物・用足し等で車から離れる場合も荷物は手許に所持。あるいは目につかぬよう隠すこと。また、必ず車のエンジンを止めカギを抜き取り、ロックを確認した上で車を離れること。

発生国名	インドネシア	犯罪の種類	屋内強盗
発生場所 市町村名	東ジャワ州Pasuruan県Lebaksari郡	原種農場 (Balai Benih Utama)	
発生日時	平成10年7月15日 午前3時頃～午前4時30分頃の間		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 <input checked="" type="checkbox"/> インドネシア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

1. 事件発生当時、原種農場事務所には場長や職員等（合計6人）が宿泊していた。
2. 寝ていた場長を、覆面をした刃物を持った強盗が襲い、目隠し、口ふさぎ、後ろ手に縛られる。
3. 他の職員等も場長同様にされて、一個所に集められる。
4. 寝込みを襲った強盗は、農場のゲート（門）を開け車を呼び込んだ。
5. 事務所が資材倉庫として使っていた部屋のドアを破り、機材を盗み出し車に積み込み去っていった（強盗は時間を急いで、場長にカギを出させる余裕がなかった）。

凶器	有	種類	刃物	数量	
犯人	10～15名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）		工具、圃場機械のスベアパーツ、草刈り機		
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応	7月15日の午後2時30分に、機材設置業者による機材の調査が入っていた。そのため、調整員、専門家、機材業者が2時すぎにサイトに到着し、この時点で事件を知った。15日時点では場長もまだ興奮状態にあり、また当方も機材の調査のための機材業者が15～17日までの日程で日本より来ていたため、詳しい情報を入手できなかった。15日の時点において、当方より場長に州政府農業部に提出する正式な事件報告書をチームにも提出するよう依頼している。				

安全対策のポイント

- ・ JICA関係者の活動場所、機材の保管場所等には必ず警備員を配置すること。
- ・ プロジェクトサイト周辺の第一次防衛線の安全対策（塀、有刺鉄線、照明等）にも気を配ること。また、有事に備え、電話（携帯を含む）、無線機等を配備することは安全対策上不可欠。
- ・ 簡単に破れるドアは取り換える等、第二次防衛線の安全対策も不可欠。

発生国名	インドネシア	犯罪の種類	屋内強盗
発生場所 市町村名	ボンティアサック	市街地	自宅（ホテルに居住）
発生日時	平成11年2月28日 午後6時頃		
被害者	派遣形態	シニア海外ボランティア	男 <input checked="" type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/> インドネシア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

宿泊先のホテルでルームサービスを名乗る男性の声がしたため、ドアを開けたところ覆面、帽子で顔を隠した男性がピストルを持って立っており、部屋へ侵入した。約30分間手錠をかけられ、手足口をガムテープ、縄等にて縛られ、犯人は室内を物色し、現金、ワープロ等を奪って逃走した。その後自力で縄等を解き、ホテルのフロントへ通報した。

凶器	有	種類	ピストル、手錠	数量	各1
犯人	1名				
被害内容	・現金	2,150,000ルピア（日本円換算で約30,000円）			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）	両手首に軽い裂傷			
	・物品略奪（品名・数量）	ワープロ1、時計2、航空券			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	無抵抗。				
被害者・事務所側の犯行時の対応	自室脱出後、警察を呼び現場検証を依頼するとともに、ホテル関係者同行のうえ、警察署にて事情聴取を受ける。				

安全対策のポイント

- ・独立家屋、集合住宅、ホテル投宿時にかかわらず、来訪者があるときには必ず扉を開ける前にドアスコープ等で来訪者を確認し、扉を開いて対応する際にもドアチェーンをつけたままで対応する等の用心深さが要求される。もちろん在室時であっても施錠は必須事項。
- ・「慣れ」や「自分だけは…」という慢心が引き起こす犯罪は枚挙に暇がない。「安全管理意識の風化」は絶対に防止すべきである。

発生国名	ラオス	犯罪の種類	空巣
発生場所 市町村名	ヴィエンチャン県タラット町	郊外	自宅
発生日時	平成10年9月26日午後10時頃～9月27日午前6時頃の間		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 国籍 ラオス

被害者の状況【犯行の手口・被害の状況】

任国外旅行（インドネシア）で、ラオスを留守にしていた。27日午後2時頃、自宅に戻ったところ、寝室（3つのうち、使用していない部屋）の窓が、こじ開けられていた。屋内は物色した跡があり、金品がなくなっていた。犯人は、ボールで窓の錠を壊し、内側の鉄格子（窓枠に釘止め）を外して、網戸を蹴破って侵入した模様。屋外への入り口は施錠していたが、各部屋、引き出し等には施錠していなかった。本人不在中は、通いメイド（通常は1日おきに家に来る）に、朝夕の見回りをお願いしており、26日夕方までは異状なしであった。27日朝8時に犯行を確認した。ただちに最寄りの警察に連絡を取り、27日午後3時頃より現場検証を行った。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金	日本円換算で約25,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	CDラジカセ1、短波ラジオ1、金の指輪1、服数着			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応					

安全対策のポイント

- ・自宅を留守にするときは玄関、各室、机・クローゼット等あらゆるところへ施錠することは鉄則。
- ・住宅の安全管理は、第一次・第二次・第三次のそれぞれの防衛線ごとに安全な防犯設備を設置することで達成される。警備員の配置を含む各種防犯設備については事務所経由安全管理課と対応協議のこと。
- ・「行動を予知されない」は安全3原則の一つ。

発生国名	ラオス	犯罪の種類	空巣
発生場所 市町村名	ヴィエンチャン特別市首都の東約3km	郊外	自宅
発生日時	平成10年8月4日 午後5時頃～午前8時頃の間		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ラオス


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

- ・賊は専門家休暇一時帰国中に屋内に侵入し、専門家の所有するステレオなどを盗んだ（犯行時間は不明）。
- ・一時帰国中、昼はメイドが、夜は夜警（門番）が留守を守るという24時間体制をとっていたが、当日はメイドの体調が悪く、メイドが早退したためガードのいない時間が生じた。賊はこの間のスキを縫って合カギを使って侵入したと思われる。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	ステレオ1、ビデオレコーダー1			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	・家主にカギの付け替えおよび夜間の照明灯点灯の助行を指導（事務所）。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	・表裏のドアのカギを付け替え（対処済）・庭の照明灯の増設（予定）				

安全対策のポイント

- ・被害時の対処、被害後の対処ともに適切に行われているが、その他にも弱い部分がないか再点検が必要。
- ・犯人が合カギを使用した可能性もあり、建設後改めてカギを替えるほどの用心深さが必要。特に使用人が建設時から継続して雇われていたような場合、合カギ作成の可能性を疑うくらいの用心深さが必要。
- ・「行動を予知されない」は安全対策3要素の一つであるが、使用人への行動未告知にも限界があり、使用人が絡んだ犯罪発生には解雇で対応する以外に方法はなからう。

発着国名	マレーシア	犯罪の種類	ホテル荒らし
発生場所 市町村名	ケタ州スンガイブタニ市首都の北約400km	ホテル	
発生日時	平成10年8月28日 午前8時15分頃		
被害者	派遣形態	調査団員	男  マレーシア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

投宿したホテルにおいて、出発日の朝食をとっている間（午前7時55分～8時15分）、財布を自室に置いたままの状態とした。この間に、自室に入った者がいることが判ったため、財布を改めると、盗難に遭っていた（自室に私以外が入ったことがなぜ判ったかという点、カバン上に置いた小さい南京錠が転げ落ちていたためである。ただし、このとき被害に遭ったか否かの絶対的確証はない）。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金	40,000円（他に200リンギ、10,000円札1枚は残されていた）			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・職務所等の犯行時の対応	マネージャーに事情説明するも、室に他の者が入った形跡はないとの説明。				

安全対策のポイント

- ・ホテルの自室に貴重品を残したことが自らが問題。ホテルの部屋は、誰でも入室できるとの前提で行動すること。
- ・自室を離れる際は、どんな小さい物でも「カギのかかる」場所に保管するか、ホテルのセーフティボックス等を利用すること。
- ・同ホテルはこれまでも多数の犯罪が発生しており、このようなホテルは今後使用しない等の対応が必要。

発生国名	マレーシア	犯罪の種類	ひったくり
発生場所 市町村名	クアラルンプール	市街地	路上
発生日時	平成10年5月10日 午後2時40分頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <input checked="" type="checkbox"/> マレーシア


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

隊員連絡所より、隊員4名（すべて女性）で外出、歩行中に後ろからバイクで近づいてきた男にバッグをとられた（車道側で、手で持っていた）。

凶器	無	種類		数量	
犯人	1名				
被害内容	現金	150リンギくらい（日本円換算で約5,000～6,000円）			
	暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	物品略奪（品名・数量）	辞書1、バッグ			
被害者の犯行時の対応	声をあげ、追いかけた。				
被害者・職務所轄の犯行時の対応	近くの警察に届け、その後中央警察にレポートを持っていった。				

安全対策のポイント

- ・典型的なひったくり被害。荷物は車道側とは反対側に持つとか、車輛走行方向と同じ側を歩かない等の対応が肝要。
- ・最近のひったくりはバイク、車を使用し「高速化」してきていることもあり、従来のように「たすきがけ」をしていると体ごと引きずられ思わぬケガをもしかねないことも認識しておくべき。
- ・荷物を取り返すため、犯人を追いかけた結果、犯人が居直り、刃物で創傷等を負った事例もあり、ひったくりに遭ったら絶対に後を追わないことも必要。

発生園名	モルディブ	犯罪の種類	傷害
発生場所 市町村名	フォームラク	郊外	隊員住居
発生日時	平成10年5月23日 午後11時25分頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男  モルディブ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

所属先の要請で、モルディブ南部のフォームラク島へユースキャンプを実施するため、出張していた。現地には、隊員3名（1名は任地、他2名は出張のため）がおり、本人と合わせ、計4名が滞在していた。事件当日、外出から戻り、住居に入ろうとカギを開けるために立ち止まったところ、物陰に隠れていた犯人に後ろから殴られた。その後犯人は逃走した。

凶器	有	種類	1辺4cmの角材	数量	1
犯人	1名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）	右肩甲骨 全治約2週間			
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	負傷部位の手あて後、警察に来てもらう。その後、病院で医者に治療してもらう。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	突然のことで状況がつかめなかったが、隊員2人が逃げた犯人を追いかけた。				

安全対策のポイント

- ・全4名の隊員の中で1名だけ狙われたのは、数時間前に現地少年に注意を与えたことへの逆怨みが原因とも考えられる。「郷に入れば郷に従え」の諺とおり、現地住民との関係を良好に保つことが事件発生を防ぐ手立てである。
- ・特に小島の場合、島社会特有の「排他性」や「馴れあい」等にも十分配慮する必要がある。

発生国名	モンゴル	犯罪の種類	すり
発生場所 市町村名	ウランバートル市	市街地	バス内・バス停
発生日時	平成10年7月24日午前10時頃～午後3時30分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <input checked="" type="checkbox"/> モンゴル

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

貴重品はウエストポーチに入れ、肌身から離さないようにしていたが、気づいたときにはファスナーが開いており、中に入れていた財布がすりとられていた。いつ被害に遭ったか不明。バスに乗車中またはバス停で待っている間と思われる。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金	40000トゥグリク（日本円換算で約6,000円）			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	JICA発行の身分証明書、警察発行の身分証明書、財布			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	わからなかった。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	事務所に報告し、警察に被害届を出した。				

安全対策のポイント

- ・外出先では所持品には常時気を配ることが不可欠。
- ・「ウエストポーチ」は、真に貴重品の場所を犯人に教えているようなもので、特に海外では注意を払う必要がある。
- ・「用心を怠らない」ことは安全管理の3要素の一つ。

発生国名	モンゴル	犯罪の種類	傷害
発生場所 市町村名	ウランバートル市	郊外	市場
発生日時	平成10年4月22日 午後3時30分頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <small>任意</small> モンゴル

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

友人4名（シンガポール人、韓国人2名、日本人、いずれも女性）とウランバートル市郊外にあるブラックマーケットへ食料品を買いに行った。貴重品はしっかりと体の前面に抱えていたが、購入した物は右手にさげたプラスチックバッグに入れていた。ストリートチルドレンのグループ（4～5人）が、このプラスチックバッグを狙い、ナイフでバッグの手を切り盗もうとしたが、目標を誤り私の指を切った。

凶器	有	種類	ナイフ	数量	1
犯人	4～5名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）			右手小指から薬指に各々1cmぐらいの傷。全治1週間程度。	
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	驚いて何もできなかった。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	傷が深くなかったので、とりあえず止血をして帰宅した。				

安全対策のポイント

- ・「危険地域には絶対に近づかない」という危機管理意識が欠如した結果が招いた犯罪。
- ・自分では「普通」だと思ったことが、犯人には「裕福な物」に見えることが応々にある。貧困に起因する犯罪は「物を買う余力がある者」が常に狙われる。日本の「常識」（買物袋を狙う犯罪は希有）が海外では通用しないことも認識する必要がある。

発生国名	ネパール	犯罪の種類	屋外強盗
発生場所 市町村名	ポカラ	路上	
発生日時	平成10年11月22日 午前5時15分頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊	男 <small>国籍</small> ネパール

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

休暇を利用し、同期隊員を訪問。午後3時発のナイト・バスにて出発し、翌日午前5時にバスパークに到着。まだ、未明であったが、隊員連絡所まで徒歩20分程度の距離であり、かつ、見知った道であるため、ホテルなどの勧誘を無視し、タクシーなどは利用せず徒歩にて向かう。5時15分頃、ポカラ空港横にあるホテル「ニュー・クリスタル」にさしかかる。メイン・ロードを歩いていると、バスパークから空港脇を抜ける小道とメイン・ロードとの合流ポイントでネパール人3人組（全員身長は170cm程度）が近寄ってきた（3人とも覆面なし、普段着のような服装）。「ケ、バヨ？（何だ？）」と私がネパール語にて聞くと、アール系が私の胸ぐらをつかみ、殴りかかる。私が応戦しようとする、モンゴル系がククリ（ネパール・ナイフ、刃渡り15cm程度）をちらつかせ、私の脇腹に当てる。そうした後、3人が私の身体を探り、ズボン右後ろに入れてあった財布を見つける。そのとき、ネパール人が自転車にて通りかかったので私が助けを求めようとする、もう一度ククリを強調させ、「No sound」とモンゴル系（多分）が繰り返す。自転車のネパール人は一瞥したが、何もせずに去る。私は助けをあきらめると、もみ合いながらも自ら財布を取り出し、保身のため中から現金（4000ルピー、8000円相当）をすべて抜き取り、「お金は渡すから（ネパール語で）」と手渡す。その後も財布を中心にしばらくもみ合ったが、3人組は財布に現金（紙幣のみ、小額の硬貨は財布の小銭入れに残ったまま）がないこと確認すると、バスパークへと抜ける小道を去っていった。

凶器	有	種類	ナイフ、刃渡り15cm程度	数量	
犯人	3名				
被害内容	現金	4000ルピー（日本円換算で約8000円）			
	暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	物品略奪（品名・数量）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応					

安全対策のポイント

- ・特に海外生活において、深夜・早朝の1人歩きは厳に慎まなければならない。犯罪は至るところで待ち受けている。
- ・ナイフを持った複数の賊と「もみ合い」ながら最終的に財布を強奪されているが、財産目当ての賊に対しては「無抵抗」に徹し身体への被害をくい止めるべきである。また、事件後犯人を追跡しているが、とられた金を取り返そうなどと思い、犯人を追跡した結果手痛い反撃に遭った事例は枚挙に暇がない。
- ・危険は可能な限り回避し、安全意識の再構築を図るべきである。

発生国名	タイ	犯罪の種類	置き引き
発出場所 市町村名	カンチャナブリ	郊外	学校
発生日時	平成10年9月18日 午前11時20分頃～午前11時30分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <small>国籍名</small> タイ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

職員室を自分で開け、部屋に入ると私の机の上に前の週に盗まれた財布が置いてあった。現金はなくなっていたが、それ以外のカード類はすべて入っていた。前日は外国語学科のキャンプで私も含め同室の先生方は全員不在であったが、部屋は学生のため（宿題等の提出、回収に来る）に開けていた。財布を盗まれたときに使用停止の手続きをとったATMカードが、再び使用できるようになるかもしれないと同僚の先生に言われ、先生に通帳とATMカードを預け、私は授業に行った。同僚の先生が電話での問い合わせを終え、私の机の上に通帳とATMカードを置き、隣の机で仕事をしていた。その先生がトイレに行き戻ると、机の上の通帳とカードがなくなっており、引き出しの中の財布（同朝戻ってきたもの）と、400パーツ入った財布、テープレコーダーも盗まれていた。当時部屋には、その先生以外誰もいなかった。

凶器	無	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	現金	400パーツ（日本円換算で約1,600円）			
	暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	物品略奪（品名・数量）	テープレコーダー（約20,000円で購入）、財布（ATMカード、クレジットカード、IDカード）、通帳。			
	物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・関係者等の犯行時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・学科長、学部長へ報告。 ・警察へ届出・銀行口座使用停止手続。 				

安全対策のポイント

犯人像は特定できないが、2度の犯行の状況からすると、学内の様子をよく知る者の犯行と思われる。前回の犯行の後、貴重品はなるべく携帯しない、カギのかかる引き出しにしまう等の指導をし、隊員もそれを実行していたが、カウンターパートが盗難に遭った財布を管理し、また室内にカウンターパートがいたということで、安心してスきを狙われた犯行である。引き続き外出時には貴重品等をカギの付いている引き出し等に入れることで犯罪を防ぐことが可能と考えられる。しかしながら、それにもまして必要なことは、いかなる場合においても「用心を怠らない」ことである。特に大切な通帳、ATMカード等は他人に預けることなく自分の目前で照会等をしてもらうこと。

発生国名	タイ	犯罪の種類	すり
発生場所 市町村名	バンコク	ルンビニ公園前	
発生日時	平成10年5月16日 午後12時頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ネパール

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

在国外研修旅行で、バンコク滞在中、午後12時頃、ラマIVst.を一人で歩いていると、タクシーが寄って来て、後部座席から中年の女性が道を教えてほしいと言ってきた。一度は知らないと思ったが、一緒に探してほしいということなので、タクシーに同乗してホテルを探し始めた。車内で地図を広げホテルへの道を探している約5～6分の間に、カバンの中を物色した様子。その後、私をタクシーから降ろすために、体をベタベタさわってきた。気持ちが悪かったので、抵抗していると道端にタクシーを止め、私を降ろした。タクシーが走り去った後、カバンが軽いので中を見るとパスポート、カメラ、現金がなくなっていた。

凶器	無	種類		数量	
犯人	1名				
被害内容	・現金	約4,000バーツ			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	パスポート、カメラ、眼レフ			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	犯行時は一生懸命に地図を見ていたので気がつかなかった。しかし、下車直前にしきりに自分のカバンを気にしていたのであやしいと思ったが、手遅れであった。				
被害者・事務所等の犯行時の対応					

安全対策のポイント

- ・道を教える行動は何ら問題はないが、その直後タクシーに同乗したのは「親切の行きすぎ」といわざるをえない。現場が外国であり何が起るのか予想がつかない中で、日本的発想は慎んだほうがよい。そもそも外国人に道をたずねること自体おかしいと思うべきである。
- ・自分の荷物には常に気を配っておくことが肝要。ちょっとした気のゆるみ、不注意が取り返しのつかない事態を招くことを忘れてはならない。

発生国名	タイ	犯罪の種類	空巣
発生場所 市町村名	チョニグリ県バンセン市	ゲストハウス	
発生日時	平成10年4月23日午前9時頃～4月25日午後5時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <small>国籍</small> タイ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

バンセンに来てから、一度ヘッドホンステレオを出して聞いたが、その後は、バッグバックのほうにしまっておいた。バッグバックは錠を付けてなかったので外出するときは必ずドアの錠が閉まっていることを確認していた。4月22日の夜しまってから、4月25日にまた使おうと思ったところ、見つからなかった。屋外側の窓は、常に閉めておいた。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	ヘッドホンステレオ1			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	気づいた翌日もう一度探してみたが、なかったので月曜日の朝授業に行く前に、メモ（ヘッドホンステレオが紛失して知らないか）を置いて授業に行った。その後、内容が先生に伝わり、後ほど先生に事情を説明した。				
被害者・場所等の犯行時の対応	27日の午後にブラパー大学の先生と警察に行き、事情状況等を説明した。寮長が代わりにヘッドホンステレオを購入してくれた。				

安全対策のポイント

- ・推定の域を出ないが、状況から察すると従業員の犯罪の可能性も多分にある。
- ・外出時（あるいは常時）には貴重品は必ずカギのかかる場所へ保管すべき。
- ・本人の不注意も大きな問題であるが、ゲストハウス管理責任者へも安全管理の徹底を申し入れるべき。
- ・なお同ゲストハウスでは頻繁に同様の犯罪が起こっている。宿舍変更も含め抜本的対策を講ずる必要がある。

発生国名	ヴェトナム	犯罪の種類	ホテル荒らし
発生場所 市町村名	ホーチミン	市街地	ホテル
発生日時	平成10年8月30日 午後6時30分頃～午後9時頃の間		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 <input checked="" type="checkbox"/> ヴェトナム

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

ホテルを出て夕食を済ませた後、午後9時にホテルへ戻ったところ、室内からスーツケース、ワープロ、眼鏡、ジャケット、革靴、ベルトがなくなっていることに気づいた。ホテル側に連絡したところ、マネージャーがただちにヴェトナム人2名が宿泊する相向かいの部屋を空け、同専門家のワープロおよびスーツケースが発見された。この時点ではスーツケースの中身は確認せず、警察官の到着を待った。約30分後に、警察官1名が駆けつけ、現場を確認した後、さらに約30分後に数名の警察官が現れ現場検証を行った。ホテル側によるとこのヴェトナム人2名は20日夜にチェックインし、同専門家が同日6時30分にホテルを出て間もなく外出したとのこと。ホテルが預かっていた2名のIDカードは偽造されたものであった。同専門家の部屋はドライパーのような物をドアの隙間から押し入れカギを開けられていた。現場検証が終了した後、スーツケースおよびワープロは専門家に返されたが、この時点でスーツケースの中身を確認したところ、中にあった現金100,000円と携帯電話、ポケットベルがなくなっていた。航空券は盗まれておらず、パスポートは専門家が携行していたため無事であった。この後警察側が調書をその場で作成した。警察側によるとこの1週間の間にホテルを狙った同様の事件が数件発生しているとのことであった。

凶器	不明	種類		数	
犯人	2名				
被害内容	・現金	100,000円			
	・暴行傷害 (負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪 (品名・数)	眼鏡1、ジャケット1、カバン1、ベルト1、携帯電話1、ポケットベル1			
	・物品損壊 (品名・程度)	スーツケースのカギの部分が完全に破壊。			
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応	ホテル側より警察へ通報、警察が現場検証、調書の作成。				

安全対策のポイント

- ・過去のホテル犯罪の例を見ても、最新ホテル以外の数多くのホテルのカギは「円筒カギ」と呼ばれるラッチがフリーの型が大半。このカギはドアの隙間から薄い物を差し込めば簡単にラッチが引っ込みドアは開けられる。
- ・ホテル荒らしの被害はアジア地域が多く、また従業員の犯行と認められるものがあるので、もっとグレードの高いホテルは安全にも配慮しており、そちらを使用すべきであった。
- ・部屋を留守にするときには、貴重品は、セーフティボックスを使用するなどの対策が必要。

発生国名	ヴェトナム	犯罪の種類	忍込み
発生場所 市町村名	ヱイン	市街地	自宅（ホテル内）
発生日時	平成10年4月24日 午前3時30分頃		
被害者	派遣形態	派遣専門家	女 国籍名 ヱトナム

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

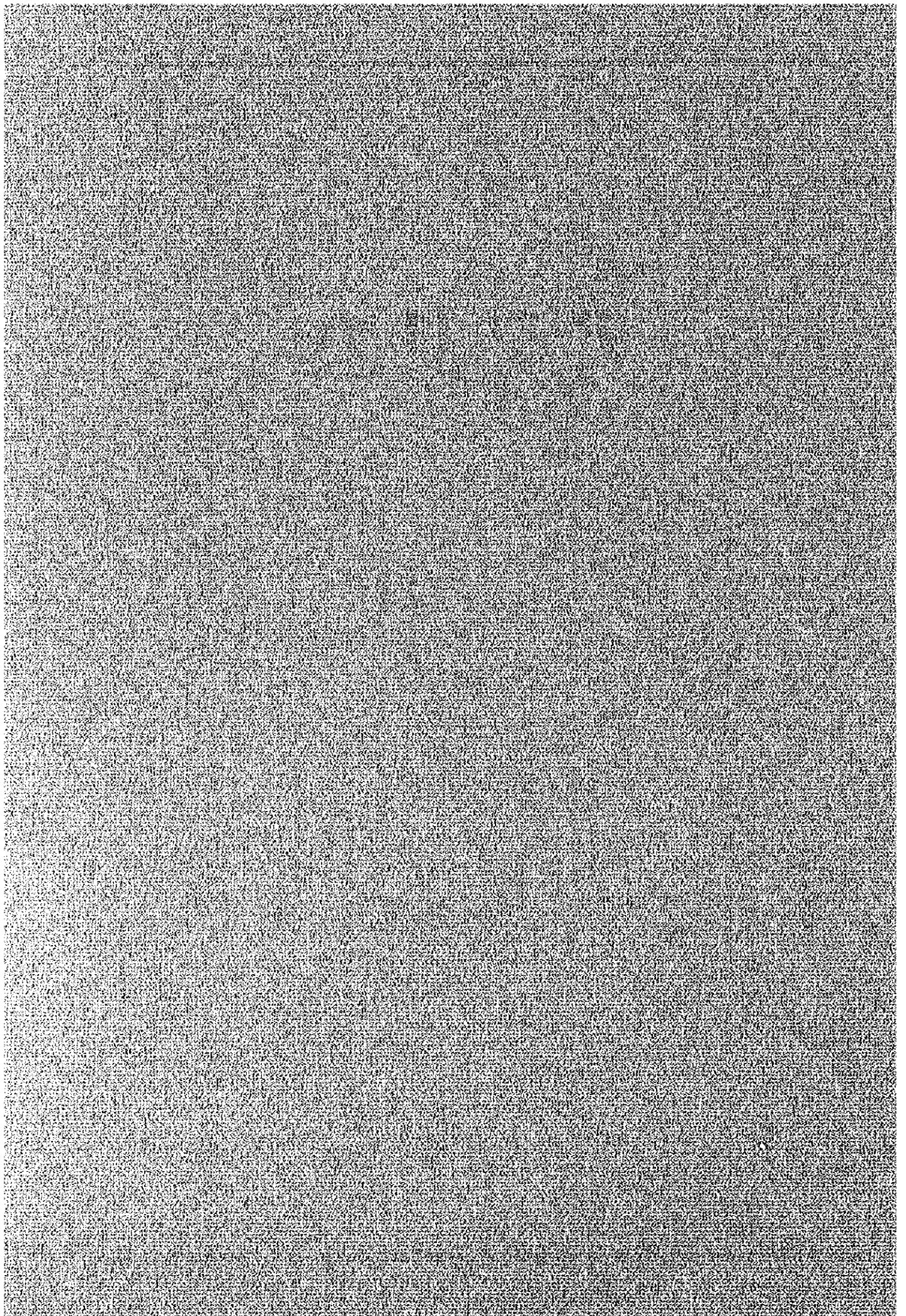
早朝3時30分、就寝中であつたが物音で覚醒し、犯人を目撃した。犯人も私に気づいたが、ただ起立していただけであつた。私がすぐに部屋の外へ出るように促したところ、退室した。犯人が退室後はすぐにホテルレセプションへ連絡した。宿泊客のIDカードをチェックして犯人らしい人物を発見したため警察立ち合いのもと客（犯人）を訪問し、犯人と確認し、逮捕された（午前5時）。

凶器	不明	種類		数	
犯人	1名				
被害内容	・現金	日本円換算で600円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数）	時計1			
被害者の犯行時の対応	部屋の外へ出るように促す。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	ホテルレセプションへ連絡				

安全対策のポイント

- ・犯人と相対したときの対応に問題はないが、なぜ部屋へ侵入することができたのか原因究明の必要あり。
- ・対策としては部屋の施錠の確認、合カギの有無の確認等が考えられるが、賊と相対したら「無抵抗」に徹すること。
- ・ホテルのドア、窓についてはしっかり施錠すること。ドアチェーン等がない場合には室内のイス等を利用してドアが簡単に開けられないようにすることもよい。

アフリカ



発生国名	エチオピア	犯罪の種類	屋内強盗 (未遂)
発生場所 市町村名	アディスアベバ市	市街地	自宅
発生日時	平成10年5月17日 午後9時10分頃		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 <input checked="" type="checkbox"/> エチオピア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

ガードマン派遣会社の2名夜間勤務の内、1名が強盗侵入計画を知らせてきた。本人は強盗団に抱き込まれ数回にわたる事前打合せに出たとのこと。計画が17日夜9時とのことであったため、警察にすべてを任せ、私雇用および専門家、家族は住宅外部に避難したので、人的損害はなかった。警察は犯人逮捕のため張り込み待ち伏せをして、侵入盗グループと銃撃戦となった。結果として、物的損外等も皆無であった。犯人は一部逮捕された模様であるが、実際に遭遇することはなかった。

凶器	有	種類	ピストル (マカロフ)、自動銃 (未確認)	数値	ピストル2、自動銃1
犯人	4名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害 (負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪 (品名・数量)				
	・物品損壊 (品名・程度)				
被害者の犯行時の対応	事前に侵入計画を察知 (通報) したため、JICA事務所、大使館、警察に通報し、JICA所長の指揮下で避難する等余裕をもって対応できた。				
被害者・関係者等の犯行時の対応	犯行後、3日目から地区警察による警備が開始され、私雇用ガード夜間当直を倍の4名に増やした。以後自宅に戻ることにした。				

安全対策のポイント

- ・プロ強盗集団に狙われたら逃げる手立てはまずないといってよい。自宅警備をいくら強固にしても時間は稼げるかもしれないが、グループがあきらめない限りグループの手中にあるといってもよい。
- ・会社派遣ガードマンの1名がグループに抱き込まれたが、この状態は派遣会社に通報の上対処を依頼することが不可欠。
- ・いずれにしても転居を前提に対処し、今後は「ハードターゲット」になり狙われにくくすることも必要。

発出国名	象牙海岸	犯罪の種類	ひったくり
発生場所 市町村名	アビジャン市	タクシー停車中の路上	
発生日時	平成11年1月3日 午後3時30分頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 国籍 象牙海岸

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

同僚隊員とタクシーでアジャメに行ったとき、カバンをとられた。信号を右折し、車が大通りに出たが、道路は混んでおり、しばらく停車したままだった。私は、車の右側後部座席に座っていたが突然右のドアが開き、肩に斜めにかけていたカバンのひもが引っ張られた。自分もとっさに引っ張り返したが、ひもが切れて彼はカバンを持って逃げていった。財布は手に持っていたため、無事だった。近くに2人警官がいたため、被害に遭ったことを訴えたが「自分たちは交通整理をしている」「だからどうしたいんだ?」と相手にしようとしなかった。

凶器	無	種類		数	
犯人	1名				
被害内容	・現金	T/C500PF			
	・暴行傷害(負傷部位・全治所要日数)	右手にかすり傷			
	・物品略奪(品名・数)	カルトスペシャル、緊急連絡先のカード、イエローカード、時計、指輪、カバン			
	・物品損壊(品名・程度)				
被害者の犯行時の対応	とりあえず、取り返そうと思い、引っ張り返した。とられた後は車から出て「どろぼう!!!」と叫んだ。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	警察署に行き、被害届を出した。トラベラーズチェックの会社に電話をした。				

安全対策のポイント

- ・市内でも「危険地域」に指定されている地域で発生した事件。いくらタクシーといえども「危険地域」へは絶対に近づかないこと。また、危険地域に限らずタクシーに乗車した場合には、必ずロックすること(自家用車についても同じ)。ただし、タクシーの場合、「ロックしたために運転手の犯罪から逃げられない」との見方もあるが、運転手の「居直り強盗」に対する防衛手段はなく、特に凶器を所持している場合、「無抵抗」に徹することが鉄則。
- ・他地域と比べ危険な地域へ立ち入る場合、装飾品、腕時計等は身につけないのほもとより、必要以上の現金を持ち歩かないことも鉄則。

発生国名	象牙海岸	犯罪の種類	空巣
発生場所 市町村名	アビジャン ココディ地区	自宅	
発生日時	平成11年1月21日 午前8時頃～午前9時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <small>住居者</small> 象牙海岸


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

午前9時近くに帰宅し、部屋に入ったところ、床に上があちらこちらについていた。庭に面した鉄格子を登り30cmほどの隙間（天井と鉄格子の上部）をすり抜けテラスに降り、部屋（居間）に入るための窓を開けた様子。設計ミスからこの窓はピッタリ閉まらない。机の引き出し、物入れの扉が開いており、パソコンを入れておくケースのふたが開けられていた。

凶器	不明	種類		数値	
犯人	不明				
被害内容	・現金	300,000cta（日本円換算で約60,850円）			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数値）	パーソナルコンピュータ1			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	部屋に入った後、様子がおかしいことに気づき、犯人が潜んでいる可能性もあったので、玄関を開けたままにゴルフクラブを持って他の部屋を確かめた。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	大事なものはトランクにしまった。				

安全対策のポイント

- ・鉄格子と天井の間の30cmの隙間や、簡単に開く窓（密閉しない）等、住居の安全対策の欠陥をつかれた犯罪。住居防犯の再点検は不可欠。
- ・使用しない部屋、貴重品を保管している部屋等の施錠は必須事項。また、長期間留守にする場合は、貴重品は日本人の同僚に預ける等の対策が必要。
- ・帰宅した直後、室内の異変に気づき、ゴルフクラブを持って安全確認をしているが、単独での巡回は非常に危険であり絶対に行うべきでない。近隣、事務所関係者、警察等に連絡し、複数で対応することが不可欠。
- ・深夜12時頃の帰宅も非常に危険であり、深夜の帰宅となりそうな場合は、時間を調整し日の高いうちに帰宅することも肝要。

発生国名	ガーナ	犯罪の種類	忍込み
発生場所 市町村名	アクラ市タイソア	郊外	自宅
発生日時	平成10年8月13日 午前0時10分頃～午前1時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女  ガーナ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

夜中0時すぎに男の人の話し声を聞いた。“I'm leaving”と聞こえたので、目を覚まし上司が私を呼びにきたのかと思ったが、時計を見ると真夜中であつたので自分が聞いたのは夢だと思い再びベッドに戻った。翌朝、周りが騒がしく、見ると、居間のTVをはじめ台所にあつた電気器具類のほとんどがなくなつており、窓も数カ所枠をこじ開けた跡があり、ガラスも割れていた。幸い私の部屋には入ってこなかつたので被害はなかつたが、まだ部屋のカギを付けてもらつていなかったので本当にラッキーといえると思う。

凶器	不明	種類		数	
犯人	2名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数）	テレビ等電気器具類ほとんど			
	・物品損壊（品名・程度）	窓・ドア			
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応	この事件の後、部屋にJICAから貸りたカギを2つ取り付けてもらった。				

安全対策のポイント

- ・就寝中に外部で物音がしても、決して寝室から出ず、危険を増幅する行動はとらないことが鉄則。
- ・寝室は第三次防衛線（リスクヘブン）。強固な扉を嚴重なカギで警備し、内部には、電話、FAX、無線等通信手段、アラームシステム、サイレン付メガホン等を常備し、籠城にも耐え得る体制をとっておくことが不可欠。

発生国名	象牙海岸	犯罪の種類	屋内強盗
発生場所 市町村名	リヴェラ地区	自宅	
発生日時	平成10年11月25日 午前2時頃～午前3時頃の間		
被害者	派遣形態	事務所員	男 象牙海岸

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

- 朝2時頃から3時頃までの間に銃（ピストルと携帯機関銃）を持った5人組強盗が自動車で自宅に乗りつけ、ガードマンを縛り上げて自宅に押し入った。
- 同日3時頃、手足を縛られたままのガードマンの叫ぶ声で事件に気づき、屋内を点検したところ、寝室とは別室に置いてあった貴金属等のしまっているカバンが持ち去られていたことが判明、その他の部屋に物色した形跡はなかった。

凶器	有	種類	ピストル、携帯機関銃	数量	
犯人	5名				
被害内容	・現金	約1,600USドル			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	VISAカード2、貴金属類（150万円相当）、日本の自動車運転免許証、JICA職員身分証明書、カバン			
・物品損壊（品名・程度）					
被害者の犯行時の対応					
被害者・勤務所等の犯行時の対応	家族は賊の侵入にまったく気づかず、家族および使用人に対する加害はなかった。その後、ただちに警察に届け、数人の警察官による現場検証が行われた。				

安全対策のポイント

- 住居防犯の基本のうち第一次・第二次防衛線を突破され、相当高額の貴金属と多額の現金が盗難に遭っている。それぞれの防衛線は漏れのないよう整備することは防犯の鉄則であり、窓を開けての就寝は危険きわまりない。鉄格子（バークラバー）を設置する等の対策が必須。また、警備員も確実に安全ではなく、警備員に住人のスキを見せてはならない。
- 自宅に高額の貴金属、現金等は保管しないことが安全管理の基本であるが、仮に保管する場合には寝室等第三次防衛線内に施錠をして保管することが不可欠。

発生国名	ケニア	犯罪の種類	空巣
発生場所 市町村名	シアヤ市	自宅(教会内)	
発生日時	平成11年2月20日～2月21日の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <input checked="" type="checkbox"/> ケニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

1日家を留守にして翌日戻ったところ、窓から空巣が入った跡があり電化製品を中心に盗まれていた。窓は壊されていないが、簡単に開く構造になっている。パーグラーパーは縦に2本15cm間隔で入っている。網戸は破られていた。リビングルームはカギをしていたが天井に穴を開け侵入。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金	15,000ケニアシリング(日本円換算で約28,500円)			
	・暴行傷害(負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪(品名・数量)	電化製品			
	・物品損壊(品名・程度)	天井50cm×50cm 2カ所			
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応	すぐ神父さんに話をし、警察へ。				

安全対策のポイント

- ・住居防犯の第一次・第二次・第三次防衛線は確実に安全対策を施すことが鉄則。「簡単に開く構造」の窓と知りながら対策を施さなかったのは安全管理意識の欠如といわざるをえない。15cm間隔の鉄格子も役に立たなかった。鉄格子と窓の間隔も点検する必要あり。
- ・「天井に穴を開け」リビングに侵入されるような脆弱な住宅構造にも問題がある。住宅を決定する際には、外部の防衛線のみならず各部屋間の独立性にも十分注意を払う必要がある。

発生国名	ケニア	犯罪の種類	事務所荒らし
発生場所 市町村名	ナイロビ市	郊外	事務所
発生日時	平成10年11月26日 午後12時55分頃～午後1時35分頃の間		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 国籍 ケニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

昼食を自分の事務室でとった後、12時55分頃事務室を離れ屋外に出て、2時すぎに事務室に戻ったところ、机の上で昼食前まで使っていたコンピュータがなくなっているのに気がついた。秘書が1時35分頃に事務室に戻ったので、盗難は、12時55分から1時35分の間にあったと推定される。

凶器	不明	種類		数値	
犯人	不明				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害 (負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪 (品名・数値)	ラップトップコンピュータ 1			
	・物品損壊 (品名・程度)				
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応	すぐ事務所のセキュリティおよびJICAセキュリティアドバイザーに連絡した。				

安全対策のポイント

- ・機材等の貴重品が置かれている部屋を施錠せずに空室にしたことが問題。犯行は外部の者か内部の者かは判別できないが、部屋の外から空室状況、置かれている物品等が容易に見える状態は、戸締まり、施錠等をしている場合より犯罪発生確率は圧倒的に高い。
- ・自宅、事務所、その他いかなる建物の内部においても、部屋を空けるときは必ず閉扉、施錠をすること。

発生国名	ケニア	犯罪の種類	ひったくり (未遂)
発生場所 市町村名	ナイロビ市	市街地	路上
発生日時	平成10年12月7日 午後5時40分頃～午後5時50分頃の間		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 <input checked="" type="checkbox"/> ケニア


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

グローブシネマラウンダーボードにて渋滞中、窓を開けていたところ運転席側へ子供（15歳くらい）が話しかけてきた。何かと思ったところ助手席の窓から私の時計をひったくろうとした。幸い時計はバンドが外れ、車内に落ちたので被害はなかった。

凶器	無	種類		数量	
犯人	2名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害 (負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪 (品名・数量)				
	・物品損壊 (品名・程度)		時計のバンドが外れた。		
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応					

安全対策のポイント

- ・ 車輛を運転中の時計強奪犯罪は海外においては日常茶飯事であり、「日本においては考えられないような犯罪」の一つである。特に、右側通行での左ハンドルの場合、左手につけた時計を狙ってのひったくり犯罪が後を絶たない。犯人は時計本体のみが目的であり、バンドはちぎれても構わないため、強引に引きちぎろうとする。怖いのは時計の被害よりもそのときできる「引っ掻き傷」による化膿等の炎症である。
- ・ 車輛運転時は、開窓は必要最小限度にし、また、停車中は周りに気を配る等の対策が不可欠である。

発生国名	ケニア	犯罪の種類	屋外強盗
発生場所 市町村名	ナイロビ市	市街地	バス停
発生日時	平成10年12月12日 午後7時05分頃～午後7時10分頃の間		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男  ケニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

6～7人の強盗に後ろから襲われ、首を絞められた。その後は記憶を失い、気がついたときには、身の回りの貴重品は強奪されていた。

凶器	有	種類	ナイフ	数値	
犯人	7名				
被害内容	・現金	日本円換算で5,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数値）	パスポート、IDカード、日本の運転免許証			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	首を絞められ、声を出すことができなかったため、抵抗はしなかった。				
被害者（事務所）の犯行時の対応	ただちにバスに乗り、ホテルまで向かい警察へ連絡をした。				

安全対策のポイント

- ・従来から立入禁止となっている危険な地域での、しかも夜間の1人歩きが招いた犯罪である。この事例に匹敵する犯罪は、刃物を突きつけられたり、突然殴られたり、暗がりへ連れ込まれたり等の前例があり、本例のように記憶を失った例はほとんどないが、この種の犯罪は一つ間違えば命に関わる状況をはらんでいる。
- ・いかに慣れ親しんだ地域であろうが一時も気をゆるめず、外出時は常に自分の周囲に気を配り、危険を予知した場合にはとっさに避難行動に移れるような用意周到さが海外生活では必要である。また、事務所が「立入禁止」としている地域への立ち入りは厳禁。

発生国名	ケニア	犯罪の種類	ひったくり
発生場所 市町村名	モンバサ市	市街地	路上
発生日時	平成10年9月26日 午前8時頃～午前8時10分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 国籍 ケニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

オールドタウン内で買物した後、オールドポートをすぎた小路でセカンドバッグを後ろから引っ張られ、数秒争った後にバッグをとられ、犯人はそのまま逃走した。

凶器	無	種類		数量	
犯人	1名				
被害内容	・現金	日本円換算で約800円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）	右腕に1週間のケガ			
	・物品略奪（品名・数量）	カメラ1、ICDiatinany 1、IDカード、セカンドバッグ			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	「どろぼー」と叫んだが、誰も出てこなかった。				
被害者・事務所の犯行時の対応	・目撃者探し・警察届出				

安全対策のポイント

ひったくり犯罪については、その程度により対応が異なるが、本件は数秒にわたり争っている。万が一犯人が凶器を持っており攻撃してきた場合には、傷害事件に発展する恐れもあり、安全管理の原則である「無抵抗」に徹しなければならない。「命」と「物」のバランスを常に頭に入れておくことが重要である。

発生国名	ケニア	犯罪の種類	ひったくり
発生場所 市町村名	ナイロビ市	バス停	
発生日時	平成10年9月29日 午後4時20分頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <small>国籍名</small> ケニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

街で用事を済ませ（銀行からお金をおろす、E-mail使用料を払う等）、帰宅するために公共バスに乗ろうと、一つ手前にあるバス停を歩いているところを後ろからケニア人男性2人にカバン（アイバッグ）を引っ張られた（そのとき、カバンの肩ひもは一方だけかけ、カバンは前向きにして持ち、手でファスナーの部分はおおっていた。左手はスーパーの袋を持っていた）。あわてて肩ひもを押さえたが、相手が強く引っ張り肩ひもが切れてそのまま犯人はカバンを持ち、走って逃げた。現場はバスに乗る人たちがたくさんいた。時間的にはまだ明るい。とられてからすぐに後を追って走った。他に2人ケニア人も後を追って走ったが、細い道や家がゴチャゴチャしている地域に入ってしまったので見失った。

凶器	無	種類		数量	
犯人	2名				
被害内容	現金	400ドル他			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	物品略奪（品名・数量）	ポケベル1、計算機1、カギ（自宅・職場）、手帳、傘、文房具、文庫本、教材、IDカード、銀行のチェックブック2、カバン、その他			
	物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	犯人の後を追って走った。				
被害者事務所等の犯行時の対応	お金がまったくなくなってしまったので、すぐJICAオフィスへ直行した。				

安全対策のポイント

- ・状況から判断すると、犯人は銀行から後をつけて来て犯行に及んだきらいがある。日常の行動、特に銀行の出入り時には十二分に周囲に気を配る必要がある。いったん近くの場所（店等）に入り、後ろの安全を確認することも必要。
- ・犯行後犯人を追跡しているが、過去において犯人が居直り、逆に追跡者が腹部創傷を負った事例があるように、とられた物は決して取り返そうとしないことが鉄則。「命」と「物」のバランス。

発生国名	マラウイ	犯罪の種類	自動車強盗
発生場所 市町村名	リロングウェ市	市街地	路上
発生日時	平成10年10月28日 午後7時頃～午後7時30分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 国籍 マラウイ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

ローカルスタッフ自宅前路上で、運転を交替するために車から降りたとき、後方から何か大声を出しながら走り寄ってきて、銃口を下向きで一発撃った。後首をつかまれ車に押しつけられた。車に押し込まれた。運転席に1人、助手席にローカルスタッフと彼を押さえている男、後部座席に私と銃を持った男が乗った。「車と金がほしいだけで、殺したくない」と何度も言われた。途中でポケット内の物を調べた。15分ほど走ってから、車から降ろされ、道に伏せるよう言われたその後、「行け」と言われたので、走って道のない荒地のほうへ逃げた。少し走ってから車のほうを見ると、とられたランドクルーザーと、白い車が走って行くのが見えた。

凶器	有	種類	長銃（ピストルより長め）	数量	1
犯人	4名以上				
被害内容	・現金	100USドル、6000クワチャ（日本円換算で約14,000円）			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	ランドクルーザー、パソコン、モトローラ（携帯用無線）、腕時計、眼鏡、サングラス、ヘッドライヤ、ペンライト、切手、バッグ、旅行用バッグ、化粧品、衣類			
被害者の犯行時の対応	いわれたとおりにする。相手の顔を見ない。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	夜は絶対に外出しない。				

安全対策のポイント

- ・典型的な「カージャック」犯罪例であるが、「カージャック」犯罪は車輛を強奪することで目的を達成するため、「無抵抗」に徹することが不可欠。また、「カージャック」犯は例外なく銃器を携行している。
- ・「無抵抗」に徹し安全対策の基本を守った被害者は身体への被害を免れており、「カージャック」に遭遇したときの見本的対応をしている。
- ・銃器を所持した犯罪への対応は「無抵抗」以外にはなく、すべて犯人のいうとおりに対応することが身体への被害を防ぐ基本。過去の「カージャック」事例において、殺人を含む身体的被害を受けた者は例外なく抵抗している。

発生国名	マラウイ	犯罪の種類	空巣
発生場所 市町村名	リロングウェ市	市街地	隊員連絡所
発生日時	平成10年10月10日～10月11日の間 夜～翌早朝頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <small>（国籍）</small> マラウイ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

隊員連絡所女性寝室の窓ガラス3枚（ルーバー式）がなくなっており、犯人は、ここから侵入したと思われる。応接間に置かれていた事務所備品（ステレオセット、衛星放送チューナー等）と、隊員パソコン等がバッグごとなくなっていた。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	ステレオセット、衛星放送チューナー、ビデオデッキ、リモコン（ビデオ、テレビ）、バッグ、パソコン2、パソコン周辺機器、文具、眼鏡、小切手帳等			
	・物品損壊（品名・程度）	窓ガラス3枚			
被害者の犯行時の対応	誰もいなかったため、わからない。				
被害者・勤務所等の犯行時の対応	10月11日朝、使用人が犯行に気づき警察へ通報。10月12日、警察へ再通報、証明発行待ち。				

安全対策のポイント

- 留守中の協力隊員連絡所が狙われているが、警備員、使用人も犯行に気づいていないのは警備員がいなかったこととあり、警備員の交代、再教育は不可欠（警備会社への厳重注意を含む）。
- ルーバー式窓ガラスは途上国ではよく使われているが、ガラスの取り外しは非常に簡単であり、この種の窓には鉄格子（バークルーバー）を取り付けることは不可欠。
- 一つの部屋へ侵入した犯人が他の部屋へ侵入することを防ぐためにも、外出時には必ず施錠することも不可欠。また、外出時には現金、貴重品は室内の目につくようなところに残さないことにも要注意。

発出国名	マラウイ	犯罪の種類	空巣
発生場所 市町村名	ムズズ市	郊外	自宅
発生日時	平成10年7月14日～7月19日の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 1名 マラウイ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

7月19日、夜9時頃帰宅。そのときは、警備員もいて、何も問題がないと思い、家へ入った。まずはじめ短波ラジオがないのに気づき、そして下記の物（被害内容欄）がないのに気づき警備員を問い質した。彼の勤務時間は、夕方6時～朝6時だが、昼は何もすることがないので家の敷地内でブラブラしている。よってほとんど1日中いる。窓もドアも破られていないので、犯行は計画的で、私の家をよく知っているものがやったと思われる。被害時の約1カ月前に家政婦をクビにした。クビの理由は、家政婦が毛布、電池、フィルム（カメラ用）を盗んだため。

凶器	無	種類		数値	
犯人	2名				
被害内容	・現金	日本円換算で約120,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数値）	スーツ2、シャツ5、シューズ3、時計1、短波ラジオ1、服1			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所得の犯行時の対応	警備員と家政婦は今、警察によって拘束されている。				

安全対策のポイント

- ・犯人は特定できていないが、あえて使用人（解雇した者を含む）とすれば、本人の使用人管理に問題があったと思われる。
- ・使用人との契約は厳守し、必要以上に敷地内に入れない。使用人には規律ある態度をもって臨む。使用人を雇うときは身元の明確な者を雇い、その際可能な限りの身元調査を行う。使用人を解雇する場合は感情的なしこりは残さず、また使用人が使用していたカギはすべて交換する等の対策が必要。
- ・ドア、窓にはすべて「内カギ」を付けることも必須。

発生国名	マラウイ	犯罪の種類	忍込み(未遂)
発生場所 市町村名	ナテゼ市	自宅	
発生日時	平成10年5月31日 午後11時30分頃～午前0時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <small>住居者</small> マラウイ


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

夜11時30分頃、普段聞かない不審な物音がする。しばらく放っておく(すでに就寝していたので)。0時頃、音がいつまでもやまないで、泥棒と思いサイレン付メガホンを鳴らす。キッチンへ行くとバーグラーバーにナベがはさまっていた。スライドガラスが2枚外されていて、どうやら手だけを入れて盗もうとしていた模様。その後調べたらリビングのスライドガラス4枚も外されていた。人が通れるバーグラーバーの間隔だが侵入はしなかったらしい。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害(負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪(品名・数量)				
	・物品損壊(品名・程度)	ヤカン、ナベ各1			
被害者の犯行時の対応	サイレン付メガホンを鳴らし数分たってから、寝室を出て、各部屋に人が残っていないか確認した。				
被害者・職務 所等の犯行時の対応	すぐに板を打ちつけ窓をふさいだ。翌日事務所に報告。				

安全対策のポイント

- ・深夜、外で物音がしても寝室から出ずサイレン付メガホンを鳴らしたのは的確な対応であった。
- ・バーグラーバー、カギ等住居防犯を再確認し、より強固な防犯対策をとることも肝要。
- ・夜間警備員の備上、警備会社の巡回見回り等可能であれば処置することも一案。

発生国名	マラウイ	犯罪の種類	空巣（未遂）
発生場所 市町村名	KAMWENDO町	郊外	自宅
発生日時	平成10年4月21日 午前0時30分頃～午前1時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男  マラウイ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

犯行時は任国内旅行中で10日間家を開けていたが、通常、外泊するときは警備員に当直をお願いしている。深夜に3人組の賊が現れ、2人は家の外で見張っていて、1人が勝手口の扉の隙間にナイフのような細い棒を入れて、カギをこじ開けて室内に侵入した。この扉にはJICA事務所と同様の、扉が開くと鳴るアラームが取り付けられており、この音に気づいた警備員がメガホンのサイレンを鳴らしながら駆けつけると、あわてて逃げていったそうである。盗まれたものは何もなく、被害は扉に取り付けであったカギが1個壊されただけに終わった。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	3名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）		扉についていたカギが壊される。		
被害者の犯行時の対応	警備員がJICA事務所貸与のメガホンに付いているサイレンを鳴らしながら駆けつけると、犯人は退散した。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	新しいカギに取り換えた。				

安全対策のポイント

- ・サイレン付メガホン、アラームの威力が奏効した事例。警備員の対処も的確・迅速であった。
- ・住居防犯のうち、扉部分（カギ部分）の弱点をつかれている。カンヌキ等さらに強固な設備が必要。警備員はただ雇うだけでなく、その後の防犯教育を施すことによりその能力が倍増する。警備員に対しては最低限、①プレゼンス（決まった時間、決まった所にいる）、②レスポンス（即時対応）、③レポート（報告）を教育すること。

発生国名	マラウイ	犯罪の種類	すり
発生場所 市町村名	リンベ市	市街地	バス停
発生日時	平成10年5月5日 午後5時頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <small>国籍</small> マラウイ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

マゴメロ～リンベのミニバスからリンベ～プランタイヤのミニバスに乗り換えるため、人混みの中を歩いてバスを探していた。プランタイヤ行きのバスを見つけ乗り込もうとしたとき、運転手が「バッグバックの上部のポケットが少し開いている」と指摘、中を確認してみるとそこに入っていたカメラがなくなっていた。マゴメロ～リンベのバスを降りるときは、ファスナーがしっかり閉まっていたので、バス停を歩いている間にすられたものと思われる。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	カメラ1			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	周囲にいたマラウイ人たちにカメラを盗まれたことを告げ、目撃者がいないか聞いてみた（目撃者なし）。				
被害者・事務所の犯行時の対応	翌日、JICA事務所職員とリンベの警察へ行きボリスレポートを取得。				

安全対策のポイント

- ・荷物への不注意が招いた犯罪の事例。
- ・人混みを歩くときは特に自分の周辺、持ち物には通常にもまして注意を配ることが不可欠。特にバッグバックの場合、前後逆にして前に抱える型で防御するような対応も必要。
- ・「用心を怠らない」は、安全対策3要素の一つ。

発生国名	マラウイ	犯罪の種類	乗物盗
発生場所 市町村名	ムズズ市	郊外	自宅
発生日時	平成10年5月7日午後11時頃～5月8日午前4時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <input checked="" type="checkbox"/> マラウイ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

深夜に自宅の玄関の前に置いていたバイクを盗まれた。バイクはロックしていたため押しでは運べないので犯人は少なくとも3名以上だと思われる。犯行時は寝ていた。

凶器	不明	種類		数値	
犯人	3名以上（推定）				
被害内容	現金				
	暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	物品略奪（品名・数値）	バイク			
	物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	寝ていた。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	警備員を雇う。犬を飼う。				

安全対策のポイント

- ・住居防犯の鉄則である「第一、第二、第三次防衛線」の大切さを忘れている。第一次防衛線に施錠しないということは外（往來）と同条件で誰でも簡単に侵入できる。
- ・「人目につくところに金目のものは置かない」のも安全対策の基本。バイク、自転車といえども、可能な限り屋内に保管すること。不可能な場合は、バイクロックだけでなくチェーン錠で、立木、塀等と結ぶ等の措置を講ずることも必要。

発生国名	セネガル	犯罪の種類	空巣
発生場所 市町村名	ファティック州フイムラ郡フイムラ村	郊外	自宅
発生日時	平成10年5月3日午後3時15分頃～5月4日午前11時30分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <small>住居者</small> セネガル

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

5月4日にファティックの車輛を使用する予定があったので、5月3日午後3時15分に自宅を出てファティックに向かった。その夜はファティックに宿泊。ガラージ（バス乗り場）で「どこへ行くの」と村人から聞かれれば「ファティック」と答えていたので、その日私が自宅にいないことは誰でも容易に知ることができた。翌日フイムラに戻ったのは11時30分頃、家の扉が全部開けられていた。犯人は家の門の裏側から侵入した模様（足跡があった）。観音開きのドアをこじ開けて部屋の中に入り、太陽電池システム一式を取り去っていった。コードを切るのに私の食器棚にあった包丁を使用した模様（包丁がトイレのそばに捨てられていた）。部屋の中の棚やカバンの中は荒らされており、お金を探していた模様（しかし貴重品はスーツケースの中に入れていたので無事だった）。蛍光灯は2部屋と台所、トイレの計4カ所に設置していたが、それらすべてが取り去られていたことから、家の様子を多少知っている者の犯行かもしれない。被害品は太陽電池システム以外は小さな軽いものばかりなので、最初から太陽電池システムを狙っていたのだと思われる。私の家の周りには隣接する家がなく、一番近い斜め向かいのお宅にたずねても物音は全然聞かなかったとのこと。

凶器	有	種類	包丁	数量	1
犯人	1～2名（推定）				
被害内容	・現金	日本円換算で約200,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	太陽パネル1、レギュレーター1、蛍光灯4、コンセント2、コネクター4、コード、ヘッドホンステレオ1、懐中電灯2、電池5、眼鏡2、カバン1、はみがき粉1、折り紙			
	・物品損壊（品名・程度）	ドア2カ所。カギの部分がこじ開けられていた。うち一つは取っ手も外されていた。			
被害者の犯行時の対応	憲兵隊に連絡して現場検証をしてもらった。後日（5月6日）盗難届を提出した。				
被害者・職務所等の犯行時の対応	警備員を雇うことを検討中。				

安全対策のポイント

- ・＜安全管理3原則＞の一つ「行動を予知されない」を怠ったために起きた犯罪。
- ・家を留守にするような行動は、たとえ相手が使用人であっても絶対口外してはならない。犯人側も「安全な犯罪」を模索している。
- ・防犯上は、犬を飼う、扉を強固にする、窓・扉用鉄棒の設置、強固なカギ、警備の配置等あらゆる手段を講じる必要があるが、隣接する家のない住宅周辺の状況も決して安全ではなく、より安全性の高い住居への転居も考える必要がある。

発出国名	タンザニア	犯罪の種類	屋内強盗
発生場所 市町村名	キリマンジャロ州モシ北方	自宅	
発生日時	平成11年1月1日 午後8時30分頃～9時25分頃の間		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男女 <input checked="" type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女 タンザニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

発生直前に当直ガードマンの1人が、夕食を作るためマッチがほしいと言い、もう1人のガードマンが腹の具合が悪いと訴えて妻を門のほうに呼んだ。妻が腹痛といわれた者と相対していたとき背後から他の賊によってはがいじめにされ、地面に押さえ付けられて屋内に案内させられた。妻は寝室で手を縛られ、金品を物色された後に、私が体調をくずして就寝中である、マスターベッドルームへ案内させた。8時45分に踏み込まれた。急に点灯され、ベッドの上に来られ、蛮刀で取り押さえようとするのを手で受け止めたとき傷を負った。騒がないこと、正直に物を出せば命はとらないといいながらロードで手を縛りあげ、現金、車のカギなどを要求し、車のカギの場所を教えると、妻に次の部屋の案内を命じて、金品を物色して四輪駆動車に詰め込んで9時25分、退散した。

凶器	有	種類	蛮刀	数量	
犯人	4名				
被害内容	・現金	USドル3,500 TSHS840,000 KSHK20,000 日本円400,000円			
	・暴行傷害 (負傷部位・全治所要日数)	左親指傷 (軽度)			
	・物品略奪 (品名・数量)	46品目 89点 (公用車、四輪駆動車、JICA貸与発電機3.5KV、公用コンピュータ、プリンタ、私用カメラ、TVセット、パスポート、家庭電化製品、新品の衣類等)			
被害者の犯行時の対応	電話機、無線機が盗まれたので歩いて近くの専門家宅へ行き、関係者連絡。すぐに警察へ出向き、まず警察を案内して現場を見聞。鑑識が来て指紋を採取、一方妻の調書を作成。盗難リストは後日提出することで決着、以後昼夜2人の警察官が配備されている。				
被害者・事務所等の犯行時の対応					

安全対策のポイント

- ・警備員が賊に変身した犯行例。警備員との間は日頃からの「信頼関係」により安全が保たれるのが通例であるが、「信頼関係」を信じ切ってしまうと相手にこちらの「甘さ」をつかれる。現地人との信頼関係は「油断なき信頼関係」が求められる。本事例は警備員派遣会社をも巻き込んだ犯罪の可能性も高く、当該警備会社は日頃から問題含みであった由。
- ・警備会社の選択には「安全性」「信頼性」を第一とし、情報に関係者から入手することも必要であろう。警備員といえども現地人に変わりはなく、容易に犯罪者に変身することは予見可能であり、警備員にもスキを見せない心構えが必須。

発生国名	タンザニア	犯罪の種類	空巣
発生場所 市町村名	ダルエスサラーム州ムササニマサキ地区	自宅	
発生日時	平成10年4月26日 午前7時頃～午後5時頃の間		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 国籍 タンザニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

留守中の午前7時から午後5時までの間に、裏戸近くに隠していた家の合カギを偶然発見して、家の中に侵入し犯行に及んだと思われる。1階と2階の間には侵入防止の扉を設置しており、カギもかかっていたが、そのカギを1階の目立たないところに隠してあったにもかかわらず発見され、2階に侵入された。また、現金等の貴重品を入れた引き出しにはカギをかけて、そのカギを番号カギのある小型トランクに収納していたが、その番号カギも開けられて引き出しの現金も盗まれた。

警備2名を雇用していたが、事件後来なくなり犯行の状況等からこれらの者の犯行と思われる。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	2名(推定)				
被害内容	・現金	シリング、ドル			
	・暴行傷害(負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪(品名・数量)	ラジオ1、ラジオカセット2、ハサミ2、包丁3、ネックレス2、腕輪1、乾電池(2箱)、靴2、帽子1、携帯電話1、無線機1、計算機1、ポット1、カップ、靴下1等			
	・物品損壊(品名・程度)				
被害者の犯行時の対応	警察に届け、被疑者の自宅を捜索、指紋も取る。				
被害者・勤務所等の犯行時の対応	HICA事務所、大使館領事および大家等に報告した。また、カギを交換し、新たに警備員を配置した。				

安全対策のポイント

- ・使用人が犯人と思われるが、使用人といえども犯罪者予備軍であることを強く認識しなければならない。むやみに家の中の様子を知らせたり、自分の行動を公言することは犯罪を醸成することを肝に銘じることが大切である。
- ・カギ等の貴重品をたとえ隠してでも屋内へ残して外出することは厳禁。貴重品はカギのかかる場所へ保管し、施錠するか必要最低限は持ち歩くことも必要(特にカギは肌身から離さない)。
- ・使用人を採用するにあたっては、身元のしっかりした者等信頼できる者を採用することも大切。

発生国名	タンザニア	犯行の種類	ひったくり
発生場所 市町村名	ダルエスサラーム市	市街地	路上
発生日時	平成10年9月20日 午後4時00分頃～午後4時01分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 1名 タンザニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

市場（ダルエスサラーム市内でも危険といわれている地区）から、自宅への帰路途中、背後に人の気配を感じたため振り向くと、10代後半～20代前半くらいの男がすぐそばにおり、一瞬おかしいなど思ったが、私を追い越し左方前方2mくらいの距離で私と同方向に歩き出したため、私のほうから一言あいさつすると、振り向きざまに「なんだって?」と言いながら、私が左腕にはめていた腕時計をひったくった。その男は、それまでの進行方向とは逆方向に逃亡。一緒に走って逃亡した男が他にもう1人いた。未舗装路のゴミゴミした小路ではあるが、人はまばらに歩いているような場所で目撃者もいた。時計をはめた左腕に手さげ型のバッグと買い物袋、また、右手にも荷物を持っていたため、狙われやすい状況だったと考える。

凶器	無	種類		数量	
犯人	2名				
被害内容	・現金	日本円換算で約4,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）	かすり傷			
	・物品略奪（品名・数量）	腕時計 1			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	とっさのことで何が起こったのかわからなかったが、逃亡していく2人を目にして「どろぼう！ どろぼう！」と叫ぶだけで精一杯だった。				
被害者・事務所着の犯行時の対応	特に何もせず、あきらめる。周囲の人々（目撃者を含め）にもあきらめるようさとされる。				

安全対策のポイント

- ・危険を予知しながら、自分のほうからあいさつをして相手の注意を引いたことはさらに危険の中に自分の身を投じてしまっている。危険を予知したらいち早く危険を回避することは安全管理の基本。
- ・逃亡する犯人を追わなかったことは不幸中の幸いといえる。財産目当ての犯罪は財産を奪うことでその目的を達し、身体への攻撃はほとんどない。
- ・市場、バスターミナル等の周辺は大勢の人物が集まる犯罪多発地帯であり、まして危険な市場であれば利用を避けるなどいつにもまして注意が必要である。

発生国名	タンザニア	犯罪の種類	車上狙い（未遂）
発生場所 市町村名	ダルエスサラーム市	市街地	路上
発生日時	平成10年9月26日 午前11時00分頃～11時03分頃の間		
被害者	派遣形態	事務所員（ドライバー）	男 国籍名 タンザニア


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

雇用しているドライバーを1人で9時半頃買い物に行かせたところ、11時頃道路沿いの飲料水等販売店近くに駐車した同職員の車両の窓ガラスを割られた。ドライバーは店員と話をした後、金をとりに車に戻ったところ助手席にガラスの破片が散乱しているのを見つけ、助手席三角窓が割られているのに気がついた。その際2人の若い男が早足に立ち去ったのを目撃した。

凶器	有	種類	先の尖った金属製の物	数量	
犯人	2名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）		自動車の助手席三角窓破損		
被害者の犯行時の対応	ドライバーはただちに職員宅に戻り被害に遭ったことを報告する。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	職員はドライバーより報告を受け、破損した三角窓を購入し取り付ける。				

安全対策のポイント

- ・車上狙いは最近世界的に急増している犯罪。
- ・対策としては、①車は安全な場所に駐車する、②車中に物を置かない、③施錠は確実にする等であるが、1人で買物に行かないことも防犯上重要なポイントである。また目立つ車に乗らないことも防犯上効果は大きい。

発生国名	タンザニア	犯罪の種類	置き引き
発生場所 市町村名	ムベヤ市	郊外	バス内
発生日時	平成10年8月13日 午前9時30分頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女  タンザニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

9時バスステーション発車後、30分ほど経過して停留所に到着。まだ乗客が少なかったため2シートに1人ずつ座っていた。デイバッグを足元にカメラケースを通路側のシート上に置いていたが、あまりに車外の物売りが窓ガラスをたたきうるさいため、座り位置を変えカメラバッグの上に、外から見えないう布をかけていた。乗務員に「窓を閉めておけ」と言われ全部閉めていたが、ロックがなかったため発車と同時に外から開けられてカメラバッグを盗まれ、急いでバスを止め外を探すが見つからない。

凶器	無	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金	1,200USドル (日本円換算で約180,000円)			
	・暴行傷害 (負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪 (品名・数量)	カメラバッグ、カメラ、充電器、充電電池2、印鑑、滞在許可証、パスポート、国際運転免許証、日本運転免許証、国際ライセンス (ダイビング5種)、免許 (四級船舶、潜水士)、JCBカード			
	・物品損壊 (品名・程度)				
被害者の犯行時の対応	盗難に気づいた時点でバス外へ出て探す。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	バス乗務員が好意で警察へ同行。派出所で対処できず中央警察署へ。				

安全対策のポイント

バス旅行中は荷物は網棚には上げず手許に保管することは鉄則であり、本人もこの鉄則を忠実に守っていたと思われるが、犯人が外から窓をたたいたときに荷物を窓側に置いたのは、車内での盗難防止策からであろう。この場合、荷物を休で抱えるか、足許に置き足で確保する等、もう一考ほしかった。

発生国名	タンザニア	犯罪の種類	詐欺盗
発生場所 市町村名	トゥンドゥマ市	郊外	路上
発生日時	平成10年6月26日 午前8時45分頃～午前9時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> タンザニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

ザンビアのナコンデとタンザニアのトゥンドゥマの国境にて両替屋にからまれていると、男性1人に呼び止められ、その両替屋ともども現金のチェックということで、提示を求められた（犯人は検査官だと名乗った）。その場で所持金すべてをチェックされ、そのときに100USドル札を偽物とすり替えられていた。

凶器	無	種類		数量	
犯人	2名				
被害内容	・現金	日本円換算で約14,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	疑わしいと思いながらも、検査官だと名乗られたことで対応した。				
被害者・職務所持の犯行時の対応	その金を両替屋に持って行くまで確信がもてずいた。				

安全対策のポイント

- ・銀行、両替屋近辺は大金を所持する機会が多く「犯罪の巣」であり、厳重な注意が必要。
- ・検査官を名乗る詐欺犯も多数横行しており、たとえ声をかけられてもむやみに現金を提示せず、①先方の身分を確認する、②仮に本物の検査官であっても安全な屋内で提示する等の対応は不可欠である。
- ・なお、世界的に見ても街中で外貨を確認するような公的制度をもつ国はほとんどない。

発生国名	タンザニア	犯罪の種類	車上狙い
発生場所 市町村名	ダルエスサラーム市中心部	路上 (パーキングエリア)	
発生日時	平成10年6月18日 午前9時20分頃		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 <small>国籍</small> タンザニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】	
<p>駐車中の車をバックで動かそうとしたとき、2～3名の窃盗団で、様子をうかがっていたグループの1人が左ドアを開けるやいなや、左座席に置いていたカバンを奪って逃走した。十分注意し車から降りなかったが、わずか1秒たらずの間に奪われ逃げられた。ミニバス等で混雑しており、即座に追いかけることができなかった。</p>	

凶器	不明	種類		数量	
犯人	3名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害 (負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪 (品名・数量)	カバン、スベアメガネとケース、筆記用具類他、仕事用の書類一式 (種々)、携帯電話1			
	・物品損壊 (品名・程度)				
被害者の犯行時の対応	朝の混雑時で追いかけて得ず。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	中央警察署にはレポート提出。				

安全対策のポイント
<p>車上狙いへの対策等は、①車中に物を露出して置かない、②確実な施錠、③乗降時の周辺の安全確認等であるが、本例はそのいずれをも満たしていなかった。さらなる注意喚起が不可欠。</p>

発生国名	ジンバブエ	犯罪の種類	自動車強盗（未遂）
発生場所 市町村名	ハラレ市	市街地	路上
発生日時	平成10年12月15日 午後5時10分頃～午後5時15分頃の間		
被害者	派遣形態	JICA雇用現地人運転手	男 ジンバブエ


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

午後5時10分頃、調査団員をJICA事務所で降ろした後、車の常時駐車場としているMEIKLES HOTELへ向かうため、2ndStreetを南進し、左折のため左側に寄り信号で停止していたところ、後から追走してきた車（男3人）から1人が走り出て、当方車左後部のガラス窓を手でたたき割り、ロックを解除しようとした。周囲にいた人間の「泥棒」という声と、本人が車をスタートさせたため、犯人は車に戻り、逃走した。同車および目撃していた車で500mほど犯人車を追走したが、逃走された。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	3名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）		自動車の後部窓ガラス全壊		
被害者の犯行時の対応	引き続きの襲撃を避けるため、車を発進させた。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	1. 犯人車の追走（失敗） 2. ハラレ中央警察署へ被害届を出した。				

安全対策のポイント

- ・ 車輛運行時の一時停車中の犯罪は全世界的に急増しつつあり、その対応に苦慮しているのが現状である。この種の犯罪も「カージャック」であり、犯人は例外なく銃器を所持しているとみて間違いはなく、「無抵抗」に徹することが不可欠。本事例では犯人逃走後追走しているが、犯人の反撃を避けるためには絶対に追走してはならない。
- ・ 防止策としては、赤信号の手前で減速惰性走行しながら信号が変わるのを待ったり、赤信号を避けて運転したり、一時停止中は周囲に気を配ることがよいといわれているが、どれも決定的な防止策にはならず、犯罪に遭遇したら「無抵抗」に徹することが唯一身を守る手段である。

発出国名	ジンバブエ	犯罪の種類	屋外強盗
発生場所 市町村名	ハラレ市	市街地	路上
発生日時	平成10年10月17日 午後12時30分頃～午後12時50分頃の間		
被害者	派遣形態	事務所員	男  ジンバブエ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

ショッピングを終えて車に乗り込んだ直後（集中ロックをかける前）、3人の男が近づいてきて、1人が助手席ドアに手をかけた。助手席では配偶者がロックしたため未遂だったが、不意に運転席を開けられたため、閉めるよう叫びながら抵抗していた。その間に、おそらく後部座席ドアを開け、前方シート間に置いたバッグをとられたものと思われる。賊は、ゆっくりと歩いて離れていったため襲われた自覚がなく、次に駐車したところで盗難に気づき、急いで戻ったが犯人は捕捉できず、目撃者の話を聞いてから中央警察に届け出た。

凶器	無	種類		数量	
犯人	3名				
被害内容	・現金	1,500ジンバブエドル（日本円換算で約8,000円）			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	バッグ、クレジットカード1、銀行カード1、小切手帳1、IDカード1、携帯電話1、眼鏡1、等			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	・助手席ドアはロック、運転席ドアを開けられたため、閉めるよう叫んで閉めた（抵抗）。 ・上記の間に盗まれたと思われるが、当初気づかずいたため無抵抗。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	・市中央警察に届出 ・銀行、カード会社に連絡				

安全対策のポイント

- ・ 車輛の乗降等における強盗犯罪の典型的な事例。車輛の乗降時には常に周囲に気を配り、危険を予知した場合には乗降を遅らせる、ロックは必ずする、車中に物を置かない等基本的な対応が不可欠。特に人が集まる市場、ターミナル、劇場等においては一層の注意が必要。
- ・ 本事例は、注意を運転者に集中することで同乗者の注意をそらし、そのスキをついて犯行に及んでいるが、このような犯行例はいついかなる状況においても発生しており、不断の危機意識の継続が要求される。

発生国名	ジンバブエ	犯罪の種類	ひったくり
発生場所 市町村名	ハラレ市	路上	
発生日時	平成10年1月30日 午後10時頃～10時30分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 ジンバブエ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

Second st.と Harbert Chitepo Aveの横断歩道をわたる頃から1人の男が「家に帰るお金がないから3ドルくれないか」と言い寄って来て、横断歩道をわたって一つめの路地を越えたときに前方から2人組の男が歩いてきて、「何とかしてくれないか」と声をかけたときに道路側の男が私の肩にかかっていたバッグ(小)を引きちぎり、路地に逃走。いつのまにか後方の男も消えていた。路地で待っていた車が3人の男を乗せた。追いかけて、窓ガラスを割ったがそのまま逃走してしまった。

凶器	不明	種類		数	
犯人	4名				
被害内容	・現金	10USDドル、150ジンバブエドル			
	・暴行傷害(負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪(品名・数)	メガネ、サングラス、部屋のカギ、ホテルのカギ、玄関のカギ、Mars Card、手帳、くし、バッグ			
	・物品損壊(品名・程度)				
被害者の犯行時の対応	車まで追いかけたが、窓ガラスを割っただけで、彼らは逃走。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	自分の部屋にスペアキーがあったので、外からよじ登って窓から部屋に入り、スペアキーを利用した。				

安全対策のポイント

- ・最近、治安悪化が顕著なジンバブエにおいて、夜10時頃の女性の1人歩きは「無謀」といわざるをえない。安全管理意識を惹起すること。ジンバブエに限らず、全世界的な治安悪化の中で、夜間外出は厳に控えることが安全対策の鉄則。
- ・犯行後車まで追跡し、さらに窓ガラスまで割っているが、事なきを得たことは幸運としかいえず犯人が逆襲したり銃器を持っていたら、大惨事にもなりかねない。「ひったくりは追わない」基本を忘れている。

発生国名	ジンバブエ	犯罪の種類	忍込み
発生場所 市町村名	チノイ市		自宅
発生日時	平成10年1月2日 午前3時30分～4時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 ジンバブエ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

夜半より雷をともなう激しい雨。2人組は午前4時前頃にリビングの扉をこじ開けて侵入（物音に気づかず）。キッチン、クローゼットから自転車、アイロン、カーテンを盗み出す（屋外へ）。リビングにてインスタントラーメンを食べ、ブーツを脱ぎ、くつろいだ模様。その後他の三つの寝室を物色するも何もなし。私が寝ている部屋に侵入してラジカセ、靴、衣類を物色する。その物音、話し声で目が覚める。飛び起きて犯人を追いかける。犯人が逃げるときナイフ（包丁）を捨てていった。

凶器	有	種類	ナイフ（包丁）	数個
犯人	2名			
被害内容	・現金			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）			
	・物品略奪（品名・数個）	マウンテンバイク、アイロン、カーテン		
	・物品損壊（品名・程度）			
被害者の犯行時の対応	声を出し、逃げる2人組を追いかけた。			
被害者・事務所等の犯行時の対応	電話にて警察に連絡。			

安全対策のポイント

- ・「気がついたら枕元に賊がいた」ときは、いかなる理由であれ「無抵抗」。犯人が逆襲し刃物で攻撃してきたら逃げる手立てはない。「命」と「物」のバランスを完全に忘れていない。
- ・防犯上は、強固なドア、しっかりしたカギ、鉄製の窓、ドア枠等の設置、アラームシステムの導入、サイレン付メガホンの常備等、考え得る対策を取ることが必要。

発凶国名	ジンバブエ	犯罪の種類	乗物盗
発生場所 市町村名	ハラレ市	市街地	路上
発生日時	平成10年5月7日 午後2時頃～午後2時30分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <small>住居</small> ジンバブエ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

業務のため、自転車をビルの壁（鉄のバー）にチェーンロックしておいたが、30分後に戻ってくると、自転車もカギもなかった。時間は昼の2時頃。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	自転車			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・職務所等の犯行時の対応					

安全対策のポイント

- ・チェーンロックをした上での盗難は防ぎようもないが、自転車を屋内に入れる等の対策は可能なはずである。
- ・治安が極度に悪化しているジンバブエにおいては、自転車に限らずすべての身の回りには十二分に注意を払う必要がある。

発生国名	ジンバブエ	犯罪の種類	ひったくり
発生場所 市町村名	Banket	郊外	学校前
発生日時	平成10年5月10日 午後3時30分頃～午後3時35分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 ジンバブエ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

バス停から学校まで歩いている途中、車に乗っていかないと誘われ、トランクに荷物を入れ、後部座席についた。学校の正門で降りてもらい、トランクから荷物を降ろそうと思った瞬間、車は猛スピードで逃げていった。車の中での会話はいたって普通だった。車に乗車する前からわざわざトランクを開けてくれたので、何か変だと思ったが乗ってしまった。そして今思うと、トランクに荷物を入れて、乗車しようとしたところ、すぐには後部座席を開けてくれなかったのが、ドアノブをガチャガチャならしたところ開けてくれた。この時点で犯人は持ち逃げしようとしていたと思われる。

凶器	無	種類		数	
犯人	1名				
被害内容	現金	日本円換算で約6,000円			
	暴行傷害 (負傷部位・全治所要日数)				
	物品略奪 (品名・数)	デバッグ1、靴1、ズボン2、Tシャツ1、長袖2、化粧品、IDカード、布8			
	物品損壊 (品名・程度)				
被害者の犯行時の対応	警察と事務所へ電話。				
被害者・事務所等の犯行時の対応					

安全対策のポイント

- ・車を利用した犯罪は古今東西枚挙に暇がない。日本でもさることながら女性が1人で見も知らぬ者の車に乗り込むことは「無謀」の域を出るほど言語道断である。自分から進んで危険の中に飛び込んでいる。
- ・車は密室であり、かつ高速移動が可能であるためあらゆる犯罪を可能にする。本例は財産犯罪のみで事なきを得たが、一歩間違えれば大事件になるところだった。安全管理意識の欠落が招いた典型的な例。

発出国名	ジンバブエ	犯罪の種類	すり
発生場所 市町村名	ヒボバレー・グンドゥ・ムバレ	バス内かバス停	
発生日時	平成10年5月3日 午前10時30分頃～午後7時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 ジンバブエ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

ボタンのついていない後ろポケットに入っていたカード等を、バス内または、バス停ですられた模様。バスには長時間、乗車していたが、ほとんど座ることができたため、乗降時にとられたと思われる。ハラレ市内に到着後、気がついたが、すられた側の尻は、窓に密着しており、手が入る隙間もなく、また、最後に、車外に出るまでその状態であったため、ヒボバレーでバスに乗るときから、ムバレで乗るまでの間にとられた模様。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）		IDカード、バンクカード（ジンバブエ）、クレジットカード		
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・職務所等の犯行時の対応					

安全対策のポイント

- ・尻ポケットに入れた貴重品をすられるのは、安全管理意識の欠如が引き起こす典型的犯罪であり、最近この種の犯罪が激増している。
- ・貴重品は前ポケットに入れ、ボタン、ファスナー等を取り付けて密封するか、荷物に入れた場合、荷物は前に抱える等の対策は不可欠である。
- ・同種犯罪防止については、事務所が注意喚起していた欠先の被害であり、厳重な注意喚起をし、安全管理意識を軽視しない心構えが不可欠。

発生国名	ジンバブエ	犯罪の種類	屋外強盗
発生場所 市町村名	ハラレ市	市街地	路上
発生日時	平成10年9月23日 午後8時20分頃～午後8時30分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <small>（国籍）</small> タンザニア

被害者の状況【犯行の手口・被害の状況】

ウエスト・ゲートからの帰りにセカンド・ストリートから北へ歩いていたところ、セロースAveとの交差点に不審な車輛（助手席ドアを開放のまま、1人が車外に出て立ち、3人が車内）が停車しているのを発見し、危険を感じたのでバッグを持ち換え、用心のために車輛の後ろ側を通過しようとしたときに後ろからバッグをつかまれ、引きちぎられて奪われ、犯人はそのまま車輛の助手席に乗り込み逃走しようとしたため、犯人の服をつかみ奪い返そうとした。交差点を通過したところまで引きずられた後、犯人の乗った車輛はそのまま逃走した。

凶器	無	種類		数量	
犯人	4名				
被害内容	・現金	700USドル（日本円換算で約80,000円）			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	パスポート、JCBカード、P/C、カメラ、IDカード、レジデンス・パーミッション等在中のバッグ			
	・物品損壊（品名・程度）	両膝、両ひじ、左手等に擦過傷、背中に裂傷			
被害者の犯行時の対応	奪い返そうとした。				
被害者・職務所等の犯行時の対応	調整員に報告後、病院にて手当を受け、警察署に行き届出をした。				

安全対策のポイント

- ・「危険の可能性」に遭遇したら事前に予知し、道を引き返す等危険の中に身を置かぬことが不可欠。荷物を持ち換えても何の対応にもならない。
- ・最大のポイントは奪われた荷物を取り返そうとして犯人の服をつかんで離さず、そのため交差点まで引きずられたこと。交通量のある道路を長距離引きずられて軽傷で済んだのはまさに「奇跡」としかいいようがない。対向車等の動きによっては死に至っても不思議ではない状態である。「ひったくりは追いかけない」という鉄則を頭にたたき込んでおく必要あり。

発生源名	ジンバブエ	犯罪の種類	ひったくり（未遂）
発生場所 市町村名	ハラレ市	店	
発生日時	平成10年9月12日 午後12時40分頃～午後12時45分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <small>（国籍）</small> ジンバブエ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

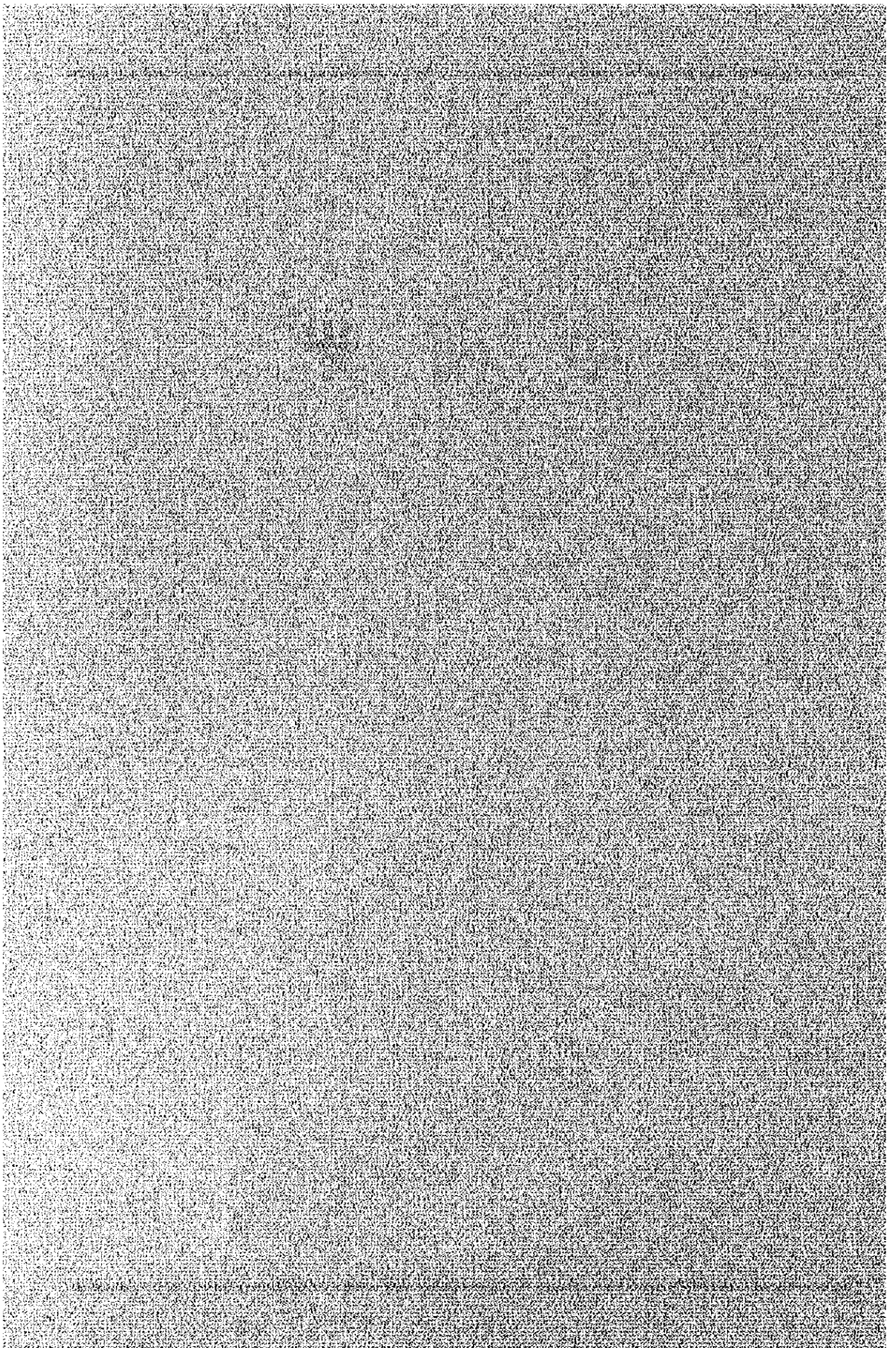
場所はハラレ市ミークルズホテル。1階に面したバン屋で買い物中、4人組の黒人男性が背後で私の財布の中身をのぞき込む様子がかがえた。そのうち1人が私の足元に車のカギのような物を落とし、必要以上に足などをさわってきたのでにらんだらいろいろないいわけをいってきた（酔っばらいがからんできた感じで）。その間に仲間の1人が私のバッグを開け財布を盗まれたが私はそれに気づかず、なぜかバッグが開けられていて「もしかして!」といった感じ。店員に4人組の男が財布を持って逃げた、と教えてもらい、アラーム機器を持って追いかけてサイレンを鳴らしたため、相手は財布を投げて走って逃げて行った。

凶器	無	種類		数量	
犯人	4名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	なぜかバッグが開いていたのであやしい！ と察し手さぐりで財布を探した。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	アラーム機器を持って彼らの後を追いかけて限りなく近くで鳴らした。				

安全対策のポイント

- ・身の回りに危険を感じたら、買物を中止し店員に助けを求めたり場所を移動する等の対応が不可欠。また買物時に入前で金を数えたり財布を出すような行為も厳に慎むこと。
- ・バッグが開けられたり、身体にさわられたりしたら、迷わず助けを求めること。また人目につきやすい服装は厳禁。
- ・盗難に遭っても物を取り返そうとして犯人を追わないこと。財産目当ての犯罪が殺傷事件に発展しかねない。

中 南 米



発生国名	アルゼンティン	犯罪の種類	すり
発生場所 市町村名	ブエノスアイレス市	市街地	地下鉄
発生日時	平成10年9月1日 午後1時30分頃～午後2時頃の間		
被害者	派遣形態	日系社会青年ボランティア	女 <input type="checkbox"/> アルゼンティン

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

ボランティア3名で地下鉄に乗車。当初より不審と思われた人物から離れたつもりだったが、再度近寄って来たときに被害に遭ったものと思われる。昼間にしては車内は満員ではなかったが、混雑していた。肩にかけていたバッグの中から現金入り財布をすられた。降車する前に気がついたが、人物を特定することができず（予想はできたが、証拠がないためなす術なし）、Av.de Mayo駅で降車。不審と思われる人物も降車。バッグのファスナーは3分の1ほど開いていた（開けたまま乗車したか、開けられたのか不明）。

凶器	無	種類		数量	
犯人	1名（複数とも考えられる）				
被害内容	・現金	4 USドル、15～20ペソ			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	財布、Disco点数カード1			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・職務 所持の犯行時の対応	特になし。9月2日（翌日）JICA事務所に届出。				

安全対策のポイント

乗合バス、地下鉄、列車等公共交通機関は犯罪多発場所。これらの交通機関を利用する際には、①多額の現金、貴重品等を持ち歩かない、②危険を予知したらその場から速やかに離れる、③荷物は前ですっきりと抱く、④周囲に対する注意を怠らない等の対策が不可欠。

発生国名	アルゼンティン	犯罪の種類	ひったくり
発生場所 市町村名	ホセ・セ市バス町	市街地	汽車内
発生日時	平成10年10月17日 午後1時頃		
被害者	派遣形態	日系社会青年ボランティア	女 5 アルゼンティン

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

土曜日の午後1時すぎ、いつものように汽車に乗り、学校からの帰路に着こうとしていた。汽車の前から2～3両目の右側後ろから二つ目の座席の右窓側に1人で座っていた。汽車が走り出し、本を読もうと開きかけたとき、カバンの持ち手に左手を通していたにもかかわらず、突然、横から1人の男が私のカバンをものすごい力でひったくり、さっと汽車から飛び降りて行ってしまった。動揺し、あわてた私は男の後ろを追って汽車から飛び降りて、負傷した。なおも男を追跡したが、見失い、近くの民家の住人に助けられた。

凶器	無	種類		数量	
犯人	1名				
被害内容	・現金	日本円換算で約10,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）	打撲等の軽傷			
	・物品略奪（品名・数量）	カバン、カメラ等			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	犯人の後ろを追いかけて、大声で叫び声を上げた。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	助けてくれた住人が駅の人と警察を呼んでくれ、病院に連れて行ってくれた。				

安全対策のポイント

- ・本事例の一番の問題点は、ひったくり犯罪に遭遇した後、物を取り返そうとして犯人を追ったことである。しかも、走行中の列車から飛び降りた犯人に続いて本人も飛び降りて負傷した。犯人を追わなければ物的被害だけで済んだものが、追跡により負傷し、本人はもとより近隣の住民にも迷惑をかけることとなり、また、軽傷で済んだことは不幸中の幸いであった。一歩間違えれば生命の危険をはらむ重大事件に発展しかねない。
- ・すり、かっぱらいの類の犯罪は「追跡しない」ことが基本であり、財産目当ての犯罪は、余計な行動が身体への被害を引き起こすおそれがあることを十分認識すべきである。

発生国名	アルゼンティン	犯罪の種類	自動車強盗（短期誘拐）
発生場所 市町村名	ブエノスアイレス市	市街地	タクシー
発生日時	平成10年5月21日 午後9時頃～午後9時40分頃の間		
被害者	派遣形態	現地採用職員	男 国籍 アルゼンティン


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

5月21日の午後9時に事務所を出て、アレン通りでタクシーに乗った。信号機が赤になったので、タクシーが止まった。その直後に、運転手の助手席側および運転手の後ろの席側から犯人が侵入し、「ピストルを持っているから、静かにしろ」と命令すると同時に運転手には、ヨチャバンバ通りに沿って運転をするように命令した。車内で、すべてのポケット（ズボンおよび背広）を調べられ、財布（現金45ペソが入っていた）をとられた。また、財布の中にはキャッシュカードが入っていたことから、カードの暗証番号を聞かれたので、生命の危険を感じ、教えざるを得なかった。その後、銀行のATM装置から現金を引き出すために、タクシーに乗せられたまま、近くの銀行に行ったが、ATM装置が稼働しなかったため他の銀行に向かった。現金を引き出した後、近くの広場で解放された。

凶器	有	種類	ピストル	数量	
犯人	3名				
被害内容	・現金	645ペソ（日本円換算で約83,000円）			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	強盗の命令に従って対応した（無抵抗）。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	犯罪があった翌日、警察に被害届を提出した。				

安全対策のポイント

- ・最近中南米で激増しているタクシー強盗かつ短期誘拐（クイック誘拐）の事例。中南米各国では最近特に日本人を狙ったタクシー強盗が出没している。
- ・夜間の車での移動時には赤信号では停車せず左右確認の上通過するのが慣例となっているが、本例ではタクシー停車後間髪を入れず強盗が現れており、運転手も一味と思われる。
- ・強盗に対しても「無抵抗」に徹することにより、無用な危害を加えられずに済んだ好例である。

発生国名	ボリビア	犯罪の種類	空巣
発生場所 市町村名	リベラルタ市	市街地	自宅
発生日時	平成11年1月16日午後7時頃～1月17日午後1時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女  ボリビア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

午後1時頃、サンタクルスでの休暇を終えて帰宅すると、玄関の扉が細く開いていた。中に入り見ると居間に置いてあったJICAの無線機とCDラジカセがなくなっていた。寝室には入った様子もなく、居間の他の物にも手をつけず、その二つのみを盗んでいった様子。門の錠はかかったままで、門を乗り越え（1m50cm弱の壁）玄関の南京錠を壊し、カギを開けて侵入した模様。発見時前夜、大雨が降り、雷が鳴り続いていたようで、隣の大家も物音に気づかなかったという。大雨のさ中に侵入したようだ。前日夕方6時頃、友人が留守宅を外から見回ってくれた際には何も異状はなかったという。玄関のカギは南京錠。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	無線機、CDラジカセ			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・職務所轄の犯行時の対応	警察官3名が自宅を調査。被害届を作成してもらう。カギを替える。				

安全対策のポイント

- ・留守宅に帰宅し異状に気づいたときは、安易に1人で中に入らず助けを求めて複数で中に入ること。＜犯罪に遭遇する5ケース＞の一つ。中に犯人が残っていた場合、大惨事になる可能性が十分にある。
- ・住宅のカギは安易に壊れる「南京錠」より「埋込み式錠」等のほうが安全性は確実に高い。また、「南京錠」の場合、外から容易に壊されない鉄製ガードでおおう等の対策が必要である。
- ・異状事態、緊急事態に対応するため、大家の協力を得られるよう日常から大家とのコミュニケーションをとることも重要。

発生国名	ボリビア		犯罪の種類	置き引き
発生場所 市町村名	ラバス市		市街地	レストラン
発生日時	平成10年8月12日 午後9時頃～午後10時頃の間			
被害者	派遣形態	派遣専門家	男	ボリビア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

他の専門家等3名と私（計4名）が午後9時にコーヒーを飲むためレストランに入り、空いている席に座ってカバンを横に置き（イスの横）談笑中に、横の席のお客が入れ替わったのでカバンを確認したところあったが、それから30分して帰るときに紛失していたことに気づいた。談笑中に日本人の名前を呼ぶ声が聞こえ、全員そちらに気をとられているうちに置き引きに遭ったと思われる。店内はわりと混雑していた。

凶器	無	種類		数量	
犯人	3名（推定）				
被害内容	・現金	日本円換算で約30,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	カバン			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・職務所等の犯行時の対応	店のボーイを呼んで調べたが見つからなかった。				

安全対策のポイント

- ・食事談笑中の一瞬のスキをついた巧妙な手口の犯罪の事例。外部においては至るところに犯罪者の目が見えていることを再度認識する必要あり。
- ・外出時には所持品は常に身の回りから離さず、できればテーブルの上に置いたり、イスの背もたれと背中の間にはさむ等の対策が不可欠。

発生国名	ボリヴィア	犯罪の種類	屋外強盗
発生場所 市町村名	ラパス市	市街地	バス停
発生日時	平成11年2月14日 午後4時10分頃～午後4時20分頃の間		
被害者	派遣形態	派遣専門家	女 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ボリヴィア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

日本から当国を訪問中の友人のアリカ（チリ）行きバスの切符を買うため、友人と2人でバスターミナルに行った。カーニバル中で道路が封鎖されており、正面入り口にタクシーをつけることができなかつたため、ターミナル裏口に降ろされた。バス発着所を通り切符売り場を探して歩いていたところ、2人組の男性に「何を探しているのか？ どこ行きのバスに乗りたいのか？」とたずねられたので、「アリカ行きの切符売り場だ」と言ったところ、「それはこっちだ」と言われたので振り返った。その瞬間、背後に回った男性2人から1人ずつ首を絞められ、気を失った。気づいたときには地面に倒れており、友人が手に持っていたカメラと自分がかけていた眼鏡がなくなっていた。その他の貴重品はバッグに入れ首から斜めにかけて上から上着を着ていたため、被害はなかった。バスターミナル中央道路には人通りがあったが、被害に遭った場所はちょうどバスの発着が途切れた時刻で、人通りがなかった。5m先にはたくさんの方がいたが、被害場所は死角になって見えなかった。

凶器	不明	種類		数量
犯人	2名			
被害内容	・現金			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）			
	・物品略奪（品名・数量）	カメラ、眼鏡		
	・物品損壊（品名・程度）			
被害者の犯行時の対応				
被害者・事務所等の犯行時の対応	警察に被害届を提出。			

安全対策のポイント

- ・バスターミナル等の方が集まる場所は犯罪の巣であり、いつにもまして周りに注意を払わなければならない場所である。特にカーニバル等の時期は通常時よりも人の出入りが激しく、犯罪者もチャンスを狙っている確率が非常に高い。フツとした気のゆるみが招いた犯罪といえる。
- ・世界的な犯罪の傾向として、最近は銃器を使用する頻度が急増し、また、首を絞めて失神させたりむやみに暴力を振るう等、犯行が凶暴化している。群衆の中で行動するときは周囲への気配りを人一倍鋭敏にし、人から見えなところや正体不明の輩が群れているようなところは避けて行動する等の危機意識を常に持つことが不可欠である。

発生国名	ボリヴィア	犯罪の種類	詐欺盗
発生場所 市町村名	ポトシ市	市街地	路地
発生日時	平成11年1月16日 午後3時頃～3時30分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <small>国籍</small> パラグアイ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

ポトシ市のバスターミナルへ徒歩で向う途中、アルゼンティン人と名乗る男に道を聞かれたとき私服警官が現れた。その警官は、まず自分の身分証明書を見せてきた。読むと確かにPolicia Nacionalと書いてあった。次に「お前たちは外国人か」「身分証明書を見せて」と言い、アルゼンティン人がパスポートを見せ応じていたので、自分もJICAの身分証明書を見せて応じた。そして警官は「最近アルゼンティンから麻薬密売グループがボリヴィアに入ってきており、それにとまなう偽ドル札が出回っているので、お前たちの所持品とドル札をチェックする」と言ってきた。場所は人通りのあるところだったが、通りのはじめで、まずアルゼンティン人という男のお金と持ち物をチェックし、その次に私の持ち物とお金をチェックした。私に何度もドル札は持っていないのかと聞いたが、実際持っておらず、「もういいか?」と聞くとそのまま開放してくれた。その後5分ほど歩いていると再び別の私服警官に呼び止められた。理由は前回と同じであった。「さっき検査を受けた」と言ったが「関係ない」と言われ、身分証明書の提示を求められた。そして「もう1人いるから」と言われ、また、アルゼンティンから旅行で来ているという男が現れた(別人)。その後警官は「警察署へ行こう」と言い、タクシーを止めた。乗るように言われ、躊躇していると、アルゼンティン人という男が、先に乗り込み「俺は早くしないとバスの時間に間に合わなくなるんだから早く乗れ」と言ってきた。内心疑っていたが、前回何もとられなかったということもあり応じて乗ってしまった。警官はタクシーの中で、アルゼンティンの麻薬密売グループの人名リストを見せてきた。その後、警察署に着く前にタクシーの中で所持品検査を始めると言ってきた。最初にアルゼンティン人という男に対して荷物バッグと財布の中身の検査を行い、その後、私の番になった。今回もドル札の所持をしつこく聞かれ、持っていないことを言うと、「旅行中なのにどうして80ボリビアーノしか持っていないんだ」と、さらに追求してきた。今度は「体に隠しているんじゃないか」と言いながら、腹や足などをさわってチェックしてきた。その途中タクシーは警察署の前に着き、運転手が「どの辺で降りるのか?」と警官に聞いたところ、警官は「もうすぐ終わるから、そのまま元のところに行ってくれ」と言っていた。最後に「もう一度財布を見せてくれ」と言われ、それに従った。その後、すぐ財布を私に返し、バスターミナルへ行く途中の乗ったところとは別のところで降ろされた。「さっきのところまで行ってくれ」と言うと、「ここからすぐ近くだから」と言ってそのまま去って行ってしまった。アルゼンティン人という男はそのまま警官とタクシーに乗ったままであった。ここで、再度自分の財布を確認すると、持っていたお札80ボリビアーノが抜き取られていた。

凶器	無	種類		数量	
犯人	2～4名(推定)				
被害内容	現金	日本円換算で約2,700円			
	・ 暴行傷害(負傷部位・全治所要日数)				
	・ 物品略奪(品名・数量)				
	・ 物品損壊(品名・程度)				
被害者の犯行時の対応	私服警官と名乗る男に従っていた。				
被害者・職務所帯の犯行時の対応	ボリヴィアの隊員に私服警官の存在の有無を確認(無とのこと)。犯行に遭遇した際の対応の仕方を聞いた。その他何もせず。				

安全対策のポイント

- ・ 最近の外国人を狙った詐欺盗犯罪は非常に巧妙化している。これは外国人側の防犯意識が向上した結果であるとも考えられるが、詐欺盗犯罪が成就する瞬間は昔も今も変わりはなく、相手の注意を他にそらす間に犯行に及んだり、ところ構わず性急に現金の提示を求めめるケースが一般的である。
- ・ 本事例の場合、「アルゼンティン人」と見られるダミーを使い、巧妙に現金を詐取しているが、本人も常に疑問を持ち続けていたにもかかわらず最終的に犯行に遭ってしまっている。危険を予知した段階ですばやく危険回避をすべきである。
- ・ 官憲が路上で現金提示を求めめることはなく、仮に求められたら警察署内まで同行し、そこで提示すべきである。

発生国名	ブラジル	犯罪の種類	ホテル荒し
発生場所 市町村名	サンパウロ州サンパウロ市リベルターデ		ホテル
発生日時	平成10年4月5日 午後3時頃		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 1名 ブラジル

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

カギをかけて部屋の中に置いたスーツケースの中から現金をとられた。残っているレアルを計算したところ、500レアルくらい不足し、スーツケースも調べたら600USドルが不足していた。置き場所の間違いかもしれないと再度確認したところ、500USドルがさらに減っていて円も110,000円ほど不足していることがわかりただちにフロントに届けた。近くにあったT/C、カード、パスポート、チケット等は無事である。なおカギは2個あり、持ち歩いてなくすことを恐れ別々のバッグに入れておいたが、どちらかで開けたものと思われる。レアルはスーツケースの中のものは無事で別のバッグに入れておいたものをとられた。

凶器	不明	種類		数値	
犯人	不明				
被害内容	現金	1100円USドル、110,000～160,000円（持ってきた額が多少あいまい）約500レアル			
	暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	物品略奪（品名・数値）				
	物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応					

安全対策のポイント

- ・犯人は特定されていないが、内部犯行の疑いが強い。ホテルでの犯罪被害は、ホテル側の安全管理が大きな位置を占めるが、本例の場合ホテル側の安全管理にも問題があると思われる、ホテルを替える等の対応も必要。
- ・自宅には可能な限り多額の現金は残さず、ホテルのセーフティボックスを利用する等の対策も必要。なおカギは必ず携行し、自宅には絶対残さないこと。

発生国名	コスタ・リカ	犯罪の種類	屋内強盗（未遂）
発生場所 市町村名	サンホセ市	市街地	自宅
発生日時	平成10年12月18日 午後8時頃		
被害者	派遣形態	派遣専門家	女 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> コスタ・リカ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

日中、プロジェクトの年末パーティがあり、午後7時頃車で帰宅。居間で休んでいたところ、午後8時15分玄関のベルが鳴った。通常、近所の人、またはガードマンが訪れるため、「誰？」と聞きながら開けたところ、見知らぬ男が花と袋とピストルを持ち、強引に入ろうとしたため、必死にドアを押さえた。そのとき犯人の腕がはさまり痛みのためか、玄関前階段（2段）にて転倒。騒ぎにガードマンが気がつき、「何をしてるんだ」と話しかけたところ、犯人は腕を抜き取り逃走。ガードマンに確認したところ、花を持ち「女の子に会いに来た」と告げたため、知り合いだと思い身分確認を行わず、通したとのこと。

凶器	有	種類	ピストル	数量	1
犯人	1名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	ドアを閉め、入室を防止。				
被害者・場所等の犯行時の対応	翌日警察に通報。				

安全対策のポイント

- ・「自宅に来る者は近所の人かガードマン」との先入観が危機意識を希薄にし、住居防犯の第一次防衛線を破られそうになった。そのとき、本人はドアで犯人の腕をはさみ抵抗し、結果的にはガードマンが気づき事なきをえたが、犯人が侵入した場合を想像すると戦慄が走る。
- ・在宅時の来訪者は、どんな理由・条件下であれ不注意にドアを開けることなく、ドアスコープで確認するとか、ガードマンを呼んで確認する等細心の注意を払って対応することが鉄則。また、ガードマンにも、見知らぬ者をむやみに敷地内に入れないよう強く教育しておくことも肝要。

発生国名	ドミニカ共和国	犯罪の種類	屋外強盗
発生場所 市町村名	ラ・ロマーナ	路上（自宅付近）	
発生日時	平成10年7月23日 午後8時頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ドミニカ共和国

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

夜8時すぎ頃日本へファクスを送るため、自宅から一番近い電話局へ行った。家の近くでホームステイをしている隊員とともにいった。彼女は家に戻り、1人で自宅に向かって歩いているときいつものようにドミニカ人が“チナチナ（中国人）”と呼んできたので無視していたが、ずっとついてくるのでしかたなく受け答えをしていると2人のうちの1人が突然はがいじめを始めてきてもう1人は着ていたオーバーオールポケットをさぐり始めてきた。はがいじめをされているため、声はまったく出ずバタバタとしている間に首にはめたネックレスを引きちぎって逃げていった。

凶器	無	種類		数量	
犯人	2名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）		腕を木ぎれで刺され軽い傷		
	・物品略奪（品名・数量）		ネックレス（5,000円程度）		
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	門番に伝え不審な人に気をつけるように、家の周りの警備をいつもより気をつけるように伝えた。				
被害者・學務所等の犯行時の対応	職場の人に報告。そこから警察に伝えてもらった。				

安全対策のポイント

- ・自宅周辺の警備もさることながら、夜間女性2名で外出し、最後は1人で帰宅した行動を反省すべきである。外国では現地人でさえ夜間の女性の1人歩きは厳禁とされているが、本人もこの状況を強く肝に銘じるべきである。
- ・ネックレスを引きちぎって、木ぎれで腕を刺されたりしたときの傷は思わぬ大ケガになるおそれもある。

発生国名	ドミニカ共和国	犯罪の種類	屋外強盗
発生場所 市町村名	サントドミンゴ	乗合タクシー	
発生日時	平成11年2月6日 午前10時頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <small>国籍</small> ドミニカ共和国

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

私設郵便局からの帰りに、乗合タクシーをつかまえ乗車。運転手の他、助手席1名（男性）、後部座席に1名（男性）乗車していた。後部座席に乗車するが、途中で助手席に代われと言われる。それまでは親切なドミニカ人という感じで会話をしており、「前のほうが楽だろう」と言われ助手席に代わった。AV27deFebreroまでだったが、その後も27deFebreroを通ると言う。後ろの客も運転手に追加の料金を払ったため、私も支払い自宅近くの通りの名前を告げる。しかし、AV27deFebreroに出た途端にスピードを上げ、途中でルートとは異なる通りに曲がり助手席の窓を閉め始め後部座席の客が私の首にナイフをあて、頭にピストルをあてた。隣の客が私のカバンを物色し、現金だけを抜き、通りの状態を確かめつつ帰りの乗合タクシー代6ペソを私に手渡し、「降りろ」と言う。抵抗は一切せず、降りて徒歩（30分）にて連絡所へ戻る。

凶器	有	種類	ナイフ、ピストル	数量	
犯人	3名				
被害内容	・現金	350ペソ			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	車のナンバープレートを覚えるのみ。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	ロペテベガでの乗合タクシーは使用しない。 警察へ通報。				

安全対策のポイント

- ・「乗合タクシー」は中南米各国の庶民の足として定着しており安価で便利な乗り物とされているが、乗合バス等と異なり密閉性が非常に高く、仲間同士の犯行には最適な犯行の環境が形成される。また、本事例ではいつもと異なるルートを通り、不必要にスピードを上げる等、危険を予知できる環境にあったと推測される。
- ・防犯対策としては、「乗合タクシー」よりも「乗合バス」を使用するほうが犯罪の確率は低くなり、また仮に運悪く「犯罪タクシー」に乗った場合でも事前に危険が予知できれば途中で降りる等の行動を示し、最悪の場合には「無抵抗」に徹することが危険回避の鉄則である。

発生国名	エル・サルヴァドル	犯罪の種類	屋外強盗
発生場所 市町村名	サンタ・アナ市	市街地	路上
発生日時	平成11年1月28日 午後8時頃～午後8時05分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <small>住居</small> エル・サルヴァドル


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

バスターミナルの少し手前でバスが止まり、路上には人影が少なかったため、急ぎ足で帰る途中、1コロンを強要され、英語でひやかしてきた。無視して歩いていると、逆上した男性は背後から右手で首を押さえ、左手で時計を取り去ろうとした。時計はなくリュックをとろうとしたので、2コロンを渡した。背後から犯人が前に回ってきて、2コロンを受け取った。が、それでもおさまらず、さらに前から襲いかかってきたので、防衛のつもりであごの辺りにパンチを力いっぱい入れたところ足元がふらついたため、一気に胸元をつかんで路上に倒し、鉄扉に頭を3回ほど打ちつけた。ただちに全力で走り出したら、すぐ近くに人がいたことに気がつき、犯人が追って来ないことを確認し、歩いてすぐ近くの顔見知りの店へ逃げ込んだ。

凶器	無	種類		数量	
犯人	1名				
被害内容	・現金	日本円換算で約30円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	凶器の有無の確認後犯人をたたきのめした。				
被害者・事務所 所轄の犯行時の対応	調整員への通報（調査員から警察、JICA事務所へ通報）。				

安全対策のポイント

・協力隊員が路上犯罪（すり、ひったくり、置き引き等）に遭遇する犯罪事例は、従来から非常に高い頻度で推移しており、一向に減少の傾向を見せていない。そして、その中には「安全管理意識」「危機意識」をもっていれば未然に防げたと思われるものが多く見受けられる。もちろん、専門家等他のJICA関係者と違い、協力隊員の行動範囲はより現地人の行動範囲に近いことは事実であるが、とはいえ日本人である協力隊員が現地人と同様の扱いをされるはずもなく、犯罪者は「金持ち日本人」として見ていることを再認識すべきである。「現地化」という言葉を勘違いすると、容易に犯罪被害者となることを忘れてはならない。

発生国名	エル・サルヴァドル	犯罪の種類	すり
発生場所 市町村名	サンタ・アナ市	市街地	市場
発生日時	平成10年10月17日 午後4時頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女  エル・サルヴァドル


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

市場の中で大型バスと店にはさまれ立ち往生しているところに男1女2の3人連れのすりがやってきて、女2人は狭い隙間で男を押ししたので、男は私の行く手を防ぎ、自分のほうを私の肩にくっつけてきた。私が肩に気をとられているうちに、財布をポケットから抜き去った。

凶器	無	種類		数量	
犯人	3名				
被害内容	・現金	日本円換算で約4,500円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	気がつかなかった。				
被害者・職務所帯の犯行時の対応	近くにいた警察官へ報告した。				

安全対策のポイント

- ・すりの手口は千差万別であり、狙いやすい標的（ソフトターゲット）を常に狙っている中で起こった犯罪事例とみることができる。
- ・本事例は、人が集まる市場の中で、大型バスと商店の間の特に狭い空間に押し込まれた被害者に狙いをつけ、素早い行動で被害者の注意をそらす間に犯行に及ぶという、手慣れた者の犯行である。人が集まる場所では犯罪の発生率も高く、常に犯罪者はソフトターゲットを狙っていることを再認識すべきである。

発生国名	エル・サルヴァドル	犯罪の種類	かっぱらい
発生場所 市町村名	エル・サルヴァドル空港の荷物引取所		
発生日時	平成10年7月14日 午後12時10分頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女  エル・サルヴァドル

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

成田→シアトル→マイアミ（1泊）→エル・サルヴァドルというルートで協力隊員として赴任したが、エル・サルヴァドル到着時、荷物を受け取る際、自分の荷物の異状に気づく。スーツケースのカギ穴2カ所がドライバーもしくはパールのようなものでこじ開けられた跡があり、中身も物色されており、現金日本円で165,000円がなくなっていた。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明（空港内作業員の疑いあり）				
被害内容	・現金	165,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	スーツケースのカギ、他に6人の協力隊員がスーツケースのカギを壊され物色されていた。			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	エル・サルヴァドル空港内のアメリカン航空のカウンターで事情を話し書類提出（被害届）。				
被害者・職務 所等の犯行時の対応					

安全対策のポイント

- ・マイアミ空港においては、トランジット時における荷物のこじ開け、紛失事件は驚くほど多数発生している。
- ・防止策は「マイアミ空港は使わない」ことくらいであろうか。

発生国名	エル・サルヴァドル	犯罪の種類	かっぱらい
発生場所 市町村名	サンアンドレス町	郊外	学校（職場）
発生日時	平成11年1月28日 午前9時30分頃～午後1時30分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <small>在留者</small> エル・サルヴァドル


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

普段は持ち歩かない計算機をその日は持ち歩いていて、仕事場に置いて、畑にいる学生たちの様子を見に行った。その後、事務所の人と客が来たので、そのまま置いていってしまい事務所内が空になってしまった（9時30分）。11時30分に同僚の先生が戻ってきたときには誰もいなく、11時45分頃先生数名で玄関のカギをかけ去った。1時30分頃戻ってきたときに別に異状はないように思えたが手さげカバンのファスナーを閉めた記憶がないのに閉まっていたので、中の確認をしたところ計算機だけがなくなっていた（袋の中の身分証明書や他の部屋の携帯電話は無事であった）。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	1名（推定）				
被害内容	・現金	日本円換算で約3,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	計算機1			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応	周りの職員（先生）と学長に話し、学生の指導の強化をしてもらっている。				

安全対策のポイント

- ・荷物、機材等、貴重品が置いてある部屋を空けるとき、必ず施錠することは安全管理の鉄則である。本被害者は通常は非常に用心深いのが、たまたま来客があったために、一瞬気がゆるんだスキをつかれ犯罪に遭った。
- ・被害者は犯人を「学生であろう」と特定し、学校側に注意喚起を促しているが、犯罪の原因は「戸締まりをしなかったこと」に集約され、被害者の不注意が招いた犯罪であることを反省すべきである。
- ・途上国においては、日本では考えられないあらゆる動機が犯罪を引き起こすことを肝に銘じることが大切。

発生国名	エル・サルヴァドル	犯罪の種類	屋外強盗
発生場所市町村名	サン・サルヴァドルとラ・リベルタの県境 山		
発生日時	平成10年9月19日 午後3時頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女  エル・サルヴァドル


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

現地人同僚（男）と隊員（男）と3人でサン・サルヴァドル火山のEl boqueronを散策中、午前10時すぎ火口の谷を下り始めた頃、後ろから若い男1人が作業ナイフを持って追って来て、荷物や現金（100コロン）を渡せと言ってきた。隊員（男）も持参のナイフを取り出し、2～3分話を交わしたが何も渡さず無視してそのまま下って行ったところ、犯人はもう追って来なかった。火口の下まで降り、昼食を食べ、他のルートの見当もつかず、来た同じ道を登っていた。ほぼ終わりに近づいた頃（はじめに犯人と出くわした地点よりは下方）、前から3人の男が作業ナイフ（大型）を突き出して現われ、後ろからもう1人が現われ取り囲まれ、我々3人の持ち物（リュックごとすべて）を奪った。ズボンのポケットに分けて入れておいた45コロンには気づかれず、帰りの3人分の交通費は間に合った。犯人が現われる前に、地域住民のかけ声のようなものが聞こえていたが、犯人たちの合図だったかもしれない。3人ともかすり傷一つなく、被害は物のみ。

凶器	有	種類	50cm程度の作業ナイフ	数量	4
犯人	4名				
被害内容	・現金	日本円換算で約500円			
	・物品略奪（品名・数量）	リュックごとすべて。一眼レフカメラ、サングラス、カップ、身分証明書2、パスポートのコピー、腕時計等			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	犯人の要求どおりに、おとなしくリュックと腕時計を外し、渡した。身分証明書だけは返してほしいと話してみたが、聞いてはくれなかった。				
被害者・職務所帯の犯行時の対応	午前中からの心配の重みと荷物の重みとがなくなり、3人とも身一つとなったが、周りに気を配りながら下山した。				

安全対策のポイント

- ・最初に犯人と遭遇したとき（最初の危険）、本人側もナイフで対応しているがこれはまさにお互いに引き下がれない場面に自分を置く行為であり、絶対に行ってはならない。本事例では幸か不幸か犯人側が手を引いたが一步間違えば大惨事になりかねない状態である。抵抗は厳に慎み「無抵抗」に徹すること。
- ・「危険を回避」することは、犯人が逃げた後に安全になることではなく、その後予想される「仕返し」も回避しなければならない。本事例では第1回目の危険が去った後もハイキングを続け、2回目の危険に遭遇しているが、1回目の危険に遭遇した時点で、ハイキングは絶対中止すべきであった。「臆病は恥ではない」。

発生国名	グアテマラ	犯罪の種類	すり
発生場所 市町村名	グアテマラ市	市街地	バス内
発生日時	平成10年12月15日 午後6時30分頃～午後6時35分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女  グアテマラ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

夕方6時すぎ、隊員3人で満員バスに乗っていたところ、Zona9とZona4の境辺りで犯人であろう30～40歳前後の男女5～7人がすごい勢いでバスに乗ってきた。私たちはバスから降りようとしていたため彼らともみ合いになり、降車する前に確かめた財布（Gパンの前ポケットに入れていた）が降車し、気づいたときにはなくなっていた。そのときすでにバスは発車していた。

凶器	無	種類		数値	
犯人	5～7名				
被害内容	・現金	日本円換算で約2400円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数値）	写真屋のカード、私書箱のカード、身分証明書、財布			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	満員のバスに乗らず、すぐにタクシーで帰った。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	私書箱カードを差し止めし、警察へ行った。				

安全対策のポイント

- ・すり犯罪の常套手段は、いかなる手口であれ被害者の注意をそらし、そのスキに犯行に及ぶものが大多数である。そのためグループでの犯行がほとんどで、それぞれが「手口」「ゴト師」「マク」「吸い取り」等の役を演じている。自分の周りで通常と違う現象が起こったら、まず「すり犯罪」を疑い、とっさに身边を警護すべきである。
- ・すり犯罪から身を守るためには上記の危機意識も重要であるが、特に公共交通機関を使用したり外出する際には、貴重品、大金を持ち歩かず、被害を最小限度に食い止める努力も必要。

発生国名	ホンデュラス	犯罪の種類	詐欺盗
発生場所 市町村名	サンペドロスーラ市	市街地	路上
発生日時	平成10年11月1日 午前9時30分頃～午前10時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <small>国籍</small> ホンデュラス

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

朝9時すぎ、ハリケーンの避難先のホテルに行くため、荷物を持ってタクシー乗り場に移動途中。1人のみずばらしい若者が、接近してきて「近くに薬局はないか」とたずね、その後「ハリケーンで被害に遭った家族のために薬を買いに来たがUSドルしかもっていない、どこか替えられるところを知らないか」と50USドル紙幣を見せる。私が「知らない」と答えると、通りすがった別の服装の整った若者が「私はドルを替えてくれる人をこの近くで知っている。彼を助けてあげよう」と言い、「ドルを人前で見せると危ないので、しまうように」と言う。「彼の格好ではドルに替えられないので、一緒に行って替えてあげよう」と言う。途中まで彼と服装の整った若者が自分の身に付けていた財布、ネックレス等を逃げない保障としてみずばらしい若者に渡した。ドルを替えに行き戻ってくる。全額は替えられなかったので、残りを替えてきてくれとドルを包んだ布きれを渡される。「その間荷物を預かっている」と言う。指定された場所に行く途中に不審に思い、布を開くとドルは入っていない、あわてて追いかけたが、バッグは持ち去られていた。

凶器	無	種類		数量	
犯人	2名				
被害内容	・現金	約2,000レンピーラ（日本円換算で約300,000円）			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	ショルダーバッグ（右記内容物）T/C冊、パーソナルコンピュータ（ノートブックタイプ）1、ハンディー無線機（JICA貸与）			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	抵抗しなかった。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	通りかかったパトカーにて追跡。				

安全対策のポイント

・災害被災直後の人道的心理につけ込んだ知能犯。本事例の場合、通りすがった別の若者が出現した時点で自分は手を引くべき。詐欺犯罪者はしつこいほど手を替え品を替え狙った獲物は逃さないようにする。途中で「おかしい」と気づいたときとっさに身を引く行動に移るべき。親切心がアダになって返ってきた例。

発出国名	ホンデュラス	犯罪の種類	屋外強盗
発生場所 市町村名	サンペドロスーラ市	市街地	バス停
発生日時	平成10年4月29日 午前4時50分頃～午前4時55分頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <small>（任意）</small> ホンデュラス

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

サンペドロスーラより、任地であるサンタ・バルバラへ朝1番の5時発に乗ろうと思い、バスターミナルの入口の前で、ターミナルが開くのを待っていた。あたりはまだ暗く、人通りもまったくなく、自分1人だけであったが、街灯もありもうバスターミナルに着いている安心感があつた。数人（4～5人）の男たちが自分の左前方から来て、通り過ぎたかと思っていたら、右背後から戻って来ており、はじめ腕にしていた時計をよこせと言ってきたが、渡さないでいると、今度は強引に引きちぎろうとした。誰かが背後からはがいじめにして身動きをとれないようにしておいて、腕時計をもぎとった。次にズボンの前ポケットに入れていた財布までとろうとし出した。「だめだ」と言ったら、今度は口を押さえつけようとしたり、誰かがナイフを取り出して、切りつけるような構えをしたが、なおも渡さないように抵抗していたら、誰かが左目の下あたりを一度殴った。次に、僕が右手で握っている財布をとろうとして、右手の親指を思いきり噛まれて、結局財布までとられた。幸い背中に背負っていたリュックサックまではとられなかった。財布までとると、彼らは来た方向に走って逃げ去って行った。

凶器	有	種類	刃渡り15～20cmのナイフ(包丁)	数量	1
犯人	4～5名				
被害内容	・現金	約180レンピーラ（日本円換算で約1,800円）			
	・暴行(傷害) (負傷部位・全治所要日数)	左顔面打撲、右手親指噛み傷、全治2週間			
	・物品略奪(品名・数量)	腕時計			
	・物品損壊(品名・程度)	上着を少し引き裂かれた。			
被害者の犯行時の対応	犯人グループの要求に応じなかったため、暴行を受けた。腕時計、財布をとられまいとして抵抗したが、強引にもぎとられてしまった。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	犯人グループは走り去って行ったが、その後を追いかけることはしなかった。				

安全対策のポイント

- ・早朝5時前のバスターミナルは人通りもなく薄暗い絶好の犯行現場化している。そのような中に1人であることは、危険を自分から呼び込んでいるようなもので「無謀」そのもので、危険意識がない。
- ・相手が複数で、しかも刃物を出しているにもかかわらず抵抗しているのは「命」と「金」を同一視していることの証明である。協力隊員は「公人」であり、「私人」としての立場とはまったく異なる立場にあることがわかっていない。「安全管理意識」を初歩から再学習する必要あり。

発生国名	ホンデュラス		犯罪の種類	自動車強盗
発生場所 市町村名	テグシガル市ルーベングリオ地区		市街地 自宅	
発生日時	平成10年5月15日 午後1時30分頃～午後1時32分頃の間			
被害者	派遣形態	派遣専門家	男	ホンデュラス


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

自宅で休憩後、午後の出勤に向かうため、自宅前に12時45分頃に駐車しておいた自動車に乗るために、ドアを開け、エンジンカギを差し（エンジンはまだ点火しない状態）、後方のトランクを開けた。そのとき、約100m先を2人の男が歩道をこちらに向かって歩いており、別段気にもとめなかった。トランクに向かう際運転席のドアを閉めた。トランクの荷をチェックしていたところ、男2人がすでに近づいており、車道側の男がいきなりピストルを突きつけた。私は、その場で両手を上げ無抵抗の状態にあった。最初に歩道側の男が運転席に乗り、エンジンをかけ発車状態にし、ホールドアップ後、車道側の男も助手席に乗り込み、ただちに逃走した。ホールドアップから逃走までほんの数10秒のことであった。

凶器	有	種類	ピストル	数量	1
犯人	2名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）		車輛、カメラ、ズームレンズ、身分証明書、運転免許証、車検証		
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	無抵抗。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	大使館、DIC（警察）、JICA、保険会社等に連絡。				

安全対策のポイント

- ・外部で車から離れる際は、周囲の状況を注意深く確認し次の行動を起こすべきである。
- ・カージャック対策としては、カージャックは車をとることが目的であり、車さえ渡せば次の犯行に及ぶことはまずないので「無抵抗」に徹するべきである。また、カージャッカーはその犯罪の性格から例外なく銃器を持っていることも認識しておくべきである。

発生国名	ニカラグア	犯罪の種類	すり
発生場所 市町村名	マナグア市	市街地	バス内
発生日時	平成11年3月20日 午後12時10分頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男  ニカラグア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

バスに乗り、入り口をふさぐように立っていた男女がいたので、奥に入ろうとしたところこの男女に進入を邪魔され、持っていたバッグバックが彼らの間にはさまれて一瞬見えなくなった。彼らの顔つきに不自然なものを感じたため、あわててバッグバックを手許に引き寄せたときには、小物入れのファスナーが半分ほど開いた状態であった。そのときは盗難に気がつかず（小さい財布だけだった）、自宅に帰って荷物をすべて改めて盗まれたものが判明した。

凶器	無	種類		数値	
犯人	3名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数値）	パソコン用メモ리카ード1、ケースとして利用していた財布			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	とにかく荷物を自分のほうに引きよせ、バッグの内容を確認。犯人をにらみつけた。				
被害者・職務 所等の犯行時の 対応	JICA事務所、警察へ通報。				

安全対策のポイント

・青年海外協力隊員が無意識のうちにすり、かっぱらいの犯罪被害に遭う事例が最近急増している。派遣前の訓練講習等で何度も注意喚起しているにもかかわらず、依然として犯罪被害が急増している事実は、真に協力隊員の安全管理意識の欠如が原因というほかない。「自分だけは被害に遭わない」「海外は2回目だから大丈夫」といった慢心は絶対に捨てること。これまで犯罪被害に遭わなかったのは、ただ単に「幸運」がなせる業ということを再度肝に銘じておく必要がある。

発生国名	ニカラグア	犯罪の種類	ひったくり
発生場所 市町村名	マナグア市	市街地	バス停
発生日時	平成10年12月6日 午後6時10分頃～午後6時15分頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <small>（国籍）</small> グアテマラ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】			
<p>バスターミナルにてバスを下車した後、5 mほど離れたところに駐車していたタクシーに乗ろうとしていたところ、肩から首に回して斜めにかけていた布製のバッグを引きちぎられ（目撃した別のニカラグア人の話ではナイフで切られたらしい）走り去られた。</p>			

凶器	有	種類	ナイフのようなもの	数量	1
犯人	1名				
被害内容	・現金	日本円換算で約4,000円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	懐中時計、カメラ、旅行ガイド、化粧品、航空券、財布、身分証明書、手帳、ミニ辞書、パスポートの写し（Sello付き）、ジャックナイフ、バッグ			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	走って追いかけたが、すぐ断念した。「お金だけにして！」と一応叫んだ。				
被害者・職務所等の犯行時の対応	犯人が走り去った後、すぐタクシーの運転手と交渉し職場に戻り、同期隊員にタクシー代を払ってもらった。その後職場から調整員宅へ電話にて報告した。				

<p>安全対策のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスターミナルでのすり、ひったくり事故は、そのほとんどが協力隊員に特化されている。公共交通機関や公共市場を利用する機会が多い協力隊員は、バスターミナル、乗合バス車中、公共市場付近等においては、他のJICA関係者と比べ数倍注意力を鋭敏にすることが求められる。 ・本事例の場合、乗り換え時のほんの5 m足らずの移動距離の中で被害に遭っているが、これはいつ、いかなる場所においても犯罪発生の可能性のあることを示唆している。間断なき注意力維持は安全管理の基本。 ・あらゆる犯罪の可能性を想定し、外出時には貴重品、不必要な多額の現金等は持ち歩かないよう心がけることも必要。
--

発生国名	パラグアイ	犯罪の種類	すり
発生場所 市町村名	アスンシオン	市街地	バス内
発生日時	平成11年2月17日		
被害者	派遣形態	シニア海外ボランティア	男 <small>住職</small> パラグアイ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

出勤途上、日常利用しているバス内で、下車しようと降口に向かったところ、降口手前で、前方を1名の男性に立ち止まれ、一方後方から別の男性に押された。前方の男性が通路を空けたので、下車したが、歩道でポケット（ズボン尻）に手を入れたところ、名刺入れがないことに気がついた。前方をふさがれたときに、少々あわて、また後ろの男が話しかけてきたので、注意力が若干散漫になっていたときに、すられたと思われる。

凶器	無	種類		数量	
犯人	2名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	身分証明書1、パスポートのコピー1、名刺20枚			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	犯行時には直接気がつかなかった。				
被害者・職務 所等の犯行時の対応	勤務先のC/Pと最寄りの警察署に行き、被害届を出し証印を受けた。 JICA事務所に連絡。				

安全対策のポイント

- ・すりの犯行は単独犯で実行することはほとんどなく、大部分は複数のグループ犯罪である。本事例はその典型的なもので、1人が被害者の注意を向けさせ、そのスキに犯行が行われる。通常、すり犯罪を構成するグループは「手口」：注意をそらす役、「ゴト師」：実行犯、「マク」：隠し簀役、「吸い取り」：逃走役、で構成されている。路上、あるいは公共交通機関等で自分の周囲の異変に気づいたら、躊躇なく身辺を防御すべき。
- ・すりは通常刃物を携帯していることが多く、すり被害に遭遇しても決して犯人の後を追ってはならない。居直る犯人には要注意。

発生国名	パラグアイ	犯罪の種類	空巣
発生場所 市町村名	アスンシオン市	市街地	自宅
発生日時	平成10年7月14日 午前7時10分頃～午後4時20分頃の間		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 <input checked="" type="checkbox"/> パラグアイ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

7月14日夕、農牧省畜産研究・生産局の公用車で退勤（午後4時）。午後4時20分自宅到着、自宅玄関カギで開錠の際、通常と違ってやや固い感じがあった。玄関ドアを開扉したところ、室内に異状（玄関脇室ドア開扉、室内散乱、テレビが見当たらない等）を発見した。

【被害の状況】

1) ガレージ脇ドア付近及び同ドア内部にクッキリと足跡があった。2) 家屋内全室、すべてのロッカー、引出等が物色された形跡があった。各室内は、種々散乱していた。3) 侵入経路は、玄関脇の窓の錠が壊されており、窓前の植え込みに足跡が残っていたので、玄関脇の窓と推定される。4) 電気製品を中心に盗難があった。

【その他】

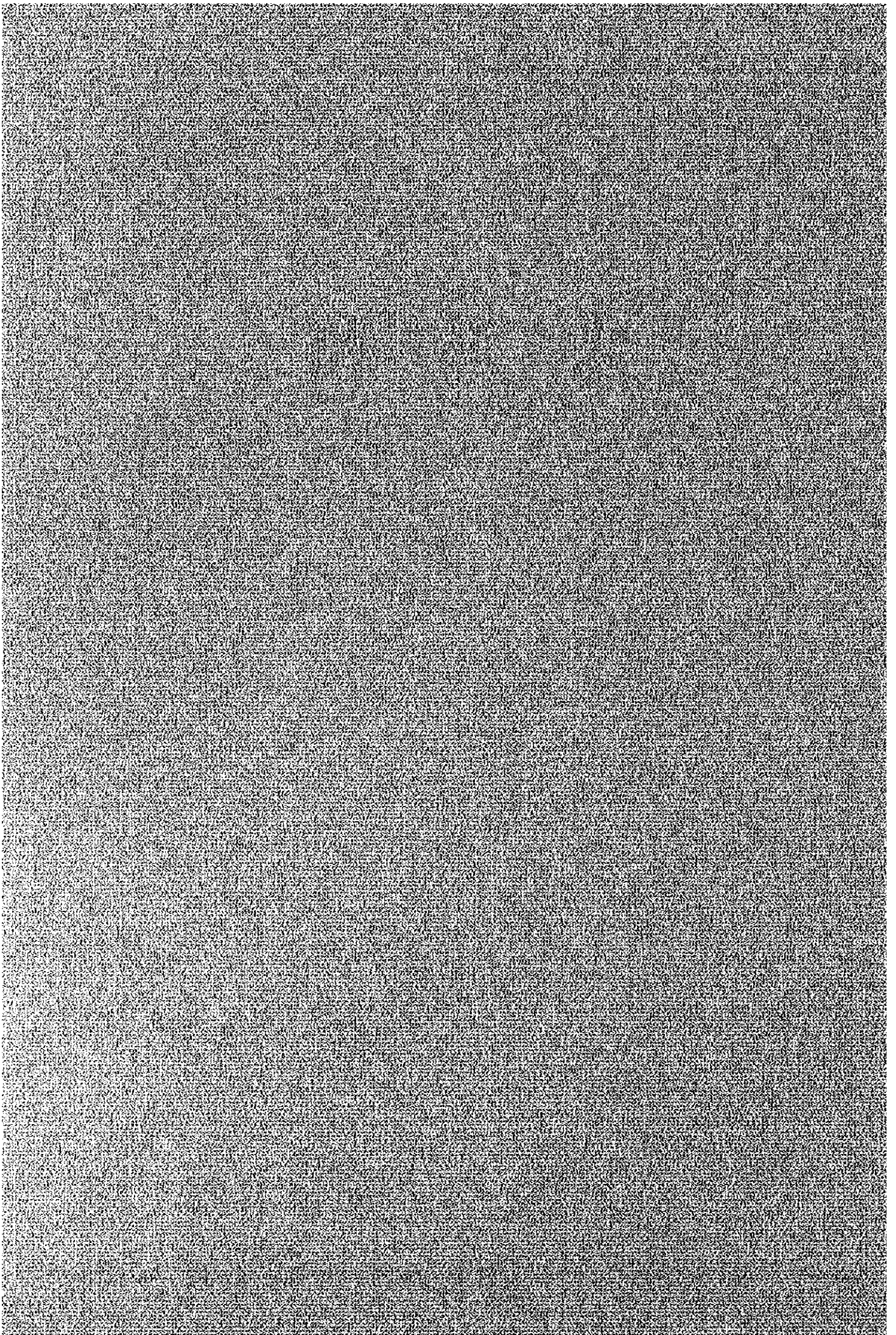
1) 飼犬が失踪していた（5月中旬）。2) 交通量の多いMcal.Lopez通りに面し、宿舎向かい側には盛業中のハンバーガー店があり、ハンバーガー店は小生契約の警備会社の24時間警備体制がとられていた。しかし、入口フェンス近くにシュロの木がありやや視界が遮られていた。3) ガレージ・フェンス（無線開閉式）が3月から何度も開いていたことがあった。借家管理人にたびたび改善を申し入れていたが（口頭および文書（4月21日））、改善がなされなかった。このことと盗難事故の因果関係は直接にはない（ガレージ・フェンスは別の鎖で固定していた）が、油断があったことは事実である。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	テレビ（備え付け家具）、ビデオデッキ（備え付け家具）、カメラ、FAX機、ラジオカセット、携帯電話充電器、眼鏡			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	1) 玄関ドアを開扉し室内異状を発見後、ただちに道路に退去、借家管理人に携帯電話にて連絡し、現場急行を依頼した。2) 借家管理人到着、警備会社職員到着後、住宅内（庭を含む）を点検した。3) その間、JICA事務所に盗難があった旨、電話連絡を行った。4) また、警察には借家管理人が即時連絡している。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	1) 当日夜から市内の日系人経営のホテルに投宿している。2) 同借家の契約解除を申し出、別の借家への移動準備を行っている。				

安全対策のポイント

- ・本人は単身赴任であり、一戸建住宅に入居していた。警備会社とは24時間警備体制で契約していたが、やすやすと住居に侵入されたことは、警備体制がまったく機能していなかったといわざるをえない。
- ・住居選定にあたっては、通常一戸建よりも集合住宅の方が安全性に優れていることは各方面でも確認されており、特に留守にしがちな単身赴任者の場合は集合住宅に住むことが良策であろう。

大 洋 州



発生国名	フィジー	犯罪の種類	忍込み（未遂）
発生場所 市町村名	ラウトカ市	市街地	自宅
発生日時	平成10年9月15日 午前3時頃～午前4時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <small>16歳</small> フィジー

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

深夜、友人と電話中、物音がするので外の様子をうかがったが、そのときは人影は認められなかった。数分後、やはり人の気配を感じ、様子をうかがっていると、閉めてあるカーテンが少しずつ聞き始めた。思い切ってカーテンを開け、犯人がベランダの鉄格子につかまって立っているのを確認（自宅は集合住宅の2階）。すぐに警察に通報。警察はすぐ来てくれたが犯人はすでに逃走。窓のモスキートネットに、犯行に使用したと思われる木の枝が残っていた。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	1名（推定）				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	カーテンを開け、「Who are you!」と叫んだ。				
被害者・勤務所毎の犯行時の対応	警察へ電話。				

安全対策のポイント

- ・在宅時に犯人が侵入する「居空き」犯罪の事例であるが、窓に設置してあった鉄格子（バグラーバー）により侵入を阻止した。また本人の対応も的確で即時警察へ通報し難を逃れている。
- ・寝室は通常「第三次防衛線」の役割を果たすが、賊の侵入時に「最後の砦」として籠城せざるを得ない可能性があり、強固な扉、カギ、サイレン付メガホン等アラーム機器、電話、無線機等通信機器等は最低限常備しておく必要がある。

発出国名	マーシャル	犯罪の種類	空巣
発生場所 市町村名	マジロ	市街地	自宅
発生日時	平成10年1月、2月中旬～3月、5月8～9日		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <small>住居者</small> マーシャル

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

〔1月〕帰宅後、部屋でくつろいでいると、台所で物音がし、行ってみると、16、17歳の男の子が侵入して鉢合わせした。彼は私の姿を見ると驚き、「sorry」と言って窓から逃げていった。台所の窓枠が外されていたが、盗まれたものはなし。この後、窓にスクリーンをつけた。


〔2月中旬～3月〕数回にわたり、玄関以外の外に通じるドアが内側から開けられているのを発見。施錠、スクリーン等チェックしたが侵入経路がわからず、玄関の錠を付け替えた。すべての窓に糸を張り、防犯ブザーを1カ所に付けたところ、一時おさまる。盗まれた物品も確認できずに終わった。施錠は毎日確認している。

〔5月〕午後7時45分帰宅。机の上のタバコ1箱がなくなっていた。チェックしたところ、バスルームの小窓に侵入の形跡を見つけ、防犯ブザーを付けるが、修理できず。午前10時～午後3時外出。帰宅後、寝室に置いていたショートパンツがなくなっていた。防犯ブザーの糸が外されていた。

凶器	無	種類		数量	
犯人	〔1月〕1名 〔2～3月〕不明 〔5月〕不明				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	タバコ1箱、トレーニングウェアのショートパンツ			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・職務 所等の犯行時の対応	スクリーン、防犯ブザー設置、カギの付け替え、管理人へ説明。				

安全対策のポイント

- ・何回にもわたって侵入あるいは侵入未遂事件に遭遇していることは、各事件ごとに何も対応していなかったか、対応しても「応急処置」的対応しかしなかったと思われる。
- ・住居侵入犯罪が日常茶飯事の大洋州島嶼国においては、確実な住居防犯は鉄則である。島嶼国特有の閉鎖性、排他性、馴れあい等日本人には不慣れな部分もあるが、防犯は命を守るためには不可欠であり、「強固な防犯」と「島民との共存」のバランスに留意しなければならない。

発生国名	マーシャル	犯罪の種類	居空き (未遂)
発生場所 市町村名	マジュロ市	市街地	自宅
発生日時	平成10年7月16日 午前6時50分頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女  マーシャル

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

何か物が落ちる音で目覚め、犯人と打ち合う。ベッドの上で起き、眼鏡をかけて犯人を凝視すると「I'm sorry. I'm sorry. My shirt wetting」と言い、私が「How come…」と言うと再度「I'm sorry!」と言い、入ってきたドアから出ていった。約5分後、再度ノックし、家へ入れてくれと頼んできたが当然断った。外はスコールが降っており、彼はびしょ濡れだった。酔っぱらっていたかは不明。リビングを歩いたようだが盗まれた物はない。雨やどり先を探しつつドアを開けた様子。計画的犯行とは思いがたい動揺ぶり、侵入口のドアの施錠は、はっきり閉めたとは断言しかねる。寝室とリビングの間のドアは開けていた。

凶器	無	種類		数値	
犯人	1名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害 (負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪 (品名・数値)				
	・物品損壊 (品名・程度)				
被害者の犯行時の対応	眼鏡をかけた。「How did you come in?」とつぶやいた。犯人には近寄らなかった。				
被害者・職務所轄の犯行時の対応	隣人、調整員、大家に報告。錠前の設置依頼。				

安全対策のポイント

- ・簡単に住居内に侵入され、寝室まで到達されている。これは外部から寝室に至る第一次、第二次、第三次防衛線がまったく役に立っていないことを証明するものであり、外部からの侵入を防ぐ施錠、アラームシステム等に問題があったことを示唆している。
- ・住居防犯の基本である各防衛線の防犯設備を再点検し、内カギを付ける等強固な対策が必要となるが、これも、本人の施錠忘れ等安全管理意識が欠如していればまったく役に立たない。

発生国名	マーシャル	犯罪の種類	居空き
発生場所 市町村名	マジュロ市	隊員連絡所	
発生日時	平成11年2月7日 午前10時15分頃～午前11時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <input checked="" type="checkbox"/> マーシャル

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

被害時、私は隊員連絡所の寝室で寝ていた。この日は男性隊員3名（私を含め）、女性隊員2名が宿泊しており、被害発生の前に男性隊員1人、女性隊員2人はテニスの練習に出かけていた。このとき、まだ私を含め男性隊員2名が隊員連絡所で寝ていたため、カギをロックせずに出て行った。前日の晩にリビングルームのテーブルの上に、財布、時計、タバコ、カギ、腕輪をまとめて置いていたが、朝11時すぎに起きたときには、何も荒らされた跡もなく、ただ財布、時計、タバコがなくなっていた。最後にテニスに行った隊員が10時15分頃出発。その後、起床11時までの間に玄関から何者かが侵入したと思われる。

凶器	無	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金	330ドル（日本円換算で約35,000円）			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	時計1、タバコ3本、財布1			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・職務所帯の犯行時の対応	通帳等も財布に入っていたため銀行口座を変更、連絡所入り口をオートロック式のカギで閉鎖するようにした。				

安全対策のポイント

- ・協力隊連絡所での犯罪。ほとんどの協力隊連絡所は宿泊設備を設置しており、JICAとしても住居防犯設備の充実・警備員の配置等安全管理には十分配慮しているが、そのスキをついた犯罪が発生しているのも事実である。
- ・本事例は、隊員が無施錠で寝ていたために「居空き」犯罪に遭っている。人が中にいるときの住居防犯は往々にして手薄になりがちであるが、犯罪被害の軽重を考えた場合、むしろ在宅中の防犯に重きを置くべきであり、施錠等も確実にを行うことが鉄則。「人任せ」の防犯ほど危険なものはないことを再認識すべき。

発生源名	ミクロネシア連邦	犯罪の種類	空巣
発生場所 市町村名	コロニア市	市街地	自宅
発生日時	平成10年10月13日 午前8時30分頃～午後10時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> ミクロネシア連邦

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

玄関のドアを何かを使い、開けて侵入。CDデッキとCD数枚を盗まれる。ドアのカギは二つあるが一つしかかけておらず、その軽率な行為をつかれた。その他は、何も手をつけておらず、CDデッキは1人で持つと手がふさがるため1人の犯行と思われる。

凶器	無	種類		数量	
犯人	1名（推定）				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）		CDデッキとCD数枚		
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	次の日、朝から警察に行き、事情聴取。				
被害者・職務所等の犯行時の対応	必ず二つのカギをかけ、さらに部屋のカギもかけている。				

安全対策のポイント

- ・世界中のJICA関係者が地域的偏向性なく一様に空巣被害に遭っている事実は、JICA関係者は専門家・協力隊員の区別なく「金持ち日本人」と見られ、犯罪の対象となっていることを如実に表している。
- ・特に途上国においては、日本人の身なり、所持品（所持金）等はその形状がどうであれ現地人の「垂涎的」であることには変わりはなく、相応の防犯対策を施すことは自明の理である。
- ・日本における財産犯罪の大部分は「遊ぶ金ほしさ」であるが、途上国では「生きる糧」を求めて犯罪に走り、たとえ生活用品、嗜好品、消耗品であろうが、それを求めて犯罪に入る例は枚挙に暇がない。

発生国名	パプア・ニューギニア	犯罪の種類	すり
発生場所 市町村名	ポートモレスビー市ボロコ地区	路上	
発生日時	平成10年12月15日 午前10時45分頃～午前10時50分頃の間		
被害者	派遣形態	協力隊調整員（配偶者）	女 <small>住居別</small> パプア・ニューギニア


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

道路を歩行中、スカートの後ろポケットに入れていたカードケースをすられる。人混みの中のことで、すられた後気がつくも犯人等わからず。後日、周辺路上にて免許証、キャッシュカードを拾得した男性が事務所に届けてくれた。金銭等の要求はなかった。

凶器	無	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金	日本円換算で約1,100円			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	運転免許証、銀行のキャッシュカード、名刺1枚			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応	当日、キャッシュカードの使用停止を銀行に申請。				

安全対策のポイント

・すり、ひったくり等の路上犯罪は世界中で頻繁に発生しており、その手口も特定できないほど多岐にわたっている。本事例の場合、「後ろポケット」に入れていたカードケースをすられているが、貴重品を「後ろポケット」に入れることが非常に危険であることは、海外のみならず日本においても常識である。安全対策の基本を根本から無視したことが引き起こした犯罪である。

発生国名	パプア・ニューギニア	犯罪の種類	屋内強盗
発生場所 市町村名	東ハイランド州ゴロカ市	市街地	ホテル
発生日時	平成10年12月21日 午前3時頃		
被害者	派遣形態	事務所員	男  パプア・ニューギニア


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

朝8時頃、出張先で滞在していたホテルの支配人から部屋に電話があり、午前3時頃強盗団にホテルが襲われ、金庫の中身も奪われたが、2枚のクレジットカードと国内線航空券の他に何を預けていたか問い合わせがあった（同ホテルのセーフティボックスとは、客が茶封筒に入れた貴重品を糊付けしてレセプションの大きい金庫に預けるもので、客ごとに個別の金庫ではない。豪州、パプア・ニューギニアでは案外このシステムが一般的である）。これに対して、現金1,600キナを預け入れていた旨回答した。ホテル側の話によると、客を装って宿泊していた強盗団5人組が深夜3時頃、ピストル2丁とショットガン1丁で支配人を脅し、レセプションの金庫にあったホテル側現金約5,000キナ、小切手1,000キナと客の預けていた現金等を奪い、ホテルの送迎バスに乗って逃走したとのこと。

凶器	有	種類	ピストル、ショットガン	数量	各2丁、1丁
犯人	5名				
被害内容	・現金	1,600キナ（日本円換算で約10,000円）			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	就寝中で気づかなかった。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	ホテルから警察へ提出される被害報告に、今回の1,600キナも含めて報告されることを確認し、写しの送付を依頼した。				

安全対策のポイント

- ・ホテルにおける犯罪事例は、大別して客室を狙うものとフロントを狙うもの、ロビーでの置き引き等に分類され、それぞれ防衛策は異なる。
- ・本事例の場合、フロントが狙われ「セーフティボックス」が被害に遭っているが、本事例のように貴重品を一括してホテルの金庫に保管するような場合はホテル側の管理責任を問うことはできるが、通常、「セーフティボックス」は個別金庫保管の形態であり、この場合ホテル側は場所を提供しているのみで管理責任は問われないのが通例である。
- ・ホテルのフロントを狙った犯罪は個々に防御する手立てではなく、警備がしっかりした上級ホテルを使用することくらいが注意点であろう。

発生国名	パプア・ニューギニア	犯罪の種類	屋内強盗（未遂）
発生場所 市町村名	東ハイランド州カインツ地区	自宅（ホテル内）	
発生日時	平成10年11月29日 午後9時10分頃		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男  パプア・ニューギニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

日曜午後9時10分頃、カインツ・ロッジ（専門家が長期契約しているホテル）に推定20余名の犯人集団が、裏側の金網フェンスを切り開いて侵入した。賊の一部は銃を、他はブッシュナイフを所持して覆面をしていた。賊は事務所レセプションを狙ったが9時に施錠をしてあったため侵入できなかった。次に賊は客室をノックして回り、ドアを開いた専門家宅の一部屋において隣室に押し入り、男女の客から、現金、衣類、靴、コンピュータ等を強奪した。女性が声を上げて逃げたため、賊の1人が追い、ブッシュナイフで顔面を切りつけ裂傷を負わせた。また、物音で職員住居から駆けつけた非番の警備長が物陰に潜む犯人に切りつけられ、頭部、足指等に重傷を負わされた。その後、近隣の人々が集まり、賊は逃走した。カインツ・ロッジは警察に通報を試みたが、夜間は結局連絡が取れず、翌朝になって連絡がとれ、朝8時すぎに警察が来て指紋などを採取していった。

本人はこのとき、隣室あたりで物音がしたり犬が異常に吠えたことから異状を感じて2階に上がり、窓から外をのぞくと銃を持った2人の姿を見たので、2階入口に新たに取り付けけた鉄格子扉を施錠して、入浴中の夫人に急いで寝室に入るよう伝え、すべての第三次防衛線の施錠を確認して退避し、翌朝までドアを開けて外に出るようなことはしなかった。

凶器	有	種類	銃、ブッシュナイフ	数量	多数（数は不明）
犯人	約20名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・職務所帯の犯行時の対応					

安全対策のポイント

- ・最近の治安の悪化傾向は全世界的なものであるが、特に大洋州においては犯罪が凶暴化・凶悪化してきている。パプア・ニューギニアにおいても例に漏れず、「ラスカル」と呼ばれる強盗団は銃器での武装化を進め、自動小銃を携帯している者まで出現している。
- ・本事例はホテル形式の住居を襲った強盗犯罪事例であるが、専門家の住居に関していえば防犯対策にぬかりはなく、また、襲撃時における対応も安全対策の基本を忠実に守っており、問題点は見受けられない。
- ・すべての防犯対策を講じた上でも強盗犯と相対した場合には「無抵抗」に徹し、身体への被害を防ぐ努力をすることは安全対策の基本である。

発生国名	パプア・ニューギニア	犯罪の種類	自動車強盗
発生場所市町村名	東ハイランド州アイヌラ地区	路上	
発生日時	平成10年10月19日 時刻午後8時30分頃～午後10時頃の間		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 国籍名 パプア・ニューギニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

カインツ・ロッジにて開催された短期専門家の選迎のための会食を終え、専門家は自宅のあるアイヌラに向け同ロッジを1台(紺色ランドクルーザーワゴン)で出発(同乗者なし)。アイヌラロードを走行中、後方から車輦(白いランドクルーザーピックアップ)が追走していることに気づく。しばらくして猛スピードで後方車輦に追い抜かれ、この際に若干不審感を抱いた。カインツからアイヌラまでの行程を2/3ほど走行したアイヌラ地区にて、少し前に追い越していったランドクルーザーピックアップが前方道路上で道をふさぐようにして停車しているのに気づいたが、引き返すことは困難であったためそのまま前進。2～3丁の散弾銃と思われるガンを手にした5人の強盗集団は横付けした車輦とともに専門家車輦を停車させ、専門家に降車するよう指示し、専門家が運転席から降車するとたちまち携帯無線機を奪い(関係者への通報を防ぐことが目的と思われる)、後部座席ドアから荷室に乗り込むように指示し、専門家はこれに従った。5人組は全員専門家車輦に乗り込み、専門家にどこから来たのかを問い専門家はそれに対してカインツ・ロッジからであることを答えた。白いランドクルーザーピックアップをその場に放置し、専門家車輦は強盗団の運転によりアイヌラロードをカインツ方面に引き返した。カインツ市街地付近に戻る(専門家は強盗団により荷室に伏せて寝るよう指示されていたが、荷室がせまかったため体を横に向けて床に寝る体勢を取り、窓から外を見ることはできなかったが、舗装路・未舗装路の道路状況だけでなく外部からの斜光により車輦が現在走行している位置をおおまかに把握していた)。このとき、カインツに戻ってきた専門家車輦を見た地元住人(男性3人)は、30分ほど前に専門家が同車輦を運転してカインツからアイヌラに向かうところを目撃していたため、パプア・ニューギニア人男性が乗車していることを不審に感じ警察に通報していた。カインツ市街地付近の道をしばらく迷いながら走り回った後、丘の上にあるカインツ・ロッジにたどり着く。1人が、ゲートフェンス越しにセキュリティガードに空室がないか聞いたが、

彼らが乗ってきた車が専門家のランドクルーザーであることに気づいたセキュリティは、フロントがすでに閉まっており泊まれる部屋もないと言いつつ、ゲートは開けなかった。強盗団はロッジ敷地内への侵入をあきらめ、再びカインツ市街地へ戻ることにした。このときセキュリティは、強盗団との問答の最中あるいは強盗団が引き返す際に車輦荷室にいる専門家の姿を確認しており、車輦が立ち去った後、同ロッジのアパートに居住する別の専門家にこのことを報告した。報告を受けた専門家は夫人に無線で連絡を取り、同じくロッジに宿泊していた他の専門家とともにカインツ警察署へ向かった。専門家は、強盗団から妻子の有無、勤務先や住居の場所を聞かれたが、あいまいに答え、特にその後追まされることもなかった。その後、住民(上述の地元男性3名)からの通報を受け巡回していた警察パトカーが停車中のランドクルーザーに不審を感じ中を確認しようと徐行しながら横を通過したため、車輦をリターンさせハイランドハイウェイを西(コロカ)方面へ向けて急発進させた。強盗団の運転する専門家車輦は、追従するパトカーを振り切るためハイランドハイウェイを100km以上の猛スピードで走行し、パトカーとの攻防に備え専門家が横たわっていた荷室に2人が散弾銃を持って移動してきたが、双方の車間距離は縮まらず、発砲することはなかった。途中ハイランドハイウェイをオカバ方面の未舗装路へ左折し、カインツから25～30分間走行したところで、強盗団は車輦を停車させた。車輦による逃走をあきらめ停車させたと思われる。強盗団は専門家を荷室から降ろし、ここからそのまま前方へ運転していくことを指示し、車輦にあった専門家のカバン・携帯無線機・車載用ブースターケーブルおよび牽引ロープを手にしてその場から山中に立ち去っていった。専門家は、指示どおりそのままの方向へハザードランプを点灯させながら低速で車輦を走らせ、2～3分走行したところで前方からパトカー3台(応援車輦が2台加わっていた)が向かってくるのを発見、警察に強盗団と間違えられて撃たれないよう車輦を道路脇に停車させ、両手を挙げて降車した。

凶器	有	種類	散弾銃	数量	2、3丁
犯人	5名				
被害内容	・現金	500～700キナ (日本円換算で約30,000～40,000万円)			
	・暴行傷害(負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪(品名・数量)	クレジットカード、銀行カード、小切手帳、書類、携帯無線、ブースターケーブル、牽引ロープ			
・物品損壊(品名・程度)					
被害者の犯行時の対応					
被害者事務所轄の犯行時の対応					

安全対策のポイント

- ・パプア・ニューギニアで急増しているカージャック犯罪の事例。犯人は強奪した車輦により住居強盗を両策していた模様である。事件は被害者の機転ある対応と訓練された警備員の対応により、被害を最小限度に食い止めることができ、身体への被害のない結末で終わった。
- ・カージャック犯罪はほとんど例外なく銃器で武装し、車輦を強奪することが最終目的であり、目的を達成すればそれ以外の危害は加えないのが特徴であるため、「無抵抗」に徹し犯人のいいなりに動けば身体への危害は99%防げるといのが専門家の一致した見解である。
- ・移動はできるだけ昼間に行い、夜間の外出は極力避けることもカージャックに遭わないための防衛手段である。本例では夜間に1人で1台の車輦で移動しており犯人からみれば格好の標的である。

発生国名	バブア・ニューギニア	犯罪の種類	空巣
発生場所 市町村名	ポートモレスビー市	市街地	自宅
発生日時	平成10年9月21日 午前9時頃～午後4時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> バブア・ニューギニア


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

自宅の洗濯機が故障したため、修理を大家に頼んだところ、必ず連絡するよう頼んだにもかかわらず連絡なしで入夫が留守中に訪問、部屋のカギを開け修理をしていった。帰宅後、修理した旨のメモを見てから室内を確認すると、ベッドルームにおいてあった日本の週刊誌（女性のモード写真があるもの）が盗まれていた。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）		日本の週刊誌		
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	その他の携行品が盗難されたか確認。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	事務所に連絡のみ。				

安全対策のポイント

・同国で禁止されているいかがわしい写真が掲載された週刊誌を持っていたことも問題であるが、修理人が自宅のカギを持っていたことのほうがはるかに重大な問題である。他人が勝手に出入りできる住宅では安心した生活は送れないことは明白である。たとえ大家であっても、自宅の合カギを持っている状態では安全管理は不可能。大家の了解を得てすべてのカギを付け替え、カギは自分の家族しか持たないことを徹底する。

発生国名	パプア・ニューギニア	犯罪の種類	車上狙い (未遂)
発生場所 市町村名	ポートモレスビー市ゴードンズ	市街地	路上
発生日時	平成10年8月1日 午前11時分頃		
被害者	派遣形態	シニア協力隊員	男  パプア・ニューギニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

11時頃、家族でマーケットに買い物に行った。私1人運転席に残り、家族がマーケットに行った。しばらくして窓のところ(右側)で1人の男がゴチャゴチャ言っているのを窓を少し下げ「なんだ」と言うと、タイヤ(後ろ)を指し「タイヤがはなれている」と言った。ドアを開け半身をのり出しタイヤを見た瞬間、「バキバキ」とすごい音が助手席側でして、振り返ると、若い男が助手席のドアのところからはがねの板のような物を引き抜くところだった。私と目が合うとあわてて立ち去った。助手席の足もとには、奥のピルム(民族工芸品の袋)を置いてあったので、それを盗もうとしたらしい。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	2名				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害(負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪(品名・数量)				
	・物品損壊(品名・程度)				
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応	歩いて逃げたので、近くの人につかまえてくれと言ったが「自分でつかまえろ」と言われ、がっかりした。				

安全対策のポイント

- ・同隊員は他のJICA関係者と比較して突出した犯罪被害を受けており、同マーケットにおいても過去2回も被害に遭っている。再三の事務所からの注意にもかかわらず被害に遭っているのは、安全管理意識の欠如以外の何ものでもない。徹底的な安全管理意識の喚起が必要。
- ・他の関係者に比して突出した被害回数にあるということは、他の者とは異なる何か狙いやすい目印があることも考えられる(他とは異なる立ち振る舞い、車種、車の色、車内に物を置く、車内が容易に見える等)。再点検が不可欠。

発生国名	パプア・ニューギニア	犯罪の種類	かっぱらい
発生場所 市町村名	ポートモレスビー・ゴロカ間	空港	
発生日時	平成10年6月8日		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> パプア・ニューギニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

ポートモレスビー・ジャクソン新空港でチェックイン時荷物を2個預ける（預けたくなかったが、機内持込不可とのことで、料金を支払った上で）。ゴロカ到着後、荷物のうち1個が見当たらず。

凶器	無	種類		数値	
犯人	不明				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数値）		トラベルバッグ、コンピュータソフトウェア多数、衣類、書類		
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	エアニューギニアへ問合せ。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	エアニューギニア・カウンターへ抗議（ゴロカ）。各方面からも問合せももらっている。				

安全対策のポイント

- ・パプア・ニューギニアにおける航空手荷物紛失事故はこれまで皆無であり、唯一カギを壊され中の物を若干抜き取られた事件が一件報告されているのみである。
- ・チェックイン時に預ける手荷物の紛失、破損事故は全世界的に恒常的に発生している。貴重品、重要書類等は極力機内持込手荷物に入れること。

発生国名	バブア・ニューギニア	犯罪の種類	車上狙い
発生場所 市町村名	Mt. Hagen	市街地	市場
発生日時	平成10年5月30日 午前8時頃～午前8時30分頃の間		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 国籍名 バブア・ニューギニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

1週間の出張を終えて戻る日の朝、ホテルのチェックアウトを済ませ、すべての荷物を車に積み込み（我々は3人、C/P、ドライバー、私）そのまま帰任する状態でマーケットに立ち寄り、野菜を購入して車に戻ったところ、後部座席に置いてあった私とドライバーの小さいカバンが盗まれていた。2度確認したので確かだが、ドアはロックされていた。また、車に戻ったときもドアはロックされていた。持ち運びに手間がかかり目立つ大きなカバンやバトロールボックスはそのままだった。状況から少数（1～2名）の犯人、わずかな時間のスキ（10～11分）に何らかの方法でロックされていたドアを開け（ドアおよびロックの周辺にはこじ開けた様子、形跡はない）小さなカバンだけをとって、徒歩で逃走したものと考えられる。

凶器	不明	種類		数値	
犯人	不明				
被害内容	・現金	1200キナ（日本円換算で約80円）※ドライバー所持分			
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数値）	ラップトップコンピュータ（プロジェクト機材）、カメラ、衣類（私物）、ドライバーのカバン（衣類、日用品）			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応					
被害者・職務所轄の犯行時の対応	マーケット向かいのポリスステーションに行ったが土曜のため閉まっていたため、街中のステーションに出かけて、被害の届けを出した。				

安全対策のポイント

- ・車上狙いの被害が一番多い事例は、車中に残っていた物をとられるケースである。窓ガラスを割ったり、巧妙な手口でロックを外す等、手口は異なるが、ほとんど例外なく外から見える部分に物を置いていたことが犯行につながっている。
- ・防止策は、①外から見えるところには物を置かない、②各種ロックは確実に施錠する、③スモークシート等で外から中を見えにくくする等であろう。

発生国名	パプア・ニューギニア	犯罪の種類	居空き
発生場所 市町村名	メンディ	市街地	自宅
発生日時	平成10年4月17日 午前11時頃～午後12時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	男 <small>任意</small> パプア・ニューギニア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】
<p>自宅で部屋の掃除をしていたところ、気づかぬうちに電気コンロが盗まれていた。被害時、ドアのカギはかけてなく、自分は部屋の中にいた。</p>

凶器	無	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）	電気コンロ			
	・物品損壊（品名・程度）				
被害者の犯行時の対応	気づいて、外を見渡したが、人の姿はなかった。				
被害者・事務所等の犯行時の対応	警察に届け出た。				

安全対策のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・在宅掃除中の盗難事件の事例であるが、問題点はいくつか指摘できる。すなわち、①出入口のドアのカギをかけていなかった、②出入口の開閉に注意が向いていなかった等。 ・安全管理意識を再度喚起すること、玄関、その他必要のないカギはすべて施錠しておく等の対策が必要。

発生国名	サモア	犯罪の種類	忍込み
発生場所 市町村名	アピア市	郊外	自宅
発生日時	平成10年8月12日 午前4時頃		
被害者	派遣形態	派遣専門家	男 <input checked="" type="checkbox"/> サモア

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

家族一同就寝中、何者かが侵入した模様。犬が吠えたが起きなかった。朝、家の外にカード、車のカギが散乱し、ジュースの紙ボトル、ケーキの残りがあったので、気がついた。後で調べたらペランダのグラスルーバーが2枚外されており、そこから侵入したことがわかった。

凶器	無	種類		数量	
犯人	1名(推定)				
被害内容	・現金	20タラ(日本円換算で約1,000円)			
	・暴行傷害(負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪(品名・数量)	ケーキ1、ジュース1、ベルト1、財布			
	・物品損壊(品名・程度)				
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応	大家(隣に住んでいる)に任せた。				

安全対策のポイント

- ・日本人にとっては盗みの対象に値しないものが現地人にとっては高価な物となる例は枚挙に暇がない。食料品、日用雑貨、自転車、等々。日本と現地の「異文化の差」を認識し、それに対応する努力も必要「郷に入れば郷に従え」である。
- ・住居防犯設備については、JICAも従来から鋭意実施しているところであり、事務所に相談があれば可能な限り対応している。

発生国名	ソロモン諸島	犯罪の種類	忍込み（未遂）
発生場所 市町村名	ホニアラ市	市街地	自宅
発生日時	平成10年8月 午前3時30分頃～午前4時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女 <input type="checkbox"/> ソロモン諸島

被害者の状況【犯行の手口・被害の状況】
<p>セキュリティネットを切断する音に気づいて、室内の電気と音楽をつけた後、そのまま床につき、翌朝、台所のセキュリティネットが切断されていることに気づいた。</p>

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金				
	・暴行傷害（負傷部位・全治所要日数）				
	・物品略奪（品名・数量）				
	・物品損壊（品名・程度）		セキュリティネット切断		
被害者の犯行時の対応	室内の電気と音楽をつけた。				
被害者・職務 所帯の犯行時の対応	隣人に、被害に遭ったことを伝えた。セキュリティネット張替。				

安全対策のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・大洋州地域においては「空巣」「居空き」忍込み等の住居侵入犯罪が多数を占める特徴がある。 ・本事例では、住居防犯もしっかりしており、本人も寝室から出ず危険回避をしており事なきを得たが、セキュリティネットが切断されたため、今後はさらに強固な鉄格子（バーグラーパー）の取り付け等の対応が要求される。

発生国名	トンガ	犯罪の種類	空巣
発生場所 市町村名	ヌクアロファ	市街地	自宅
発生日時	平成11年3月14日 午前11時頃～午後5時頃の間		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊	女 <small>住居者</small> トンガ


被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

被害日は日曜。トンガ王国では、安息日のため教会に行き、休息をする日にあたる。しかし、そんな真昼間に起こった事件である。私は自転車に乗って朝11時頃隊員連絡所に行き、夕方5時自宅へ戻った。ドアを開けてみると、リビングの机の上がぐちゃぐちゃになっていた。変だなあとよく見るといつも開いているはずのカーテンが閉まっており、きちんとカギをかけておいた裏ドアが開いていた。おそろおそろ寝室を見ると2重カギのドアが壊され開いており、ベッドの上も床も足の踏み場がないほど、物が散乱していた。恐くなり悲鳴を上げ助けを求めた。犯人は裏の窓のセーフティバーを取り、モスキートネットをはがし、ルーバーを2枚外しての侵入。寝室の中のあらゆるものを開いて、ひっくり返し何かを探していたようだった。冷蔵庫の中からお菓子をとり冷やしてあった飲物を飲んでいたり冷やしておいたアルコールには手を出さず、食べかけのアイスクリームやソーセージを取っていたことから子供の犯行ではないかと思う。

凶器	不明	種類		数量	
犯人	不明				
被害内容	・現金	日本円換算で約240円			
	・暴行傷害 (負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪 (品名・数量)	CDラジカセ1、CD1枚、カセット1、プラフノン、バッグ2、懐中電灯1、フルーツ6、チョコレート3、アイスクリーム1個、炭酸飲料1本、ソーセージ4、電熱コイル1、ライター1、(約35,000円相当)			
・物品損壊 (品名・程度)	ドアカギ 1個				
被害者の犯行時の対応					
被害者・事務所等の犯行時の対応	警察へ連絡。指紋検出依頼。				

安全対策のポイント

- ・空巣犯罪の防犯対策は、住居防犯の基本に従って防犯設備を強固にする以外に対策はない。JICAは、住居防犯対策については、警備員の備上も含め申請があれば可能な限り対応しており、その適応範囲も従来にも増して拡大している。
- ・本事例の場合、安全と思われていたセーフティバーを外して侵入しており、より強固な鉄格子の設置が不可欠であるが、壊されたカギの形状・強度も再点検する必要がある。
- ・途上国における財産犯罪は、その目的物が日本では想像つかないものが対象となることが多々あり、生活用品 (くし、歯ブラシ等)、嗜好品 (菓子、酒類等) までもが犯罪の対象となることがある。

発生国名	トンガ	犯罪の種類	屋内強盗
発生場所 市町村名	ハジレバ	市街地	友人宅
発生日時	平成10年12月11日 午前4時頃		
被害者	派遣形態	青年海外協力隊員	女  トンガ

被害の状況【犯行の手口・被害の状況】

朝4時頃物音がして目が覚めた。人が動いていて友人が起きたと思っていた。ただ物音が私の部屋のカギのあたりから始めて、そっと目を開いたら、ドアが少し開いていて人影が見えた。寝る前にドアをロックしたのに変だと思い「誰？」と言ったら賊は突然部屋に侵入。私の顔を押しえつけて動かないようにした。叫んだつもりだがよくわからない。もう1人の犯人が呼んだのか、バッグを見つけたからなのか、犯人は逃げていった。眼鏡を外していて犯人がどんな人物かわからない。逃げていった後、ベッドにナイフが残されていた。電話線は切られていたため、連絡は隣の家に借りた。

凶器	有	種類	ナイフ	数量	1
犯人	2名(推定)				
被害内容	・現金	日本円換算で約400,000円			
	・暴行傷害(負傷部位・全治所要日数)				
	・物品略奪(品名・数量)	タバコ1、バッグ、腕時計			
	・物品損壊(品名・程度)				
被害者の犯行時の対応	犯人に押しえつけられて何もできなかった。叫んだくらい。				
被害者・職務 所等の犯行時の対応	調整員に連絡。警察にも連絡。				

安全対策のポイント

在宅中の侵入盗犯罪は、その多くが夜間就寝中に発生しており、住居防犯対策の基本である「在宅中の防犯」には特に注意する必要がある。基本的には第一次・第二次・第三次防衛線の強化であり、外扉、門扉、入口、鉄格子、カギ等を強固にする必要がある。また、不幸にも犯人が侵入してきた場合には、可能な限り「無抵抗」に徹し、身体への被害を防ぐことも忘れてはならない。